# 平成 30 年度
# ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

**試掘調査**

岡田遺跡（第 31 ～ 34 次）
小貫山遺跡（第 2 次）
上馬場遺跡（第 5 次）
地蔵根遺跡（第 3・4 次）
遠原遺跡（第 4・5 次）
平磯長堀南遺跡（第 2 次）
市毛上坪遺跡（第 20 ～ 24 次）
虎塚古墳群（第 12 次），北谷遺跡（第 3 次），中根北谷北遺跡（第 2 次）
高野冨士山遺跡（第 12 次）
磯合古墳群（第 4 次）
浅井内遺跡（第 2・3 次）
天王前遺跡（第 6・7 次）
向野A遺跡（第 5 次）
黒袴遺跡（第 7 次）
峪遺跡（第 1 次）
市毛本郷坪遺跡（第 9 次）
西塙遺跡（第 12 次）
君ヶ台遺跡（第 12・13 次）
原の寺遺跡（第 1 次）
堀口遺跡（第 29 次）
市毛下坪遺跡（第 14 ～ 17 次）
松原遺跡（第 6 次）
田宮原Ⅰ遺跡（第 1 次）

本調査

市毛上坪遺跡（第 19・25 次）

2019

ひたちなか市教育委員会
公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

1　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡遺物出土状況

2　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡ピット 2 遺物出土状況

# 序　文

ひたちなか市は関東平野の北端部にあたり，茨城県の中央部からやや北東に位置し，那珂川河口部左岸の人口約 16 万人の街で，県都水戸市に隣接しています。標高 30 m 前後の起伏の少ない平坦な台地で，台地を浸蝕して那珂川やその支流の中丸川等の小河川が流れています。これらの河川の流域や台地上には，肥沃な田畑や宅地などが広がっています。

当市の東側は太平洋に面して約 13 ｋｍの海岸線が続き，那珂川などの河川流域の台地上は，原始・古代から人々の生活の場として栄え，３百数十箇所の集落跡・古墳・城館跡などの遺跡が確認されています。

なかでも古墳時代の埴輪づくりの工場とされる馬渡埴輪製作遺跡，装飾壁画で知られる虎塚古墳はいずれも国の史跡指定を受け，市を代表する遺跡として多くの市民に知られております。

このように，ひたちなか市は全国に誇れる文化遺産に恵まれる一方，毎年住宅等の開発行為が活発に行われており，やむを得ぬ理由で失われていく遺跡の記録保存を図るため，事前に確認調査等を実施しております。

今年度も，ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託し，市内の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。本書はこれらの確認調査等の記録をまとめたものであり，それぞれの調査は小規模なものではありますが，毎年の調査の積み重ねにより，多くの成果を得ることができました。

最後になりますが，快く調査のご承諾をいただきました地権者様や，調査に参加されました皆様に感謝申し上げますとともに，調査や本書の作成にご指導，ご協力を頂きました関係各位の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 31 年３月

ひたちなか市教育委員会
教育長　野 沢　恵 子

# 例　言

1　本書は，平成 30 年度国費補助事業として，ひたちなか市教育委員会の委託を受けて，公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書は，平成 30 年 1 月から 12 月にかけて実施された発掘調査についての報告であり，岡田遺跡，小貫山遺跡，上馬場遺跡，地蔵根遺跡，遠原遺跡，平磯長堀南遺跡，市毛上坪遺跡，虎塚古墳群，北谷遺跡，中根北谷北遺跡，高野冨士山遺跡，磯合古墳群，浅井内遺跡，天王前遺跡，向野 A 遺跡，黒袴遺跡，峪遺跡，市毛本郷坪遺跡，西塙遺跡，君ヶ台遺跡，原の寺遺跡，堀口遺跡，市毛下坪遺跡，松原遺跡，田宮原 I 遺跡の計 25 遺跡について，38 件の試掘・確認調査を実施し，市毛上坪遺跡，岡田遺跡の計 2 遺跡について，4 件の本調査を実施した。調査期間等は 2 ～ 3 頁一覧表のとおりである。そのうち，岡田遺跡（第 35 次），市毛上坪遺跡（第 26 次）の本調査分については，資料整理期間の都合により来年度刊行の報告書に掲載することとした。なお，中根北谷北遺跡，北谷遺跡，虎塚古墳群は，中根の荒谷地区の畑地帯総合整備事業に伴う試掘調査であり，今回は平成 27 ～ 29 年度の 3 か年調査計画の第 3 年度の調査報告である。

3　発掘調査および整理報告は，ひたちなか市教育委員会文化財室の指導のもとに，公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり，組織は次のとおりである。

| | | |
|---|---|---|
| 理　事　長 | 永盛　啓司 | |
| 副 理 事 長 | 須藤　雅由 | |
| 常 務 理 事 | 鈴木　隆之　　横須賀　重夫 | |
| 理　　事 | 杉山　和子　　大和田　健　　綱川　正　　鈴木　一成　　加藤　恭子　　福地　佳子 | |
| 監　　事 | 武藤　猛　　安　智範 | |
| 文化課<br>文化財調査<br>事務所 | 参　　事 | 鈴木　素行 |
| | 課　　長 | 小泉　裕 |
| | 課　長　補　佐 | 佐々木　義則 |
| | 係　　長 | 稲田　健一 |
| | 嘱　　託 | 菊池　順子 |

4　発掘調査の従事者は次の通りである。

調査員：佐々木義則

調査補助員：青木千歌子，榎澤由紀江，海老原四郎，岡野政雄，小貫栄子，海後晴美，助川諒，坪内治良，中嶋順子，廣水一真，矢野徳也，山田梨央，渡辺恵子

5　整理作業及び本書の作成に従事したものは，次の通りである。

稲田健一，照沼沙保里，榎澤由紀江，小貫栄子，海後晴美，菊池順子，桐嶋美子，後藤みち子，佐々木義則，佐藤富美江，助川諒，鈴鹿八重子，鈴木素行，中嶋順子，西野陽子，矢野徳也，山田梨央

6　本書は，佐々木義則が編集した。

7　本書の執筆と分担は以下のとおりである。

鈴木素行（弥生時代以前の遺物）　稲田健一（古墳時代の遺物）　矢野徳也（岩石同定）　佐々木義則（左記以外）

8　発掘調査の出土資料は，ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。

9　本書の作成にあたっては，次の方々にご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50 音順・敬称略）

（株）安住，飯村繁，飯村清一，飯村透，飯村まゆみ，（株）池田山エステート，磯崎俊良，打越栄，雲類鷲公枝，雲類鷲つや子，江幡照男，大串幸二，大塚真人，大友規至，大和田重次，大和田良子，岡﨑辰徳，岡﨑礼子，小野瀬邦子，金光和紀，川﨑一郎，川崎敬一，川崎純徳，栗田智昭，黒澤誠一，黒澤千恵子，軍司文子，軍司正嗣，軍司美奈子，ケイアイスター不動産（株），小池文子，小石川佳正，五位渕裕，小松崎広行，小松孝弘，昆野伝，昆野弥，（株）サトウエージェンシー，白土拓弥，進藤大輔，杉山一樹，鈴木陽大，鈴木佳子，住谷光男，田村一真，照沼三夫，照山久兵衛，飛田悦子，冨田あさみ，西野勲，西野滋，西野光，西野博行，（有）根崎工務店，芳賀貴則，一建設（株），塙健一，（株）ビジョナリー，平野恵子，平野里子，平野寿人，ベニヤ商事（株），三木保，（有）水戸不動産，（有）三井考測，諸根洋，諸根好男，安紀美江，安貞訓，安庄多，安進，安次男，安正機，柳橋秋盛，柳橋馨，山外功太郎，山縣恵子，山方義一，大和直輝，（有）ユーハイム，渡辺賢人

10　事務局は，ひたちなか市教育委員会総務課文化財室内に置き，組織は次のとおりである。

| | | |
|---|---|---|
| 総務課<br>文化財室 | 課　　長 | 井上　亨 |
| | 文化財室長 | 千葉　美恵子 |
| | 主　　事 | 照沼　沙保里 |

# 目　次


Ⅰ　概要　1

Ⅱ　試掘調査報告　4

**1　岡田遺跡**　4

（1）第 31 次調査報告　4　（2）第 32・33 次調査報告　5

（3）第 34 次調査報告　6

**2　小貫山遺跡**　7

（1）第 2 次調査報告　7

**3　上馬場遺跡**　7

（1）第 5 次調査報告　7

**4　地蔵根遺跡**　8

（1）地蔵根遺跡第 3 次　8　（2）地蔵根遺跡第 4 次　8

**5　遠原遺跡**　9

（1）第 4 次調査報告　9　（2）第 5 次調査報告　12

**6　平磯長堀南遺跡**　13

（1）第 2 次調査報告　13

**7　市毛上坪遺跡**　14

（1）第 20 次調査報告　14　（2）第 21 次調査報告　14

（3）第 22 次調査報告　14　（4）第 23 次調査報告　16

（5）第 24 次調査報告　16

**8　虎塚古墳群，北谷遺跡，中根北谷北遺跡**　19

（1）虎塚古墳群第 12 次・北谷遺跡第 3 次・

中根北谷北遺跡第 2 次調査報告　19

**9　高野冨士山遺跡**　22

（1）第 12 次調査報告　22

**10　磯合古墳群**　23

（1）第 4 次調査報告　23

**11　浅井内遺跡**　25

（1）第 2 次調査報告　25　（2）第 3 次調査報告　25

**12　天王前遺跡**　26

（1）第 6 次調査報告　26　（2）第 7 次調査報告　27

**13　向野 A 遺跡**　27

（1）第 5 次調査報告　27

**14　黒袴遺跡**　29

（1）第 7 次調査報告　29

**15　峪遺跡**　29

（1）第 1 次調査報告　29

**16　市毛本郷坪遺跡**　30

（1）第 9 次調査報告　30

**17　西塙遺跡**　31

（1）第 12 次調査報告　31

**18　君ヶ台遺跡**　32

（1）第 12 次調査報告　32　（2）第 13 次調査報告　33

**19　原の寺遺跡**　34

（1）第 1 次調査報告　34

**20　堀口遺跡**　34

（1）第 29 次調査報告　34

**21　市毛下坪遺跡**　35

（1）第 14 次調査報告　35　（2）第 15 次調査報告　36

（3）第 16 次調査報告　37　（4）第 17 次調査報告　38

**22　松原遺跡**　38

（1）第 6 次調査報告　38

**23　田宮原 I 遺跡**　39

（1）第 1 次調査報告　39

Ⅲ　本調査報告　40

**1　市毛上坪遺跡第 19 次調査報告**　40

（1）調査の経過　40　（2）住居跡　40　（3）土坑　48

（4）調査区出土遺物　50

**2　市毛上坪遺跡 25 次調査報告**　52

（1）調査の経過　52　（2）住居跡　52　（3）溝跡　56

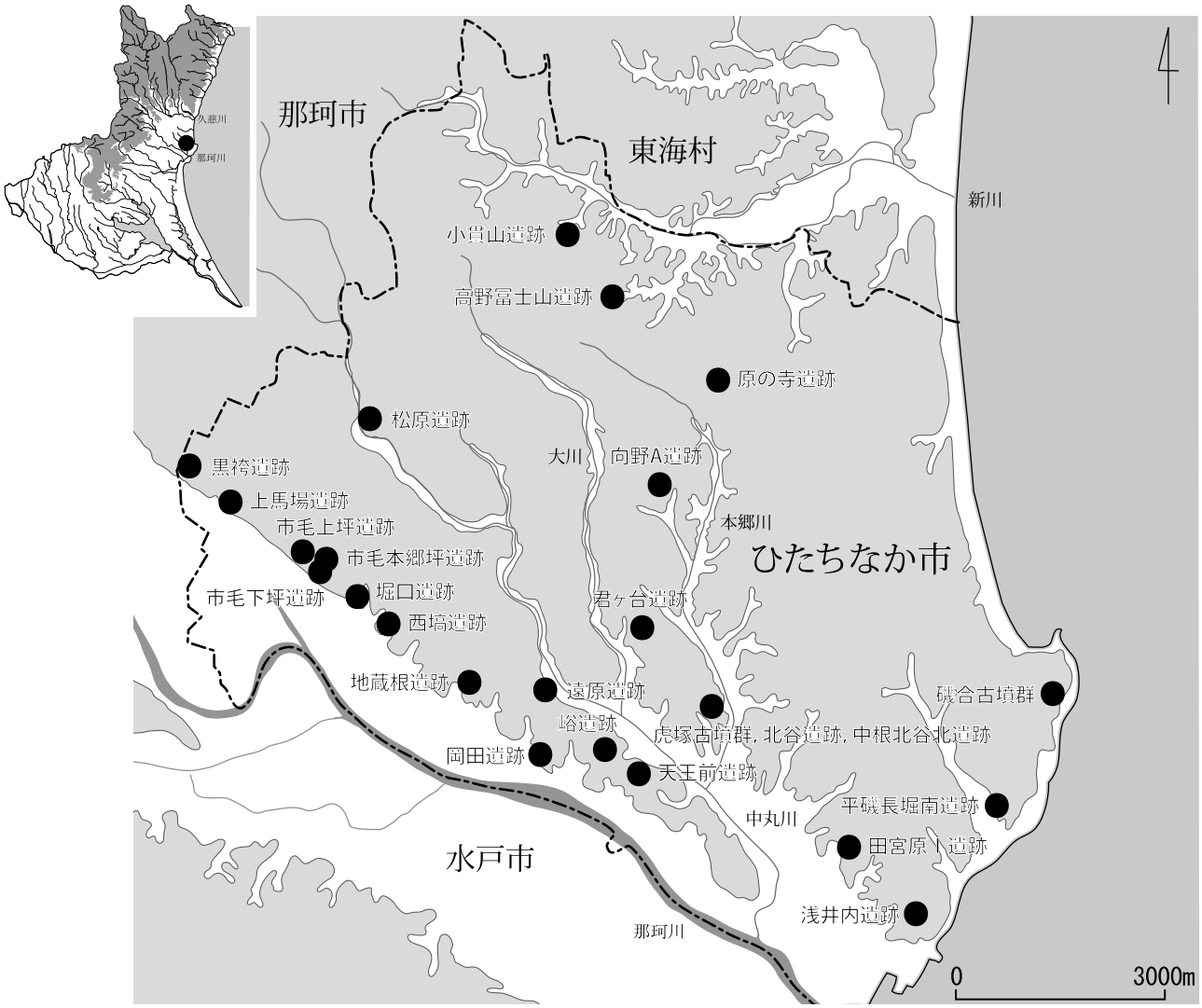
（4）道跡　56　（5）土坑　56　（6）調査区出土遺物　57

# Ⅰ　概　要

ひたちなか市は，茨城県の中央部に位置し，面積99.96㎢，人口約16万人を擁する地方中心都市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を発し，茨城県のほぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり，古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は，この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・本郷川により開析され，小支谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は，近世まで真崎浦という入り江であったが，現在は広く水田化され，東海村との境となっている。

現在市内には，約300か所以上の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み，周知遺跡内における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり，そうした事態に対応すべく，昭和54（1979）年から，国・県の補助を受け，市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり，市域の埋蔵文化財の全体的状況を知る上で，その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から，市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社（現公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社）に委託されるようになり，公社が主体となり実施されるようになった。平成30年は，25ヵ所の遺跡において試掘調査38件，2ヵ所の遺跡において本調査4件が実施され，市毛上坪遺跡における古墳時代住居跡の調査や，岡田遺跡における古墳時代後期住居跡等の成果を得ている。




第1図　調査遺跡の位置

**第 1 表　平成 30 年市内遺跡発掘調査一覧**

| No. | 遺跡名 | 調査次数 | 所在地 | 調査期間 | 調査原因 | 調査種別 | 対象面積 | 調査面積 | 主な遺構 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 岡田遺跡 | 31 次 | 三反田字塙 3503 番 1 ほか | 1 月 10 ～ 13 日 | 個人住宅 | 試掘 | 540 ㎡ | 29 ㎡ | 溝跡 1 条，土坑 1 基 | 縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，陶磁器 |
| 2 | 市毛上坪遺跡 | 19 次 | 市毛字上坪 1194 番 1 | 1 月 11 日～ 2 月 7 日 | 個人住宅 | 本調査 | 93 ㎡ | 91 ㎡ | 住居跡 4 基（古墳 2，平安 2），土坑 9 基，ピット 7 基 | 土師器，須恵器，鉄製品，石製品 |
| 3 | 小貫山遺跡 | 2 次 | 高野字板宮 2281 番 16 ほか | 1 月 16 日 | 個人住宅 | 試掘 | 457 ㎡ | 32 ㎡ | なし | なし |
| 4 | 上馬場遺跡 | 5 次 | 津田字塙台 3053 番ほか | 1 月 30 ～ 31 日 | 個人住宅 | 試掘 | 309 ㎡ | 24 ㎡ | ピット 1 基 | なし |
| 5 | 地蔵根遺跡 | 3 次 | 勝倉字地蔵根 2825 番ほか | 2 月 13 日 | 宅地造成 | 試掘 | 975 ㎡ | 27 ㎡ | なし | なし |
| 6 | 遠原遺跡 | 4 次 | 金上字相対 1202 番 7 | 2 月 27 日～ 3 月 7 日 | 集合住宅 | 試掘 | 673 ㎡ | 59 ㎡ | 住居跡 1 基 | 縄文土器，須恵器 |
| 7 | 平磯長堀南遺跡 | 2 次 | 平磯町字長堀 4964 番 | 3 月 6 ～ 8 日 | 個人住宅 | 試掘 | 320 ㎡ | 25 ㎡ | 溝跡 1 条，ピット 1 基 | なし |
| 8 | 市毛上坪遺跡 | 20 次 | 市毛字上坪 1209 番 | 3 月 14 日 | 道路 | 試掘 | 62 ㎡ | 14 ㎡ | 住居跡 2 基，溝跡 1 条 | 旧石器，縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器 |
| 9 | 虎塚古墳群<br>北谷遺跡<br>中根北谷北遺跡 | 12 次<br>3 次<br>2 次 | 中根 4625 番ほか<br>中根 4465 番ほか<br>中根 4401 番 1 ほか | 12 月 5 日～ 3 月 25 日 | 畑地整備 | 試掘 | 30,727 ㎡ | 1,950 ㎡ | 古墳 1 基，住居跡 10 基（平安 6），溝跡 4 条，土坑 4 基，ピット 11 基 | 縄文土器，土師器，須恵器，陶磁器，鉄製品 |
| 10 | 高野富士山遺跡 | 12 次 | 高野字冨士山 1695 番 1 | 4 月 10 ～ 11 日 | 個人住宅 | 試掘 | 454 ㎡ | 40 ㎡ | 住居跡 1 基（古墳 1），土坑 1 基，ピット 4 基 | 土師器，須恵器 |
| 11 | 磯合古墳群 | 4 次 | 磯崎町字磯合 3747 番 3 ほか | 4 月 10 ～ 24 日 | 集合住宅 | 試掘 | 941 ㎡ | 95 ㎡ | 古墳 1 基 | 土師器 |
| 12 | 浅井内遺跡 | 2 次 | 浅井内 13081 番 1 | 4 月 17 ～ 20 日 | 個人住宅 | 試掘 | 333 ㎡ | 42 ㎡ | 溝跡 1 条 | なし |
| 13 | 天王前遺跡 | 6 次 | 三反田字天王前 5142 番 2 | 5 月 11 日～ 17 日 | 個人住宅 | 試掘 | 532 ㎡ | 50 ㎡ | 溝跡 2 条，土坑 4 基 | 縄文土器，土師器，須恵器，瓦質土器，陶器 |
| 14 | 遠原遺跡 | 5 次 | 金上字大平 1220 番 | 5 月 11 日～ 17 日 | 福祉施設 | 試掘 | 999 ㎡ | 98 ㎡ | 住居跡 5 基（古墳 3），土坑 2 基，ピット 4 基 | 縄文土器，弥生土器，土師器，石器 |
| 15 | 岡田遺跡 | 32 次 | 三反田字八幡 3567 番 5 | 5 月 22 日～ 25 日 | 個人住宅 | 試掘 | 277 ㎡ | 25 ㎡ | なし | なし |
| 16 | 岡田遺跡 | 33 次 | 三反田字八幡 3567 番 1 | 5 月 22 日～ 25 日 | 個人住宅 | 試掘 | 276 ㎡ | 25 ㎡ | 住居跡 4 基（弥生 2），土坑 2 基 | 弥生土器，土師器，須恵器 |
| 17 | 市毛上坪遺跡 | 21 次 | 市毛字上坪 1209 番 2 | 5 月 22 ～ 29 日 | 個人住宅 | 試掘 | 235 ㎡ | 26 ㎡ | 住居跡 3 基（古墳 3） | 弥生土器，土師器，須恵器 |
| 18 | 浅井内遺跡 | 3 次 | 浅井内 13081 番 2 ほか | 6 月 5 ～ 7 日 | 個人住宅 | 試掘 | 466 ㎡ | 45 ㎡ | ピット 1 基 | なし |
| 19 | 向野 A 遺跡 | 5 次 | 馬渡字向野 2884 番 2 ほか | 6 月 5 ～ 14 日 | 区画整理 | 試掘 | 870 ㎡ | 52 ㎡ | 溝跡 1 条 | なし |
| 20 | 黒袴遺跡 | 7 次 | 津田字西原 3343 番 2 | 6 月 12 ～ 19 日 | 個人住宅 | 試掘 | 248 ㎡ | 25 ㎡ | なし | なし |
| 21 | 峪遺跡 | 1 次 | 三反田字峪 3957 番 1 ほか | 6 月 19 ～ 26 日 | 障害児通所支援施設 | 試掘 | 1,715 ㎡ | 114 ㎡ | 溝跡 1 条，土坑 8 基，ピット 7 基 | 縄文土器，土師器，須恵器，瓦質土器 |

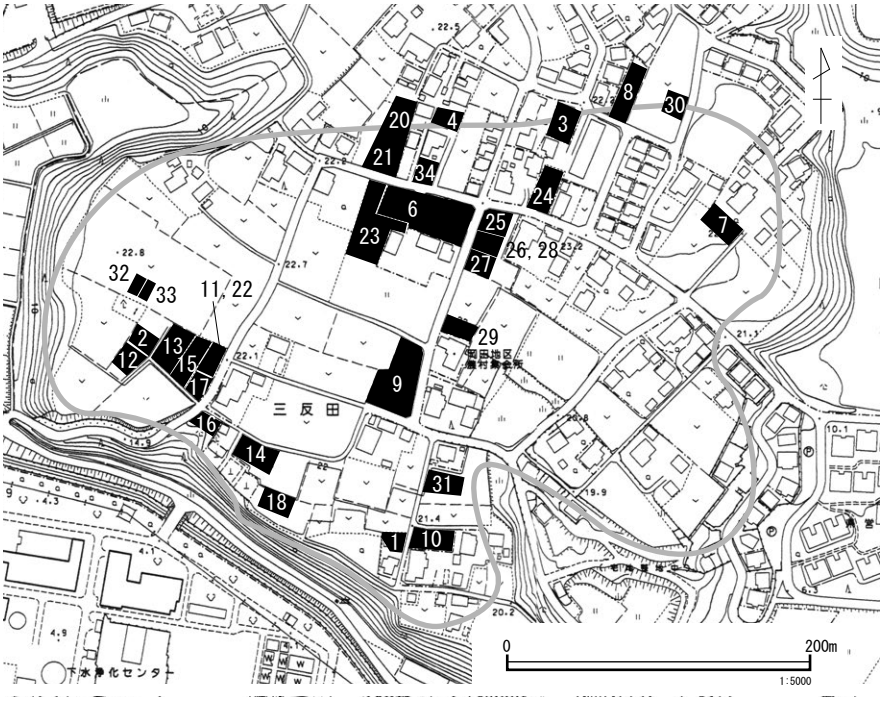
| No. | 遺跡名 | 調査次数 | 所在地 | 調査期間 | 調査原因 | 調査種別 | 対象面積 | 調査面積 | 主な遺構 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22 | 市毛上坪遺跡（いちげかみつぼいせき） | 22次 | 市毛字上坪1206番1ほか | 6月26～27日 | 個人住宅 | 試掘 | 202㎡ | 18㎡ | 住居跡4基（弥生1，古墳3） | 弥生土器，土師器，須恵器 |
| 23 | 市毛本郷坪遺跡（いちげほんごうつぼいせき） | 9次 | 市毛字本郷坪469番10 | 7月10～19日 | 宅地造成及び建売住宅 | 試掘 | 871㎡ | 89㎡ | 住居跡11基（古墳3，平安1），溝跡1条，土坑2基 | 縄文土器，土師器，須恵器，中世土器 |
| 24 | 西塙遺跡（にしはなわいせき） | 12次 | 武田字猫山408番ほか | 7月18～19日 | 区画整理 | 試掘 | 500㎡ | 10㎡ | なし | なし |
| 25 | 君ヶ台遺跡（きみがだいいせき） | 12次 | 中根字深谷津3655番8ほか | 7月24～27日 | 建売住宅 | 試掘 | 436㎡ | 45㎡ | なし | なし |
| 26 | 原の寺遺跡（はらのてらいせき） | 1次 | 足崎字原459番の一部 | 8月10～21日 | 個人住宅 | 試掘 | 268㎡ | 26㎡ | なし | なし |
| 27 | 市毛上坪遺跡（いちげかみつぼいせき） | 23次 | 市毛字上坪1209番3 | 8月21～28日 | 個人住宅 | 試掘 | 223㎡ | 18㎡ | 住居跡3基（古墳3），土坑2基 | 縄文土器，弥生土器，土師器 |
| 28 | 市毛上坪遺跡（いちげかみつぼいせき） | 24次 | 市毛字上坪1194番4 | 8月21～30日 | 個人住宅 | 試掘 | 240㎡ | 23㎡ | 住居跡4基（奈良・平安4），ピット2基 | 土師器，須恵器 |
| 29 | 堀口遺跡（ほりぐちいせき） | 29次 | 堀口字塙坪42番2 | 9月11～28日 | 宅地造成 | 試掘 | 839㎡ | 108㎡ | 住居跡8基（古墳3，奈良・平安4） | 土師器，須恵器 |
| 30 | 天王前遺跡（てんのうまえいせき） | 7次 | 三反田字天王前5142番11 | 9月19～20日 | 個人住宅 | 試掘 | 617㎡ | 45㎡ | 溝跡1条 | 縄文土器 |
| 31 | 市毛上坪遺跡（いちげかみつぼいせき） | 25次 | 市毛字上坪1209番2 | 9月26日～10月16日 | 個人住宅 | 本調査 | 120㎡ | 116㎡ | 住居跡5基（古墳），溝跡1条，道跡1条，土坑2基 | 弥生土器，土師器，須恵器，陶磁器，石器，鉄製品 |
| 32 | 市毛下坪遺跡（いちげしもつぼいせき） | 14次 | 市毛字下坪420番1 | 10月10～19日 | 集合住宅 | 試掘 | 797㎡ | 69㎡ | 住居跡6基（平安），溝跡1条，土坑3基 | 土師器，須恵器 |
| 33 | 岡田遺跡（おかだいせき） | 34次 | 三反田字北長町3618番2 | 10月23～26日 | 個人住宅 | 試掘 | 247㎡ | 21㎡ | 住居跡6基（奈良・平安6），溝跡1条，土坑1基 | 土師器，須恵器 |
| 34 | 岡田遺跡（おかだいせき） | 35次 | 三反田字八幡3567番1 | 10月24日～11月16日 | 個人住宅 | 本調査 | 80㎡ | 68㎡ | 住居跡2基（古墳1，平安1） | 弥生土器，土師器，須恵器，石器 |
| 35 | 君ヶ台遺跡（きみがだいいせき） | 13次 | 東部第1区画整理事業街区141符号9ほか | 10月30日～11月2日 | 区画整理 | 試掘 | 1,763㎡ | 20㎡ | なし | なし |
| 36 | 地蔵根遺跡（じぞうねいせき） | 4次 | 勝倉字地蔵根2827番3 | 11月7～9日 | 集合住宅 | 試掘 | 714㎡ | 54㎡ | 住居跡2基，溝跡1条 | なし |
| 37 | 松原遺跡（まつばらいせき） | 6次 | 田彦字松原790番9 | 11月13～16日 | グループホーム | 試掘 | 460㎡ | 49㎡ | なし | 縄文土器 |
| 38 | 田宮原Ⅰ遺跡（たみやはらいちいせき） | 1次 | 田宮原4287番1 | 11月20～22日 | 個人住宅 | 試掘 | 439㎡ | 24㎡ | なし | なし |
| 39 | 市毛上坪遺跡（いちげかみつぼいせき） | 26次 | 市毛字上坪1206番1，1209番6 | 11月27～12月18日 | 個人住宅 | 本調査 | 202㎡ | 101㎡ | 住居跡4基（古墳） | 縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，銅製品，ガラス小玉 |
| 40 | 市毛下坪遺跡（いちげしもつぼいせき） | 15次 | 市毛字本郷坪440番19ほか | 12月4～5日 | 個人住宅 | 試掘 | 235㎡ | 26㎡ | 溝跡1条 | 土師器 |
| 41 | 市毛下坪遺跡（いちげしもつぼいせき） | 16次 | 市毛字本郷坪440番6の一部 | 12月4～7日 | 個人住宅 | 試掘 | 202㎡ | 22㎡ | なし | 土師器，須恵器 |
| 42 | 市毛下坪遺跡（いちげしもつぼいせき） | 17次 | 市毛字本郷坪440番20ほか | 12月4～7日 | 個人住宅 | 試掘 | 320㎡ | 19㎡ | 溝跡1条 | 土師器，須恵器 |

# Ⅱ　試掘調査報告

## 1　岡田遺跡

### (1) 第 31 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 80 mほど離れた場所に位置し，東側に緩く傾斜する地形を呈する。調査は 6 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.4 ～ 0.6 mを測る。調査の結果，確認面での推定幅 2 mを測る溝跡 1 条と，規模が不明な土坑を 1 基確認した。溝およびピットは，年代を決定できる出土遺物がなく，時期は不明である。調査区からは，縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，陶磁器が少量出土している。



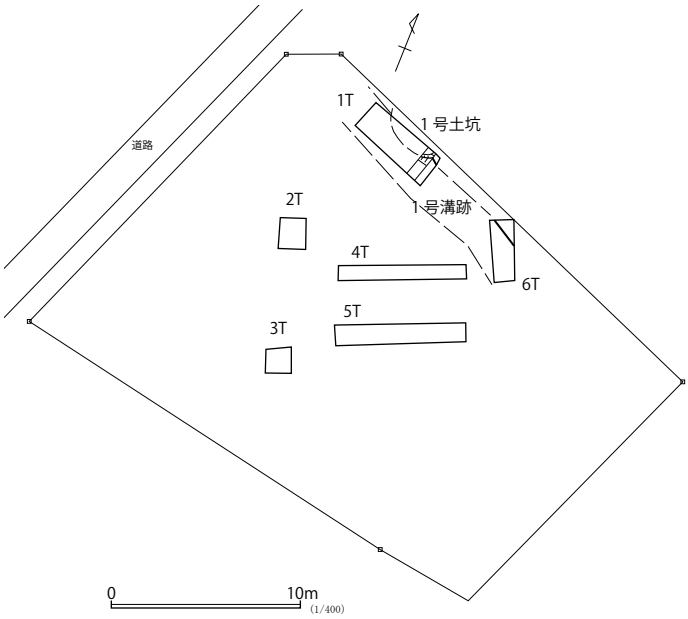

**第 2 図　岡田遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 2 表　岡田遺跡調査一覧**

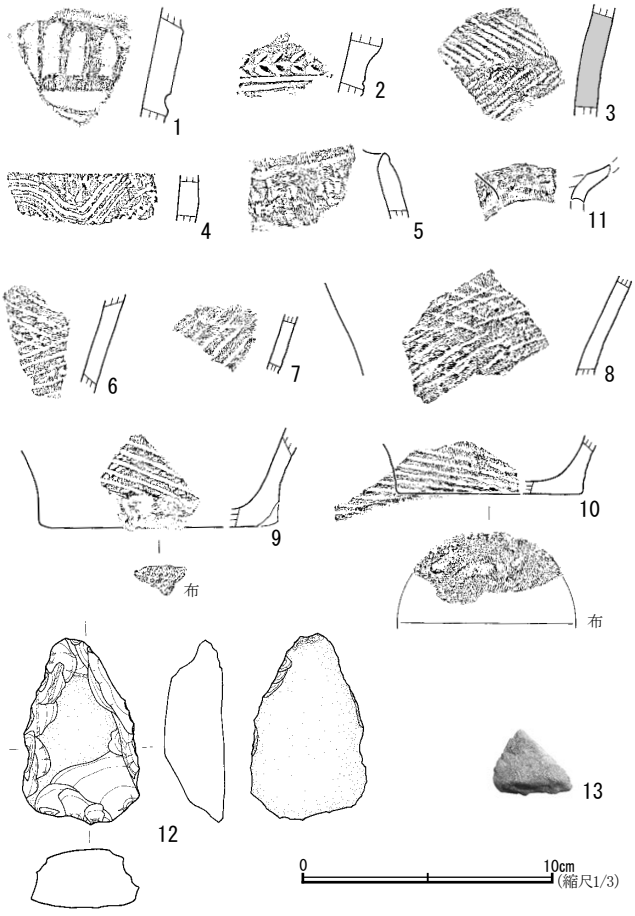
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1982 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 1 |
| 2 | 1983 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居跡 3（十王台 1，古墳後期 2） | 2 |
| 3 | 1985 | 勝田市教委 | 試掘 | 住居跡 2（古墳後期 1，不明 1） | 3 |
| 4 | 1990 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居跡 3（8 世紀 1，9 世紀 1，不明 1），竪穴遺構 1 | 4 |
| 5 | 1991 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | なし |
| 6 | 1997 | 市教委 | 本調査 | 住居跡 5（十王台 1，古墳後期 1，8 世紀 2，9 世紀 1） | 5 |
| 7 | 2003 | 市教委 | 試掘 | なし | 6 |
| 8 | 2005 | 市教委 | 試掘 | なし | 7 |
| 9 | 2006 | 市教委 | 試掘 | なし | なし |
| 10 | 2006 | 市教委 | 試掘 | 住居跡 2（時期不明） | 8 |
| 11 | 2006 | 市教委 | 試掘 | なし | 8 |
| 12 | 2006 | 市教委 | 本調査 | 住居跡 1（十王台） | 8 |
| 13 | 2006 | 市教委 | 試掘 | なし | 8 |
| 14 | 2006 | 市教委 | 試掘 | 住居跡（時期不明） | なし |
| 15 | 2007 | 市教委 | 試掘 | 住居跡 1（時期不明） | 9 |
| 16 | 2007 | 市教委 | 本調査 | 住居跡 1（古墳後期），溝 1 | 9 |
| 17 | 2007 | 市教委 | 試掘 | 住居跡 1（時期不明） | 9 |
| 18 | 2010 | 公社 | 試掘 | 住居跡 2（十王台 1，時期不明 1） | 10 |
| 19 | 2011 | 公社 | 試掘 | 住居跡 6（十王台 4，古墳前期 1，時期不明 1） | 11 |
| 20 | 2012 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（時期不明） | 12 |
| 21 | 2012 | 公社 | 試掘 | 住居跡 2（古墳後期 1，時期不明 1），溝 1 | 12 |
| 22 | 2012 | 公社 | 試掘 | 土坑 2，ピット 9 | 12 |
| 23 | 2012 | 公社 | 試掘 | 住居跡 6（奈良・平安 4，時期不明 2），土坑 2，ピット 4 | 12 |
| 24 | 2013 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（奈良・平安） | 13 |
| 25 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（古墳），ピット 1 | 14 |
| 26 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居跡 5（弥生 1，古墳 1，平安 1，時期不明 2），ピット 1（奈良・平安） | 14 |
| 27 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（古墳），土坑 1 | 14 |
| 28 | 2015 | 公社 | 本調査 | 住居跡 5 基（弥生 1，古墳 1，平安 3），土坑 2（平安 1，時期不明 1），溝 1 | 15 |
| 29 | 2016 | 公社 | 試掘 | なし | 15 |
| 30 | 2017 | 公社 | 試掘 | なし | 16 |


**文献**

1　昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　昭和 58 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
4　平成元年度市内遺跡発掘調査報告書
5　岡田遺跡発掘調査報告書
6　平成 15 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 17 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
8　平成 18 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
9　平成 19 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
10　平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
11　平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
12　平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
13　平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
14　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
15　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
16　平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書




**第 3 図　岡田遺跡第 31 次調査区**




**第 4 図　岡田遺跡第 31 次調査区出土遺物（1）**

## 遺物説明

第 4 図

1　出土位置・注記：1 トレ 1 ミゾ　時代時期：縄文時代早期（田戸下層式）　文様：太沈線文

2　出土位置・注記：1 トレ 1 ミゾ　時代時期：縄文時代早期（田戸下層式）　文様：刺突文，細沈線文

3　出土位置・注記：1 トレ 1 ミゾ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：羽状縄文（0 段多条の RL，LR）　備考：胎土に繊維を含む

4　出土位置・注記：1 トレ 1 ミゾ　時代時期：縄文時代（浮島式か）　文様：押引条線文（櫛歯状工具）

5　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：縄文時代（浮島式か）　文様：波状貝殻文（放射肋あり）

6　出土位置・注記：3 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：大型壷形土器　文様：付加条縄文（L × L，R × R）　備考：胎土に金雲母を含む

7　出土位置・注記：4 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（R-S）

8　出土位置・注記：3 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　法量：最大径 120 ㎜（残存率 18％の部分から推定）　文様：付加条縄文（R-Z，R-S）　備考：器外面に炭化物付着，器内面が黒く変色

9　出土位置・注記：4 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　法量：底径 94 ㎜（残存率 11％の部分から推定）　文様：付加条縄文（L × L），底面布目痕

10　出土位置・注記：3 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　法量：底径 73 ㎜（残存率 32％）　文様：付加条縄文（L-Z），底面布目痕

11　出土位置・注記：3 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：高坏形土器　法量：坏部最大径 54 ㎜（残存率 18％）

12　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：縄文時代早期　器種：剥片　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 73 ㎜，幅 47 ㎜，厚さ 24 ㎜　重量：96.9 g

13　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：縄文時代早期　器種：剥片　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 27 ㎜，幅 31 ㎜，厚さ 6 ㎜　重量：4.6 g　備考：石斧製作に伴う剥片

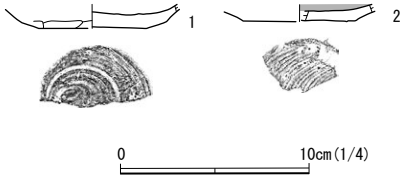
第 5 図

1　出土位置：1 トレ　材質：土師器　器種：杯　残存：底部 45％　法量：底径（5.7）　色調：外面灰褐色，内面白褐色　胎土：砂（灰）　特徴：回転糸切り後，外面体部下端を手持ちヘラ削り。

2　出土位置：1 トレ　材質：土師器　器種：杯　残存：底部 25％　法量：底径（6.0）　色調：外面褐色，内面黒色　胎土：—　特徴：回転糸切り。内面ヘラミガキ・黒色処理。

## （2）第 32・33 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 90 mほど離れた場所に位置し，平坦な地形を呈する。調査は，第




**第 5 図　岡田遺跡第 31 次調査区出土遺物（2）**

32・33 次調査区とも 5 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.4 ～ 0.7 m を測る。

第 32 次調査区は，調査の結果，風倒木痕が 1 か所確認されたのみで，遺物の出土も見られなかった。

それに対して隣接する第 33 次調査区では，住居跡 4 基，土坑 2 基が確認された。住居跡は 1 ・ 4 号住居跡が弥生時代後期，2 ・ 3 号住居跡は出土遺物がなく時期不明である。1 ・ 4 号住居跡からは，弥生土器小片が少量出土している。確認面からの住居跡の深さは，1 号住居跡が 25cm，2 号住居跡が 35cm，3 号住居跡が不明，4 号住居跡が 23cm を測る。土坑は出土遺物がなく時期不明である。なお第 33 次調査区からは，弥生土器，土師器，須恵器が少量出土している。

**遺物説明**

第 7 図

1　出土位置・注記：1 トレ 1 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：隆帯（指頭押圧）　備考：胎土に金雲母を含む

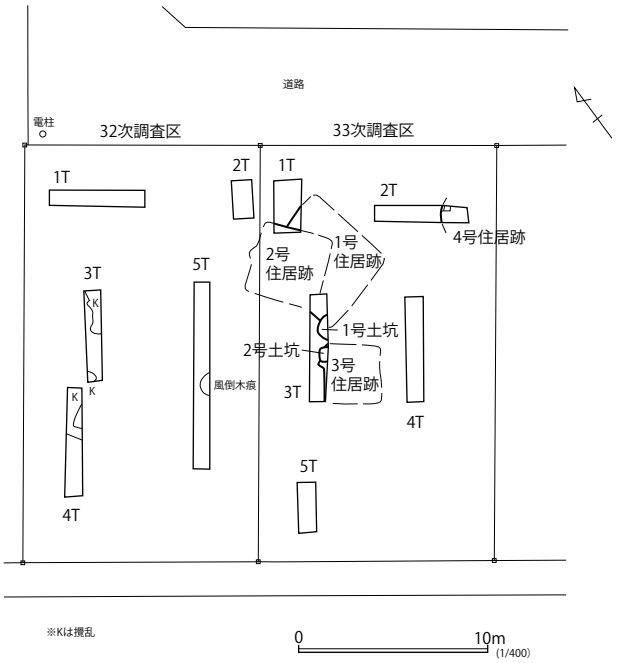
2　出土位置・注記：2 トレ 4 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（L-Z，R-S）

3　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（L-Z，R-S）

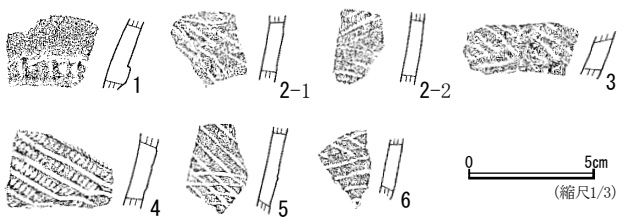
4　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（L-Z，R-S）

5　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中型壷形土器か　文様：付加条縄文（L × L）

6　出土位置・注記：1 トレ 2 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：大型壷形土器　文様：付加条縄文（L-Z，R-S）　備考：胎土に金雲母を含む




**第 6 図　岡田遺跡第 32・33 次調査区**

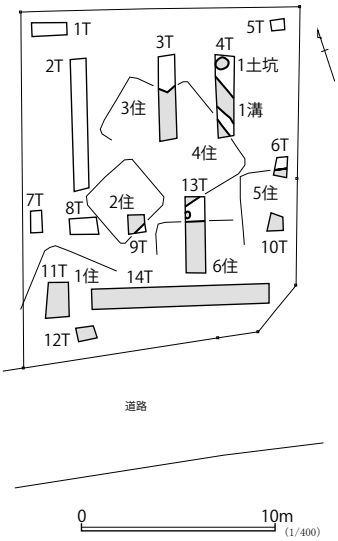



**第 7 図　岡田遺跡第 33 次調査区出土遺物**

**(3) 第 34 次調査報告**

調査地は，那珂川低地から北に入り込む谷の谷頭部から 100 mほど離れた場所に位置し，平坦な地形を呈する。調査は，14 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.4 ～ 0.7 mを測る。

調査の結果，住居跡を 6 基確認した。トレンチからの出土遺物からみて，住居跡は全て奈良・平安時代になると推定される。溝跡及び土坑は出土遺物がなく時期不明である。調査区からは，土師器，須恵器が出土している。

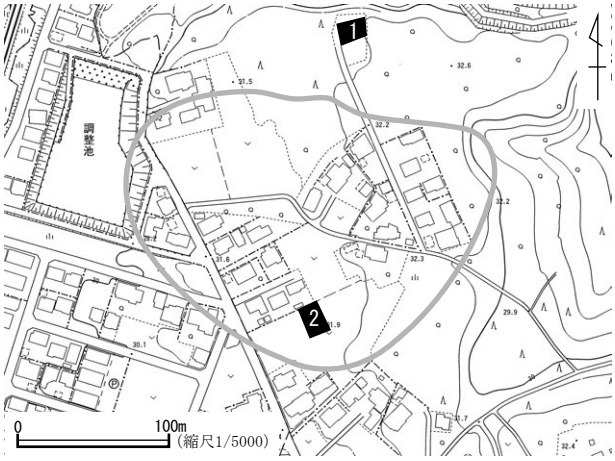



**第 8 図　岡田遺跡第 34 次調査区**

## 2　小貫山遺跡

### (1) 第 2 次調査報告

調査地は，新川から南方に入り込む谷頭付近に位置し，平坦な地形を呈する。調査は 7 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.4 ～ 0.6 mを測る。調査の結果，遺構・遺物とも確認されなかった。




**第 9 図　小貫山遺跡の調査地点**

**第 3 表　小貫山遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2003 | 市教委 | 試掘 | なし | 1 |

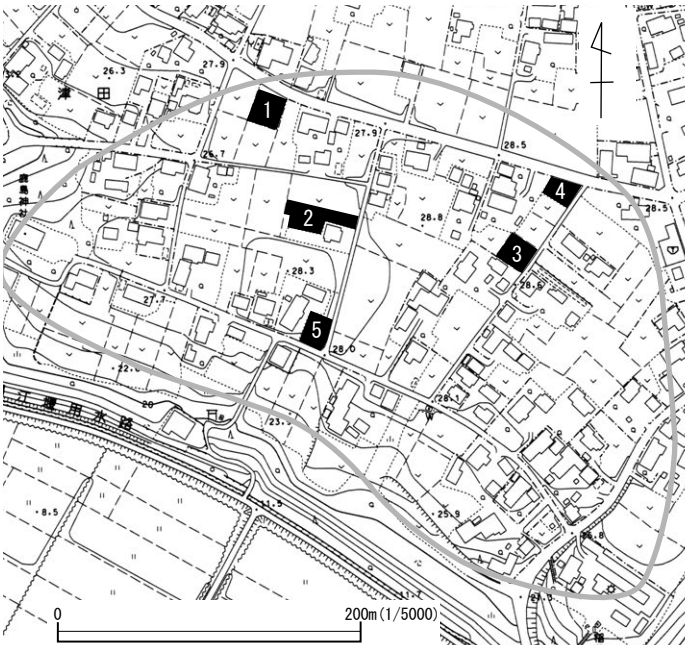
**文献**

1　平成 15 年度市内遺跡発掘調査報告書

## 3　上馬場遺跡

### (1) 第 5 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 70 mほど離れた場所に位置し，平坦な地形を呈する。調査は 7 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.5 ～ 1.1 mを測る。調査の結果，時期不明のピットが 1 基確認された。遺物は出土していない。



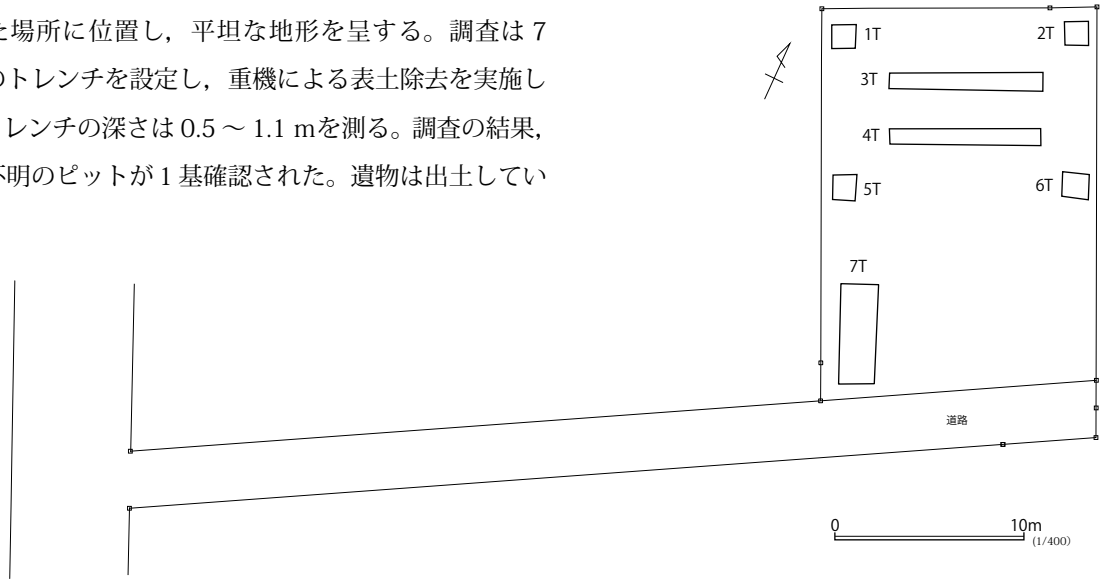

**第 11 図　上馬場遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 4 表　上馬場遺跡調査一覧**

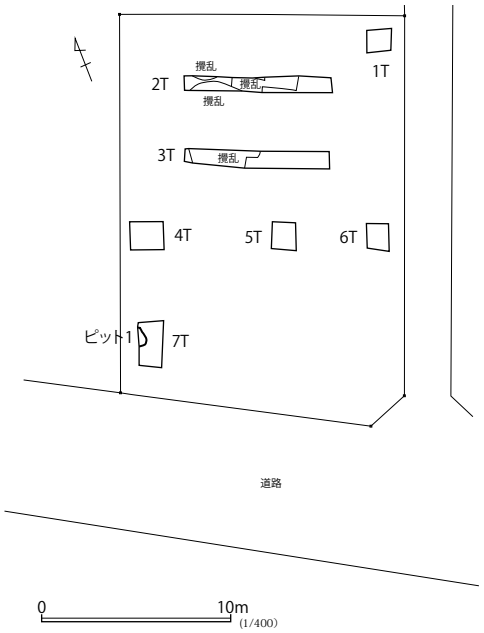
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1979 | 勝田市教委 | 本調査 | なし | 1 |
| 2 | 2008 | 公社 | 試掘 | なし | 2 |
| 3 | 2012 | 公社 | 試掘 | 住居跡 3（奈良 1，不明 2） | 3 |
| 4 | 2012 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（平安 1），溝 3，炭窯 1（近代） | 3 |

**文献**

1　上馬場遺跡発掘調査報告書
2　平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書




**第 10 図　小貫山遺跡第 2 次調査区**




**第 12 図　上馬場遺跡第 5 次調査区**

## 4　地蔵根遺跡

### (1) 第 3 次調査報告

調査地は，那珂川低地から北方へ入り込む谷から 170 m ほど離れた場所に位置し，平坦な地形を呈する。調査は 2 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.6 ～ 0.9 mを測る。調査の結果，遺構，遺物とも確認されなかった。

### (2) 第 4 次調査報告

調査地は，那珂川低地から北方へ入り込む谷から 100 m ほど離れた場所に位置し，平坦な地形を呈する。調査は 4 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.8 ～ 1.2 mを測る。調査の結果，住居跡を 2 基，溝跡を 1 条確認した。調査区からの出土遺物はなかった。遺物がないため各遺構の時期は不明である。なお調査区南東部の遺構確認面が深く，浅い埋没谷が入るようである。

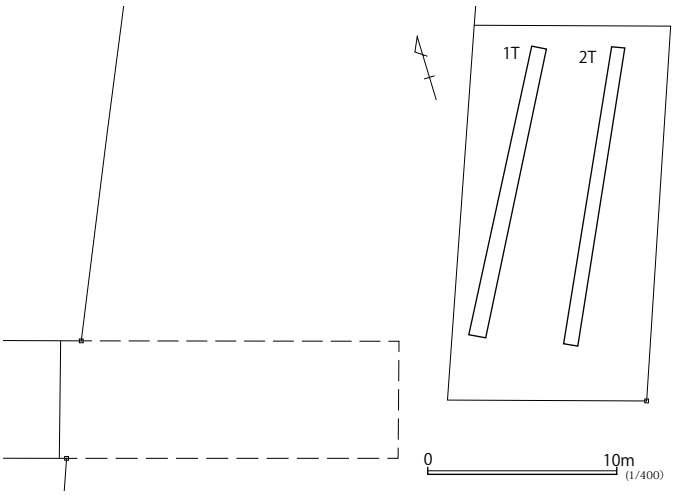
**第 5 表　地蔵根遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 1（時期不明），<br>井戸 1（近世以後），溝 3 | 1 |
| 2 | 2016 | 公社 | 試掘 | 住居 3（古墳後期 1，奈良 1，平安 1） | 2 |

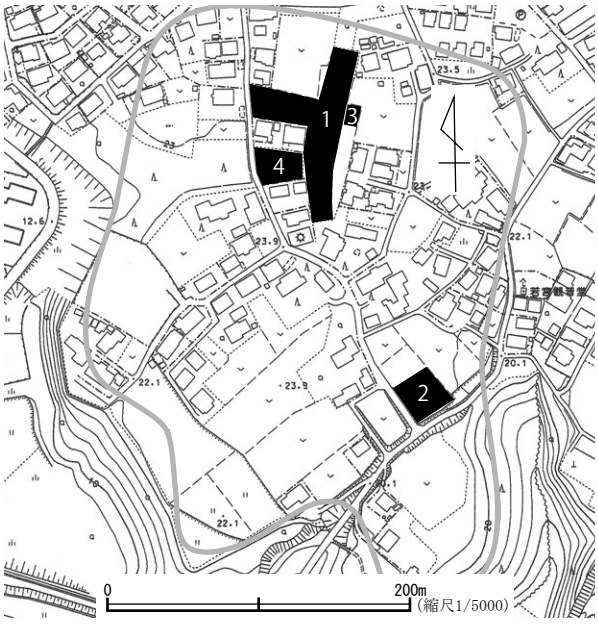
**文献**

1　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

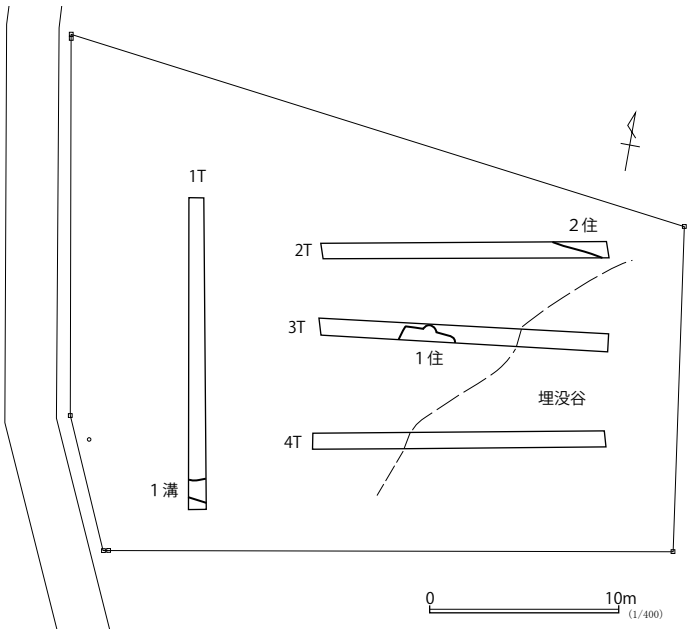
2　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書




**第 14 図　地蔵根遺跡第 3 次調査区**




**第 13 図　地蔵根遺跡の調査地点**（数字は調査次数）




**第 15 図　地蔵根遺跡第 4 次調査区**

# 5　遠原遺跡

## (1) 第 4 次調査報告

調査地は，中丸川低地を望む台地縁辺の緩斜面部に位置する。調査は 20 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.2 ～ 1.1 m を測る。調査の結果，住居跡を 1 基確認した。当住居跡からの出土遺物がなく時期は不明であるが，カマドを有するので古墳時代後期以後の住居跡であろう。調査区からは，縄文土器，須恵器が出土している。

### 遺物説明

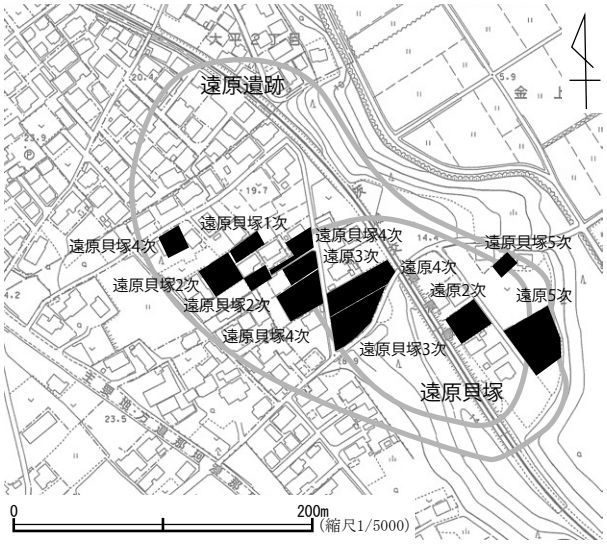
第 18 図

1　出土位置・注記：7 トレ　時代時期：縄文時代前期（森東式）　文様：縦位短沈線（半截竹管），押引爪形文（半截竹管），単節斜縄文（LR）　備考：胎土に繊維を含む

2　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：押引爪形文（半截竹管），単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維を含む

3　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：口唇部縄文，平行沈線文（半截竹管），単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維・骨針を含む

4　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：押引爪形文（半截竹管），付加条縄文（LR+r）　備考：胎土に繊維を含む




**第 16 図　遠原遺跡の調査地点**

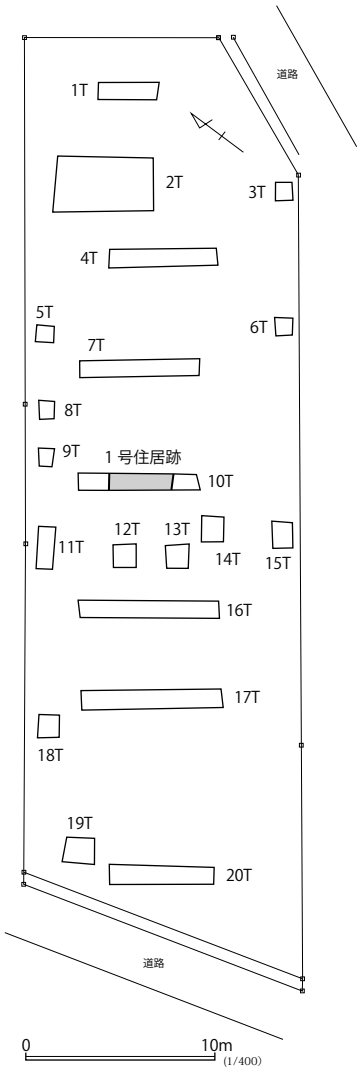
**第 6 表　遠原遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1991 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | — |
| 2 | 1997 | 市教委 | 本調査 | 住居跡 2（縄文 1，古墳 1），土坑 2 | 1 |
| 3 | 2016 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（縄文 1） | 2 |


**文献**

1　平成 9 年市内遺跡発掘調査報告書

2　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書


**第 17 図　遠原遺跡第 4 次調査区**

5　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：押引爪形文（半截竹管），縄文？　備考：胎土に繊維を含む

6　出土位置・注記：2 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：押引爪形文（半截竹管），平行沈線縄文（半截竹管）　備考：胎土に繊維を含む

7　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（植房式）　文様：押引櫛歯文　備考：胎土に繊維を含む

8　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期前半（植房式）　文様：櫛歯文　備考：胎土に繊維を含む

9　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：平行沈線文（半截竹管）　備考：胎土に繊維を含む

10　出土位置・注記：6 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：沈線文（箆状），単節斜縄文（LR か）　備考：胎土に繊維を含む

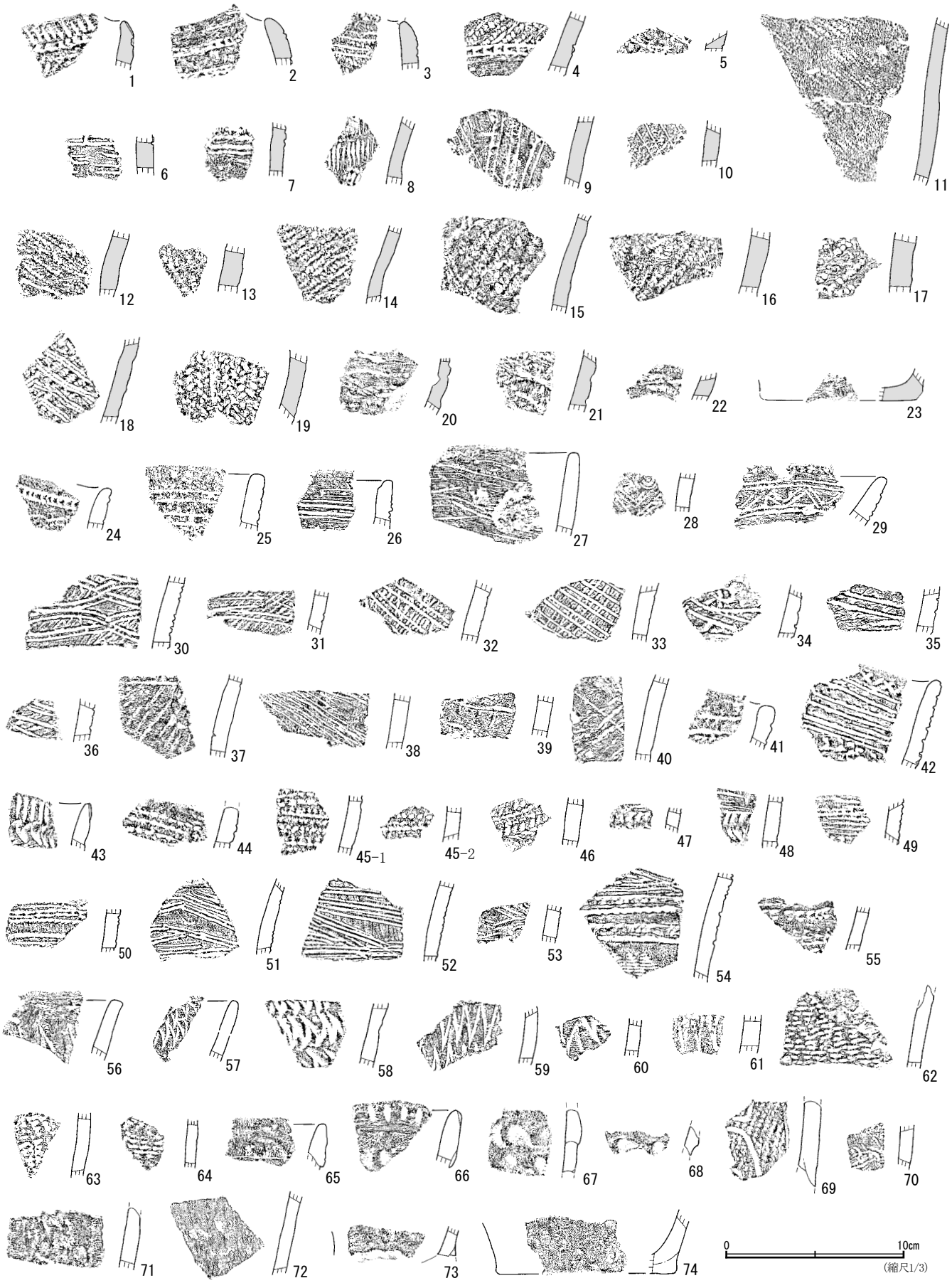
11　出土位置・注記：7 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維を含む，器外面にネズミの齧り痕

12　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維を含む

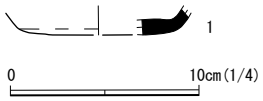
13　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維を少量含む

14　出土位置・注記：14 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（LR）　備考：胎土に繊維を含む

15　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：無節斜縄文（L）か　備考：胎土に繊維を含む
16　出土位置・注記：10 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（LR）　備考：胎土に繊維を含む，器外面にネズミの齧り痕
17　出土位置・注記：19 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（LR）　備考：胎土に繊維を含む
18　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（森東式）　文様：異条縄文　備考：胎土に繊維を含む
19　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（森東式）　文様：組紐文　備考：胎土に繊維を含む
20　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：不明　備考：胎土に繊維を含む，焼成不良，器内外面に繊維の脱落痕
21　出土位置・注記：12 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：縄文（原体不明）　備考：胎土に繊維を含む，器外面に繊維の脱落痕
22　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　文様：不明　備考：胎土に繊維を含む
23　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期前半　法量：底径 90 ㎜（残存率 11％）　文様：縄文？　備考：胎土に繊維を含む
24　出土位置・注記：15 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：爪形文，平行沈線文（半截竹管）
25　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管）　備考：器表面に後世の傷多い
26　出土位置・注記：７トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管）
27　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：条線文
28　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管）
29　出土位置･注記:11 トレ　時代時期:縄文時代前期（浮島式）　器種:浅鉢形土器　文様：平行沈線文（半截竹管）
30　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文（R の絡条体）
31　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文（R の絡条体）
32　出土位置･注記:7 トレ　時代時期:縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文（r の絡条体か）
33　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文（R の絡条体）
34　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文
35　出土位置・注記：5 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文（L の絡条体）
36　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文（R の絡条体）
37　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），撚糸文（L の絡条体）
38　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：撚糸文（R の絡条体）
39　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：撚糸文（l の絡条体）　備考：胎土に金雲母を含む
40　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：撚糸文（L の絡条体）　備考：胎土に金雲母を含む
41　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：変形爪形文　備考：器表面に後世の傷多い
42　出土位置・注記：4 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：口唇部直下に格子状の短沈線（棒状），平行沈線文・刺突文（半截竹管）
43　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：口唇部直下に短沈線（半截竹管か），変形爪形文
44　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：変形爪形文
45　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：変形爪形文
46　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：変形爪形文
47　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），変形爪形文　備考：胎土に赤色粒子目立つ
48　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），変形爪形文
49　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（興津Ⅰ式）　文様：平行沈線文，押引爪形文（半截竹管）
50　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（興津Ⅰ式）　文様：平行沈線文，押引爪形文（半截竹管），変形爪形文
51　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管）
52　出土位置・注記：16 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管）
53　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管）　備考：胎土に骨針含む
54　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：平行沈線文（半截竹管），変形爪形文，波状貝殻文（放射肋あり）
55　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：押引文（半截竹管）か，波状貝殻文（放射肋あり）
56　出土位置・注記：19 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文
57　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文
58　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文
59　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文
60　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文
61　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文（放射肋あり）
62　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文（放射肋あり）
63　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文（放射肋あり）
64　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：波状貝殻文（放射肋あり）



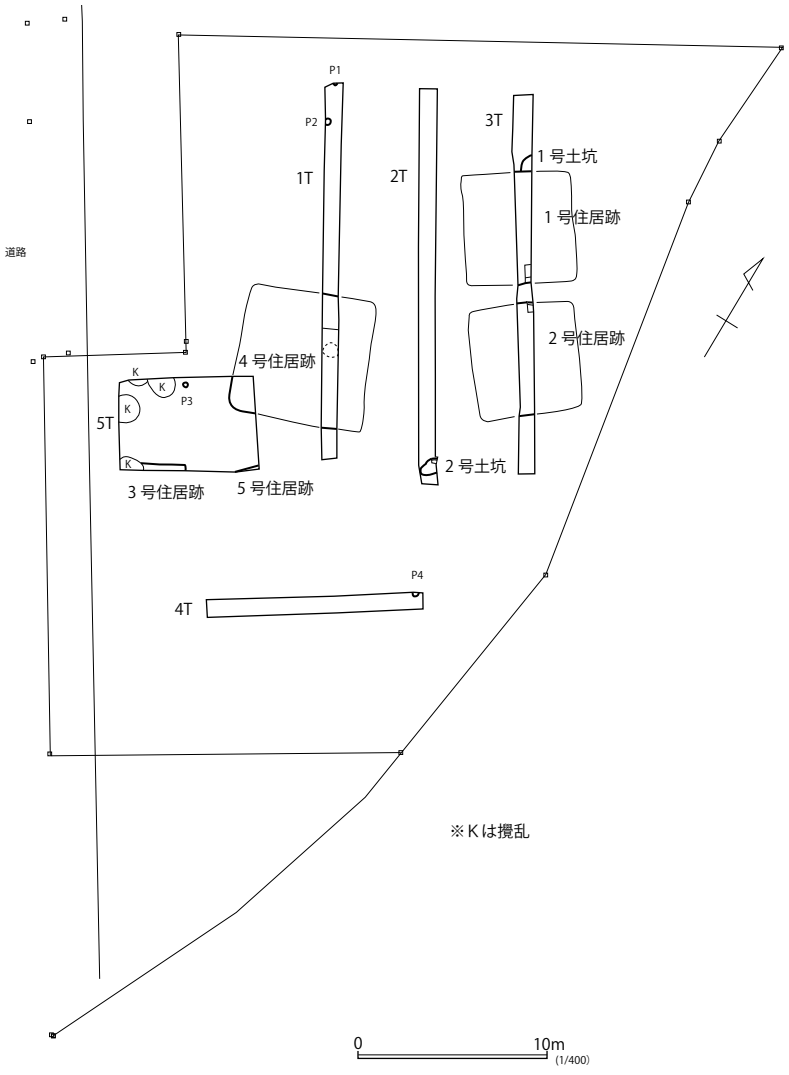

第 18 図　遠原遺跡第 4 次調査区出土遺物（1）




**第 19 図　遠原遺跡第 4 次調査区出土遺物（2）**

65　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：沈線文（箆状？），押圧痕（指頭）
66　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：口唇部刻み（棒状），押圧痕（指頭）　備考：胎土に白雲母を多量含む
67　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：押圧痕（指頭），成形積上痕
68　出土位置・注記：20 トレ　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：押圧痕（指頭），成形積上痕
69　出土位置・注記：17 トレ　時代時期：縄文時代前期後半か　文様：沈線文（棒状），単節斜縄文（LR）
70　出土位置・注記：8 トレ　時代時期：縄文時代前期後半　文様：結節文，単節斜縄文（LR）　備考：器外面に炭化物（煤状）付着
71　出土位置・注記：18 トレ　時代時期：縄文時代前期後半　備考：底部付近
72　出土位置・注記：5 トレ　時代時期：縄文時代前期後半　備考：底部付近
73　出土位置・注記：19 トレ　時代時期：縄文時代前期後半　法量：最大径 70 ㎜（残存率 18%）
74　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代前期後半　法量：底径 100 ㎜（残存率 15%）

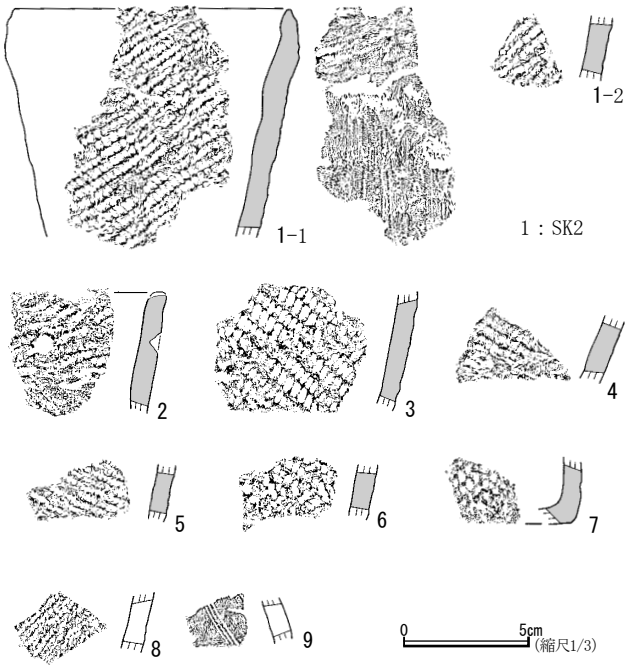
第 19 図
1　出土位置：7 トレ　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部外周 20%　法量：底径（8.4）　色調：灰色　胎土：砂（白，透少，灰少）　特徴：底部外面手持ちヘラ削り。焼成硬質。底部外面摩滅。




**第 20 図　遠原遺跡第 5 次調査区**

## (2) 第 5 次調査報告

調査地は，中丸川低地との比高が約 5 mほどの低位段丘上に位置しており，中丸川方面にやや緩く傾斜する地形を呈している。調査は 5 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.2 ～ 0.6 mを測る。調査の結果，住居跡 5 基，土坑 2 基，ピット 4 基が確認された。住居跡は 1 ・ 2 ・ 4 号住居跡が古墳時代前期，3 ・ 5 号住居跡は出土遺物がなく時期不明である。確認面からの住居跡の深さは，1 号住居跡が 40cm，2 号住居跡が 33cm，4 号住居跡が 17cm を測る。4 号住居跡は覆土が浅かったため，一部床が露出した部分がある。土坑は 2 号土坑から縄文土器が出土したため縄文時代の土坑となる可能性がある。1 号土坑およ




**第 21 図　遠原遺跡第 5 次調査区出土遺物**

びピットは出土遺物がなく時期は不明である。調査区からは，縄文土器，土師器，石器が出土している。

**遺物説明**

第 21 図

1　出土位置・注記：SK2　時代時期：縄文時代前期前半　器種：深鉢型土器　法量：口径 108 ㎜（残存率 19％の部分から推定）　文様：単節斜縄文（LR）　備考：胎土に繊維を含む，1-1 の下部破片の器内面にネズミの齧り痕あり（上部破片と接合する破断面にも齧り痕が残されている）

2　出土位置・注記：1 住　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（LR）もしくは無節斜縄文（L）　備考：胎土に繊維を含む，器外面に焼成後の穴（穿孔途中か）あり

3　出土位置・注記：2 住　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維を含む

4　出土位置・注記：2 住　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維を含む

5　出土位置・注記：1 住　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（RL）　備考：胎土に繊維を含む

6　出土位置・注記：2 住　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（RL，LR）　備考：胎土に繊維を含む

7　出土位置・注記：1 住　時代時期：縄文時代前期前半　文様：単節斜縄文（LR）　備考：胎土に繊維を含む

8　出土位置・注記：1 住　時代時期：縄文時代前期（浮島式）　文様：撚糸文（R の絡条体）

9　出土位置・注記：1 住　時代時期：弥生時代中期後葉か　文様：櫛描文（櫛歯 3 本）

## 6　平磯長堀南遺跡

### (1) 第 2 次調査報告

調査地は，平磯の海岸から北方に入り込む大きな谷に臨む台地縁辺から 80 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 4 カ所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.3 ～ 1.2 mを測る。調査の結果，溝跡を 1 条，ピットを 1 基確認した。出土遺物がなく時期は不明である。

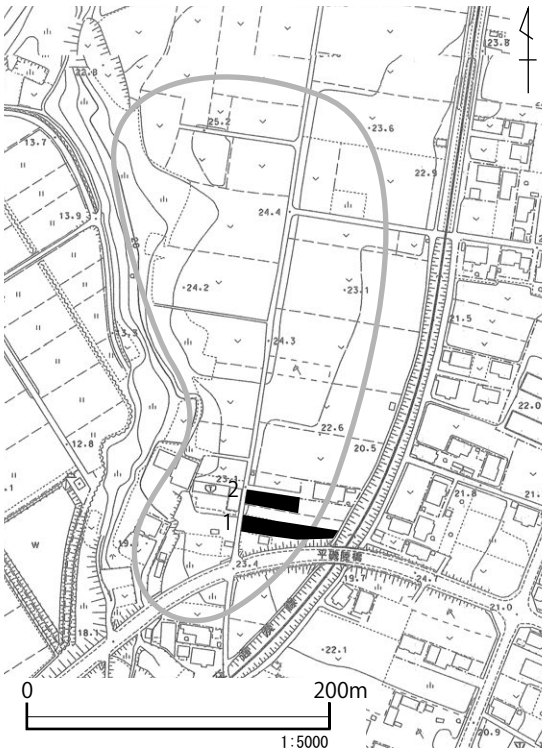
調査区から遺物は出土しなかった。

**第 7 表　平磯長堀南遺跡調査一覧**

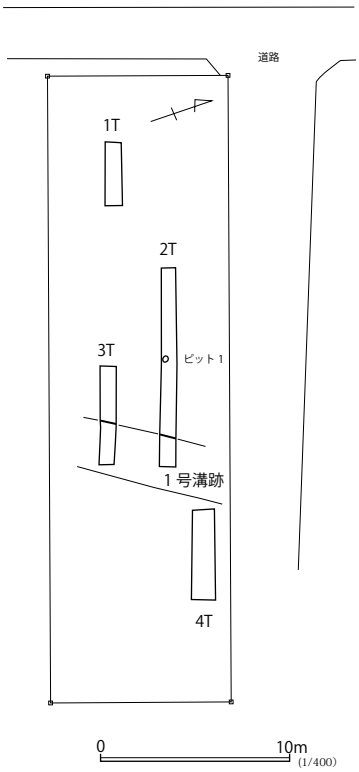
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2014 | 公社 | 試掘 | 溝 1 | 1 |


**文献**

1　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書


**第 22 図　平磯長堀南遺跡の調査地点**（数字は調査次数）




**第 23 図　平磯長堀南遺跡第 2 次調査区**

## 7　市毛上坪遺跡

### (1) 第 20 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 150 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 2 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.8 m～1.0 mを測る。調査の結果，住居跡を 2 基，溝跡を 1 条確認した。1 号住居跡は遺存状況が悪く，床のみの残存である。1 号住居跡は遺物がなく時期は不明である。2 号住居跡は深さ 5 cm ほどの住居跡である。古墳時代の土師器と平安時代の須恵器が出土したので，古墳時代以後の住居跡と思われる。幅 0.6 mほどの 1 号溝跡は遺物がなく時期不明である。なお調査区からの出土遺物は，旧石器，縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器が出土している。

**遺物説明**

第 30 図

1　出土位置・注記：2 住　時代時期：縄文時代後期　文様：条線文（櫛歯状工具）　備考：胎土に泥岩片目立つ

2　出土位置・注記：2 住　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：沈線文

3　出土位置・注記：2 住　時代時期：弥生時代中期後半　文様：付加条縄文（LR+2R）

4　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：口唇部縄文原体刻み，櫛描文（櫛歯 4 本）　備考：胎土に金雲母を含む

5　出土位置・注記：2 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（R-S）

6　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（R-Z）　備考：器外面に炭化物付着

### (2) 第 21 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 150 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 3 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6 m～0.8 mを測る。調査の結果，住居跡が 3 基確認され，すべての住居跡から古墳時代の土師器小片が少量出土している。確認面からの住居跡の深さは，1 号住居跡が 6cm，2 号住居跡が 35cm，3 号住居跡が 18cm を測る。1・3 号住居跡は覆土が浅いため，一部床面が露出していた。なお調査区からは、弥生土器，土師器，須恵器が出土している。

**遺物説明**

第 31 図

1　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：大型壷形土器　文様：付加条縄文（L × L）備考：胎土に金雲母を含む

2　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（R-S）

第 32 図

1　台帳：1 トレ　材質：土師器　器種：杯　残存：20％　法量：口径（13.8），器高（4.3）　色調：外面橙～黄橙色。内面橙色。　胎土：礫（白多），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁～体部上位ヨコナデ，中～下位ヘラナデ。　使用痕：—　備考：外面器面がやや摩滅している。

2　台帳：2 トレ　材質：須恵器　器種：甕　残存：胴部上位　法量：—　色調：青灰色　胎土：礫（白微），砂（白少）　焼成：硬質　技法等：沈線区画内に波状文。　使用痕：—　備考：—

### (3) 第 22 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 150 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 6 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.7 m～0.9 mを測る。調査の結果，住居跡を 4 基確認した。出土遺物からみて 1 ～ 3 号住居跡は古墳時代，4 号住居跡は弥生時代と考えられる。2・5 トレンチは住居床面が露出している。6 トレンチは全体が住居跡覆土中と考えられたため，掘削を途中で止めている。なお調査区からは，弥生土器，土師器，須恵器が出土している。

**遺物説明**

第 33 図

1　出土位置・注記：4 トレ　時代時期：弥生時代中期後葉　器種：大型壷形土器　文様：付加条縄文（R-S），平行沈線による波状文（半截竹管）　備考：外面に種子圧痕

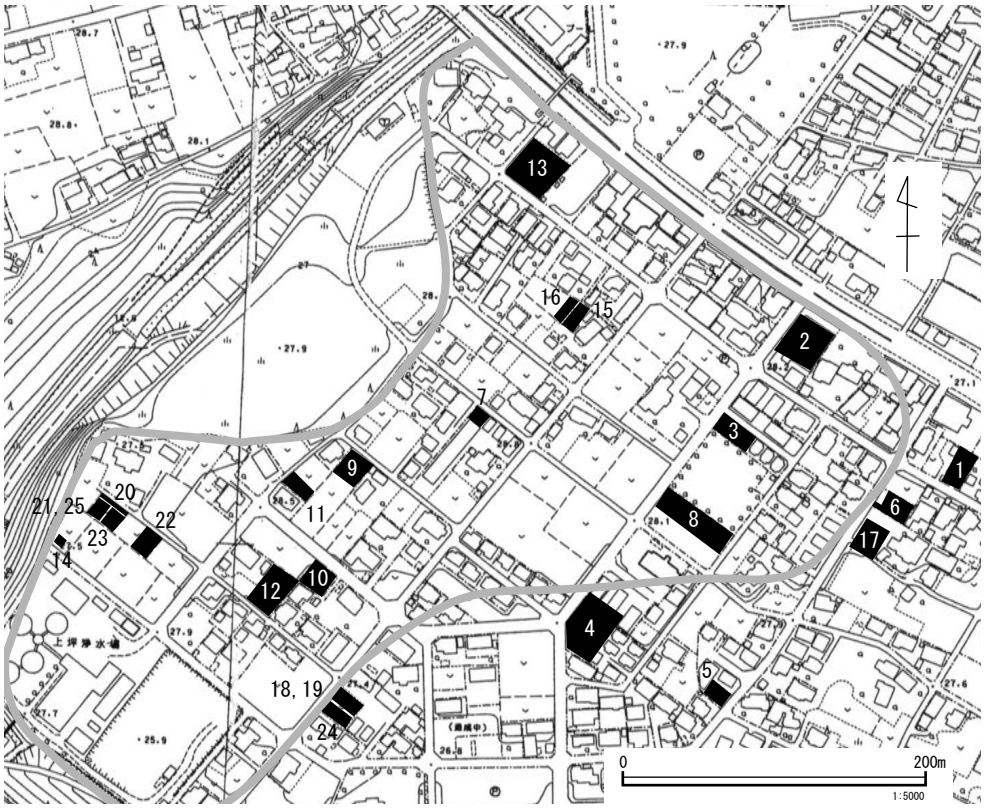
2　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：口唇部刻み（篦状），櫛描文（櫛歯 5 本）

3　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：櫛描文（櫛歯 5 本），隆帯（指頭押圧）　備考：胎土に金雲母を含む

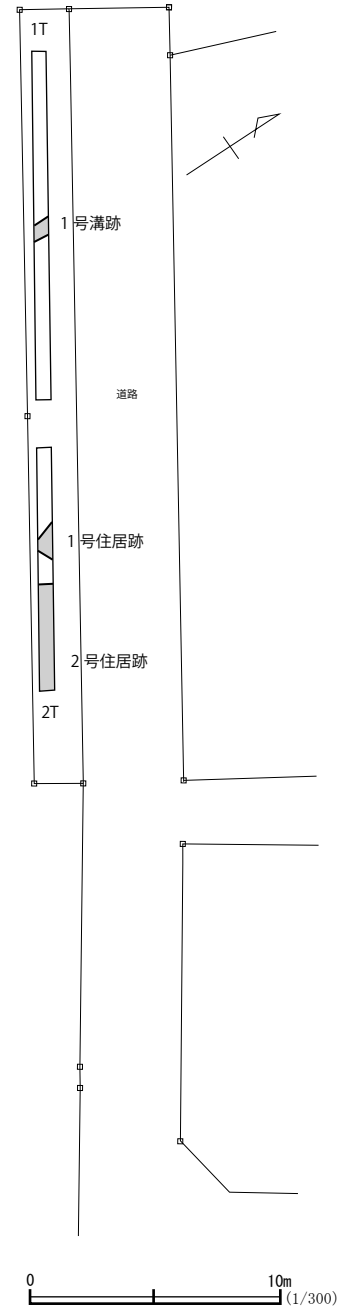
4　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：櫛描文（櫛歯 5 本）　備考：胎土に金雲母を含む

5　出土位置・注記：3 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：櫛描文（櫛歯 5 本）

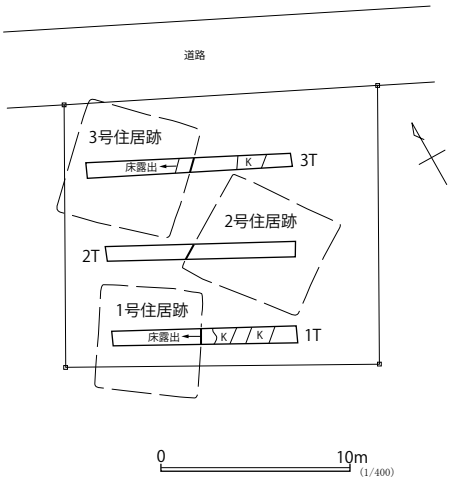
6　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：中・小型壷形土器　文様：櫛描文（櫛歯 4 本）　備考：器外面に炭化物（煤状）付着




**第 24 図　市毛上坪遺跡の調査地点**（数字は調査次数）




**第 25 図　市毛上坪遺跡第 20 次調査区**



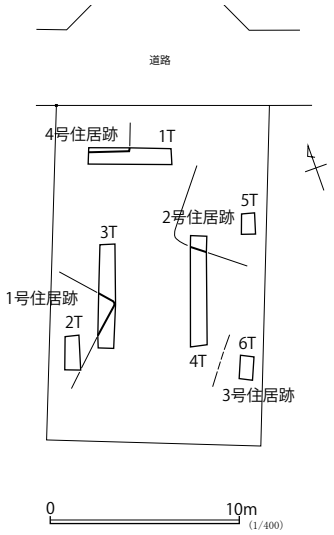

**第 26 図　市毛上坪遺跡第 21 次調査区**

**第 8 表　市毛上坪遺跡調査一覧**

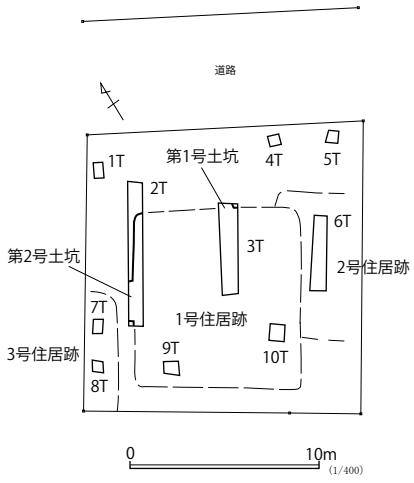
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1980 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居跡 1（古墳後期） | 1 |
| 2 | 1985 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居跡 1（古墳） | なし |
| 3 | 1985 | 勝田市教委 | 試掘調査 | なし | 2 |
| 4 | 1985 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居跡 2（平安），溝跡 1（時期不明），土坑 10 | 2 |
| 5 | 1986 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 3 |
| 6 | 1991 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 4 |
| 7 | 1992 | 勝田市教委 | 本調査 | 溝跡 1（時期不明） | 5 |
| 8 | 1996 | 市教委 | 試掘 | なし | 6 |
| 9 | 2006 | 市教委 | 試掘 | なし | 7 |
| 10 | 2006 | 市教委 | 本調査 | 住居跡 2（古墳後期 1，平安 1），土坑 1 | 7 |
| 11 | 2006 | 市教委 | 試掘 | 住居跡 2（古墳後期 1，平安 1），溝跡 1（時期不明） | 7 |
| 12 | 2012 | 公社 | 試掘 | 住居跡 14（古墳時代か） | 8 |
| 13 | 2013 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（古墳前期） | 9 |
| 14 | 2014 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（古墳），土坑 1（時期不明） | 10 |
| 15 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居跡 1（古墳），溝跡 1（時期不明） | 11 |
| 16 | 2016 | 公社 | 試掘 | 住居跡 2（古墳） | 12 |
| 17 | 2017 | 公社 | 試掘 | 住居跡 2（古墳） | 13 |
| 18 | 2017 | 公社 | 試掘 | 住居跡 3（平安 2，時期不明 1） | 13 |


**文献**

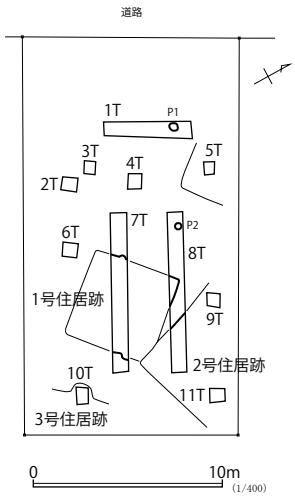
1　市内遺跡発掘調査報告書（昭和 55 年度）
2　昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書
4　平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
5　平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
6　平成 8 年度市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
8　平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
9　平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
10　平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
11　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
12　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
13　平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書




第 27 図　市毛上坪遺跡第 22 次調査区




第 28 図　市毛上坪遺跡第 23 次調査区

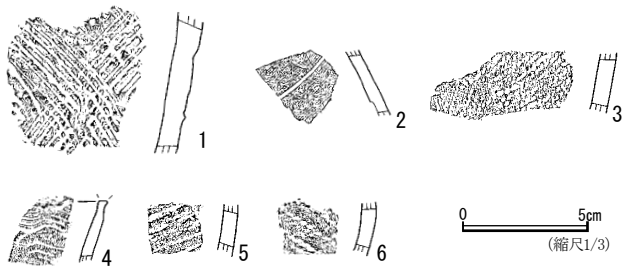



第 29 図　市毛上坪遺跡第 24 次調査区

7　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（L × L）備考：胎土に金雲母を含む

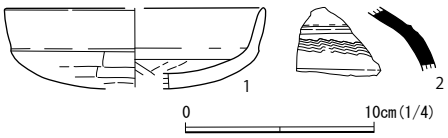
8　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壷形土器　文様：付加条縄文（R-S，L-Z）

9　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：大型壷形土器か　文様：付加条縄文（R-S，L-Z）

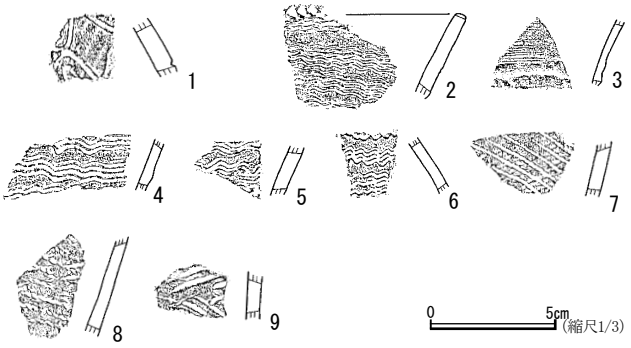



第 30 図　市毛上坪遺跡第 20 次調査区出土遺物

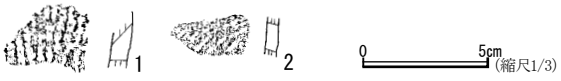
第 31 図　市毛上坪遺跡第 21 次調査区出土遺物（1）




第 32 図　市毛上坪遺跡第 21 次調査区出土遺物（2）




第 33 図　市毛上坪遺跡第 22 次調査区出土遺物




第 34 図　市毛上坪遺跡第 23 次調査区出土遺物

### （4）第 23 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 150 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 10 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.8 m～1.2 mを測る。調査の結果，古墳時代の住居跡を 3 基，土坑を 2 基確認した。ただし第 1 号土坑は小型の住居跡になる可能性もあろう。なお調査区から縄文土器，弥生土器，土師器が出土している。

#### 遺物説明

第 34 図

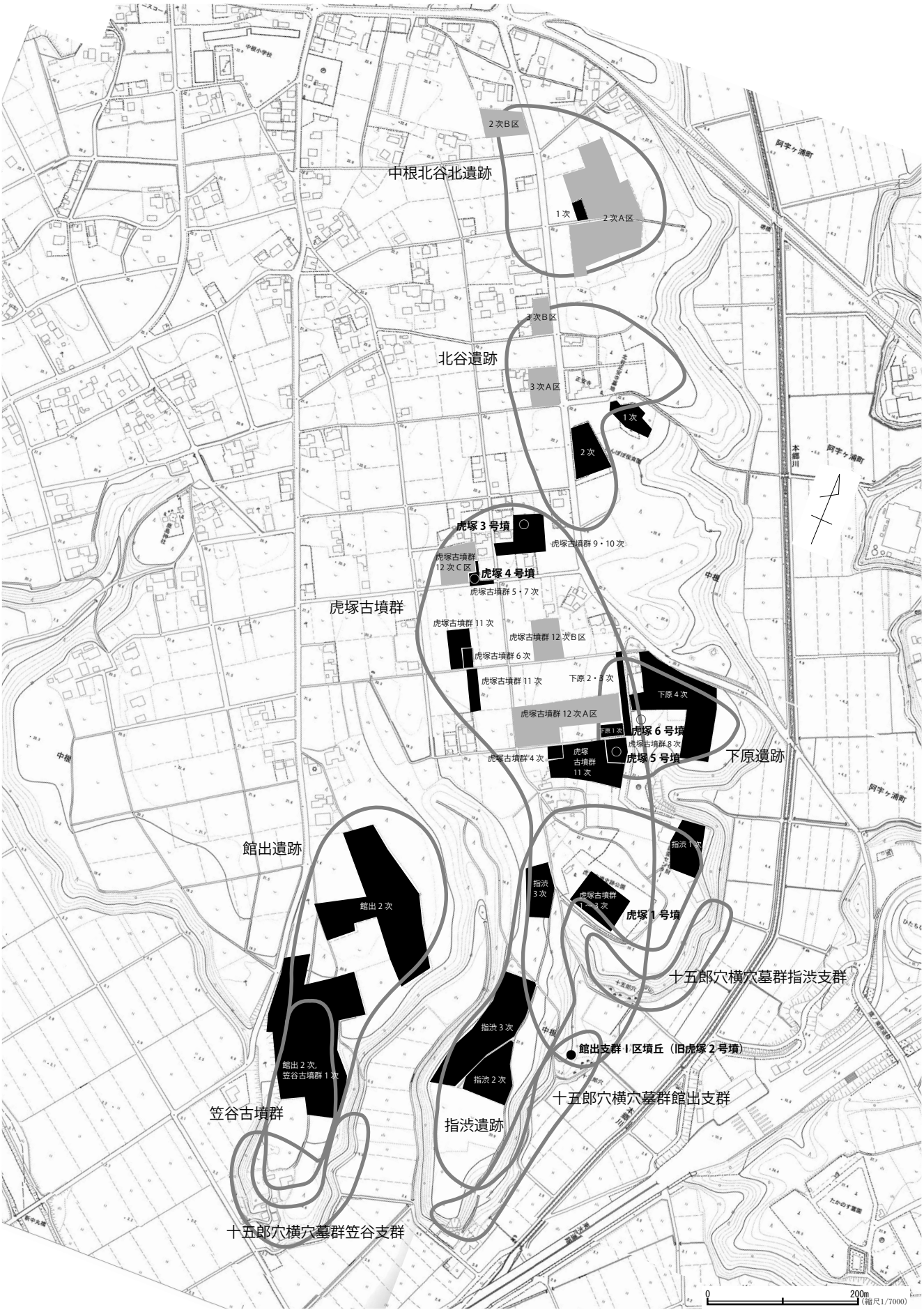
1　出土位置・注記：10 トレ　時代時期：縄文時代中・後期　文様：単節斜縄文（LR）

2　出土位置・注記：10 トレ　時代時期：弥生時代後期　文様：付加条縄文（R- S）

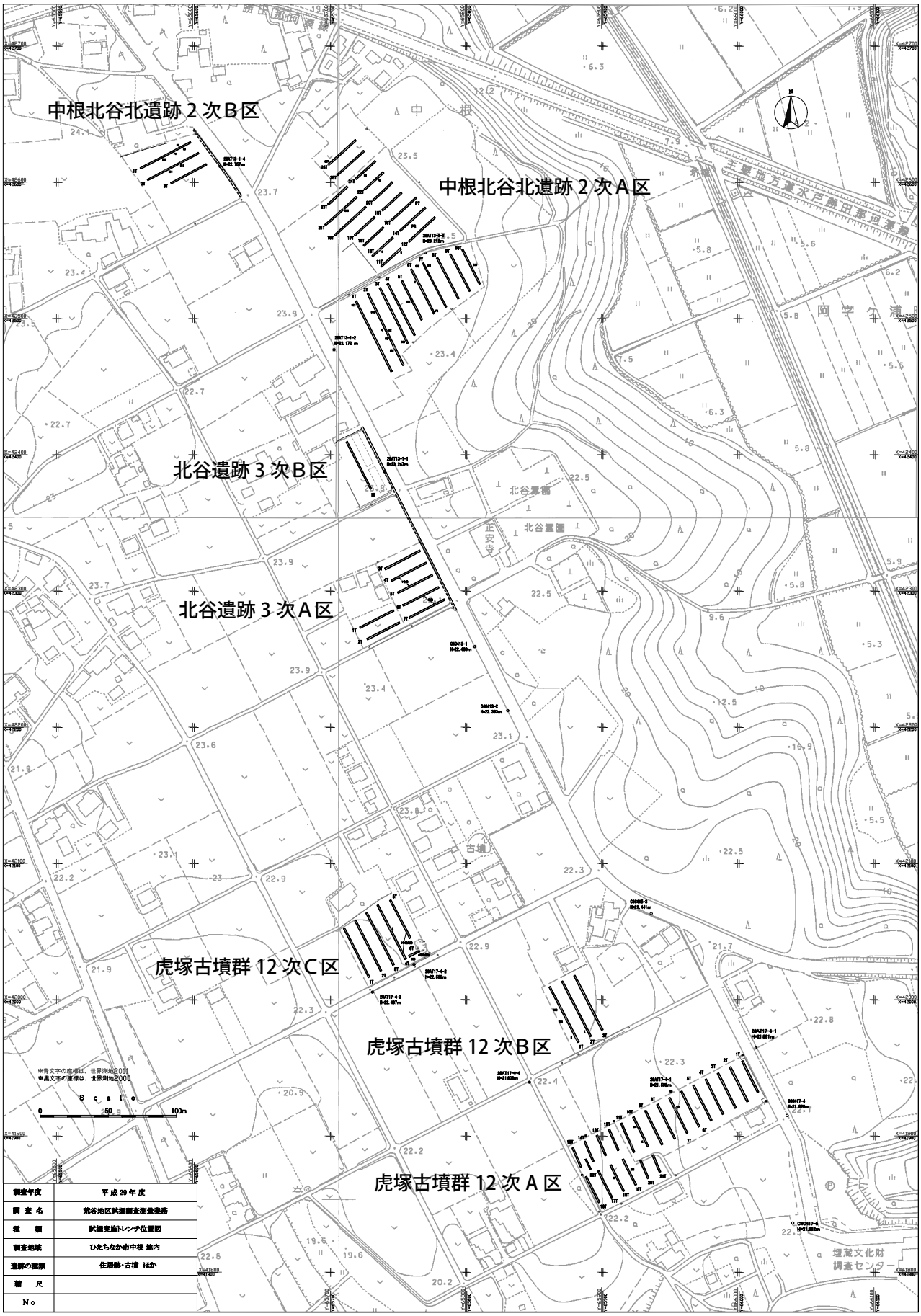
### （4）第 24 次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 140 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 11 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 m～0.9 mを測る。調査の結果，住居跡を 4 基，ピットを 2 基確認した。出土遺物からみて住居跡は奈良・平安時代と考えられる。

なお調査区からは，土師器，須恵器が出土している。




**第 35 図　荒谷地区の調査地点**（黒色：過去の調査地点，灰色：今回報告の調査地点）




第 36 図　中根北谷北遺跡第 2 次・北谷遺跡第 3 次・虎塚古墳群第 12 次調査区（縮尺 1/4000）

**第 9 表　虎塚古墳群調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1973 | 勝田市史編纂委 | 本調査 | 虎塚 1 号墳（前方後円墳）<br>横穴式石室（彩色壁画） | 1・2 |
| 2 | 1974 | 勝田市史編纂委 | 本調査 | 虎塚 1 号墳周溝 | 2 |
| 3 | 1976 | 勝田市史編纂委 | 本調査 | 虎塚 1 号墳周溝 | 2 |
| 4 | 1984 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 3 |
| 5 | 1986 | 調査会 | 本調査 | 虎塚 4 号墳（方墳）石室，周溝 | 4 |
| 6 | 1986 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 5 |
| 7 | 1987 | 勝田市教委 | 本調査 | 虎塚 4 号墳石室，周溝 | 4 |
| 8 | 1992 | 勝田市教委 | 試掘 | 虎塚 5 号墳石室，周溝 | 6 |
| 9 | 1999 | 市教委 | 試掘 | 虎塚 3 号墳周溝 | 7 |
| 10 | 1999 | 市教委 | 試掘 | 虎塚 3 号墳周溝 | 7 |
| 11 | 2017 | 公社 | 試掘 | 虎塚 5 号墳周溝 | 8 |


文献

1　勝田市虎塚壁画古墳第一次発掘調査概要
2　勝田市史別編 I 虎塚壁画古墳
3　昭和 58 年度市内遺跡発掘調査報告書
4　虎塚古墳群第 4 号墳
5　昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書
6　平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書
8　平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書


**第 10 表　北谷遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1987 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 1 |
| 2 | 1989 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居跡 1（縄文） | 2 |


文献

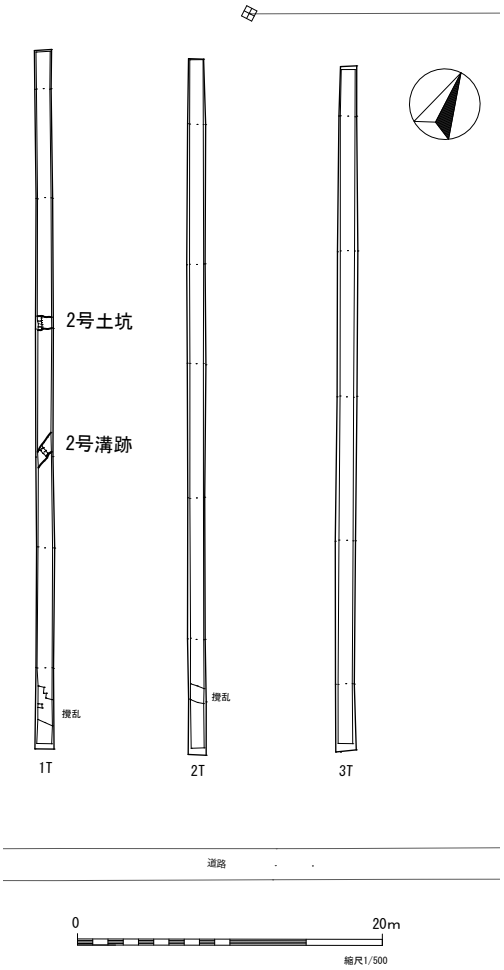
1　昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　指渋遺跡群発掘調査報告書


**第 11 表　中根北谷北遺跡調査一覧**

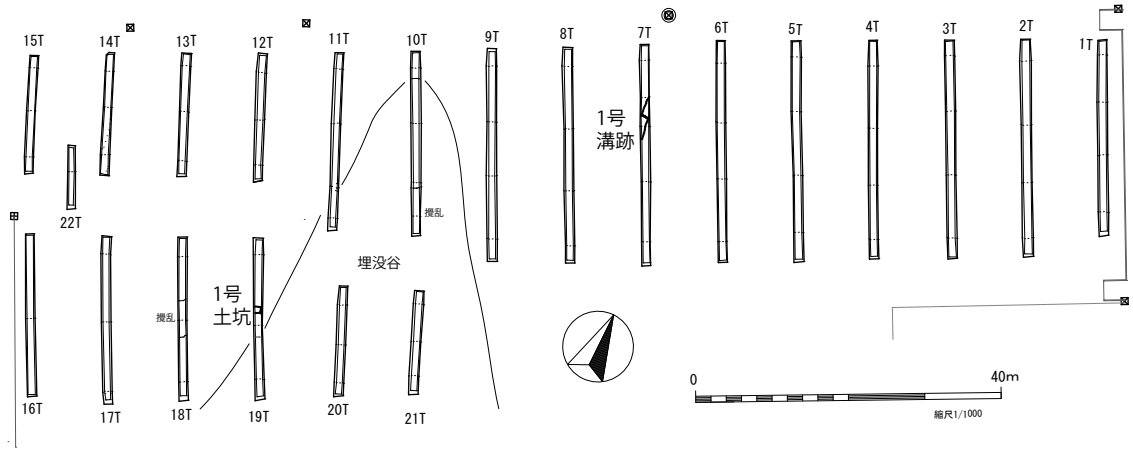
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2002 | 市教委 | 試掘 | ピット | 1 |


文献

1　平成 14 年度市内遺跡発掘調査報告書


**第 38 図　虎塚古墳群第 12 次調査区**（B 区）



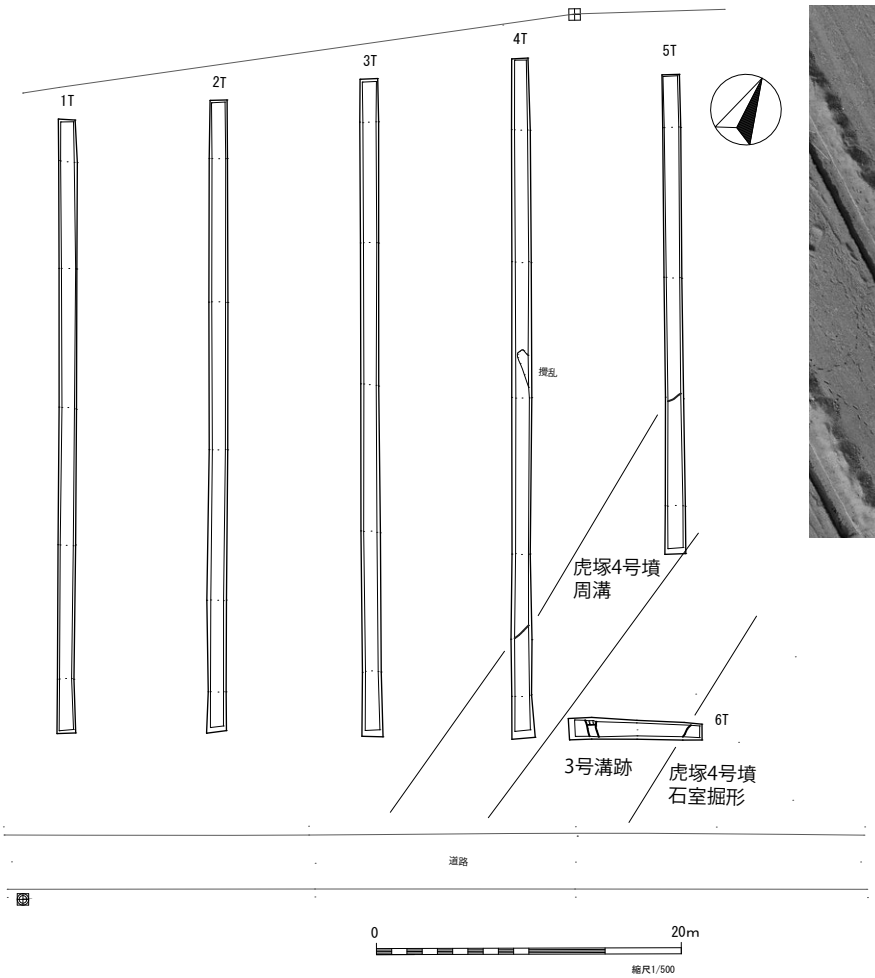

**第 37 図　虎塚古墳群第 12 次調査区**（A 区）

## 8　虎塚古墳群，北谷遺跡，中根北谷北遺跡

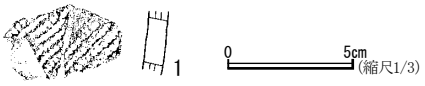
### (1) 虎塚古墳群第 12 次・北谷遺跡第 3 次・中根北谷北遺跡第 2 次調査報告

ひたちなか市中根に所在する荒谷地区は，国史跡に指定されている虎塚古墳（1 号墳）を有する虎塚古墳群や，笠谷古墳群などの重要な遺跡が位置する地域である。当地に畑地帯総合整備事業が実施されることとなったため，平成 27 年度から平成 29 年度にかけて対象地の試掘調査が実施されることとなった。

平成 29 年度は虎塚古墳群，北谷遺跡，中根北谷北遺




**第 39 図　虎塚古墳群第 12 次調査区**（C 区）




**第 40 図　虎塚古墳群第 12 次調査区出土遺物**

跡が対象となり，約３万１千㎡ほどの土地でトレンチによる試掘調査が実施された。

調査地は，本郷川右岸台地上に位置し，虎塚古墳群は緩やかな起伏を持つ地形であるが，北谷遺跡と中根北谷北遺跡は平坦な地形を呈する。調査地は畑地である。調査は対象地に 68 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは，0.3 ～ 1.3 m を測る。以下，遺跡ごとに調査結果を記述する。

**虎塚古墳群第 12 次調査**　調査の結果，虎塚４号墳（方墳）の周溝と石室掘形の一部を確認したほか，溝跡２条および土坑２基が確認された。溝跡および土坑からの遺物はなく，時期は不明である。調査区からの遺物は，土師器片が少量出土している。

**第 41 図　虎塚 4 号墳周溝の確認状況**

**遺物説明**

第 40 図

1　出土位置・注記：C 区 1 トレ　時代時期：縄文時代中期　文様：単節斜縄文（RL）

**北谷遺跡第 3 次調査**　調査の結果，溝跡 1 条を確認した。溝跡からの出土遺物はなく，時期は不明である。調査区からの遺物は，鉄釘および須恵器・土師器片が少量出土している。

**中根北谷北遺跡第 2 次調査**　竪穴住居跡 10 基，溝跡 1 条，土坑 2 基，ピット 11 基を確認した。住居跡は，2・３・６・７～９号住居跡が出土土器からみて平安時代と思われる。１・４・５・１０号住居跡は出土土器がなく時期不明である。溝跡および土坑は出土遺物がなく時期不明である。調査区からの遺物は，縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器の小片が少量出土している。なお 1 号住居跡から鉄鏃頸部破片が出土している。

**遺物説明**

第 46 図

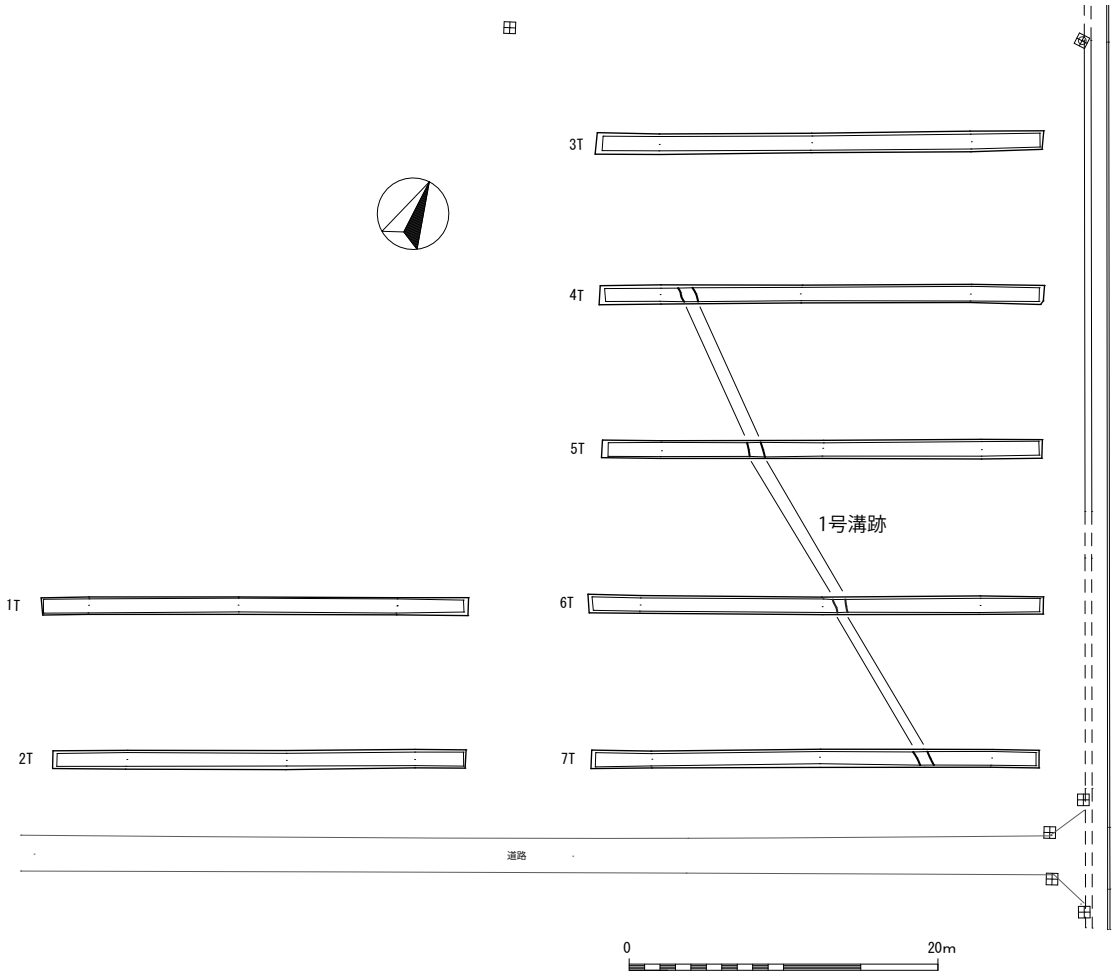
1　出土位置・注記：A 区表採　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）文様：口唇に凹線文，単節斜縄文（LR）

2　出土位置・注記：A 区表採　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）文様：隆線文・凹線文，単節斜縄文（LR）

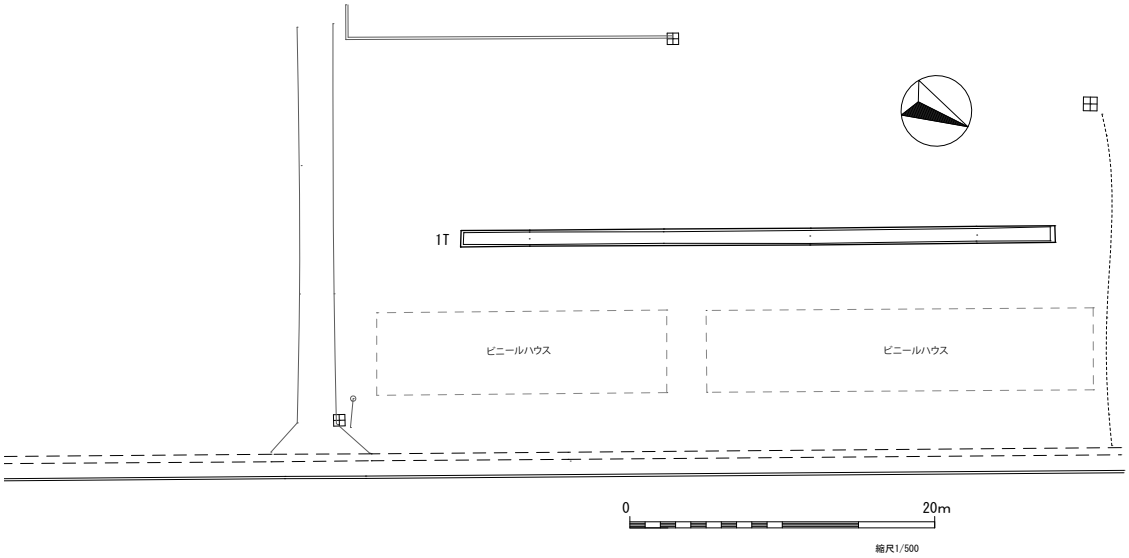
3　出土位置・注記：A 区 10 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）　文様：沈線文，単節斜縄文（RL）

4　出土位置・注記：A 区 22 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）　文様：沈線文，単節斜縄文（RL），磨消縄文

5　出土位置・注記：A 区 17 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E




**第 42 図　北谷遺跡第 3 次調査区**（A 区）



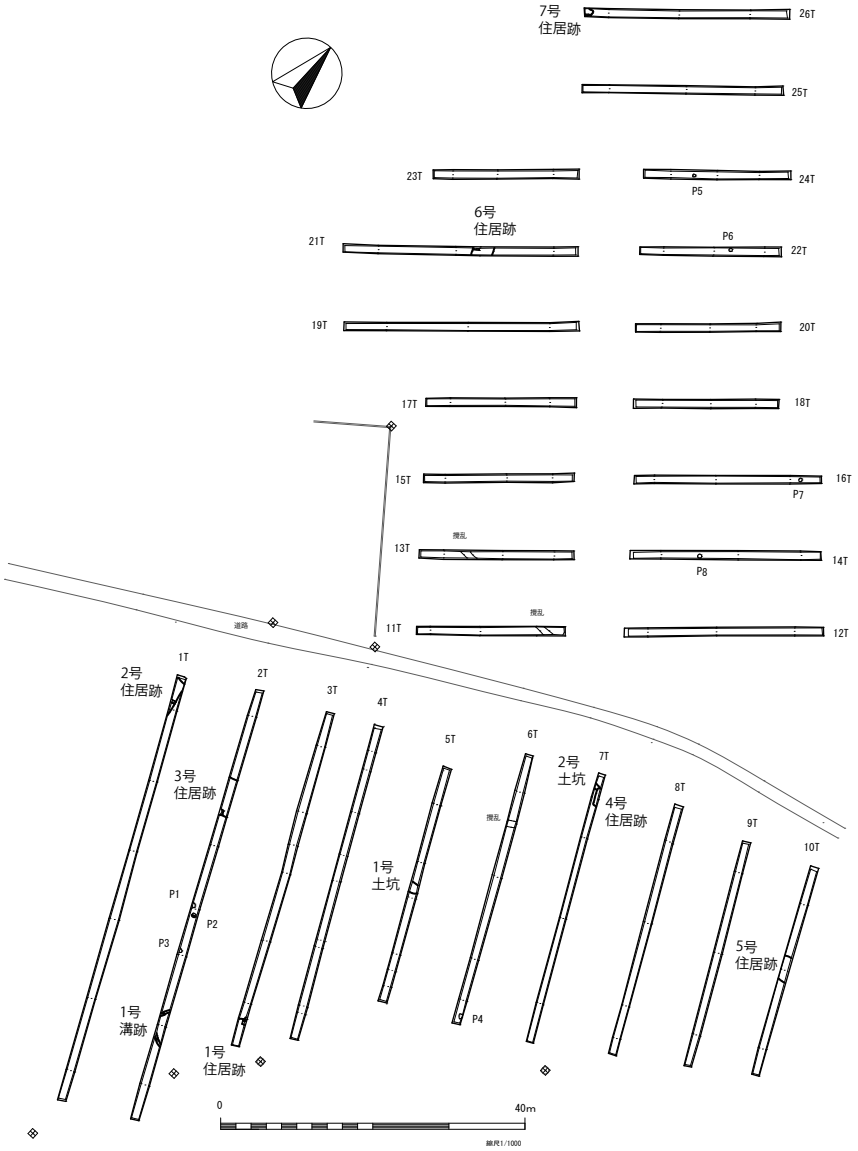

**第 43 図　北谷遺跡第 3 次調査区**（B 区）

式）　文様：沈線文，単節斜縄文（LR）

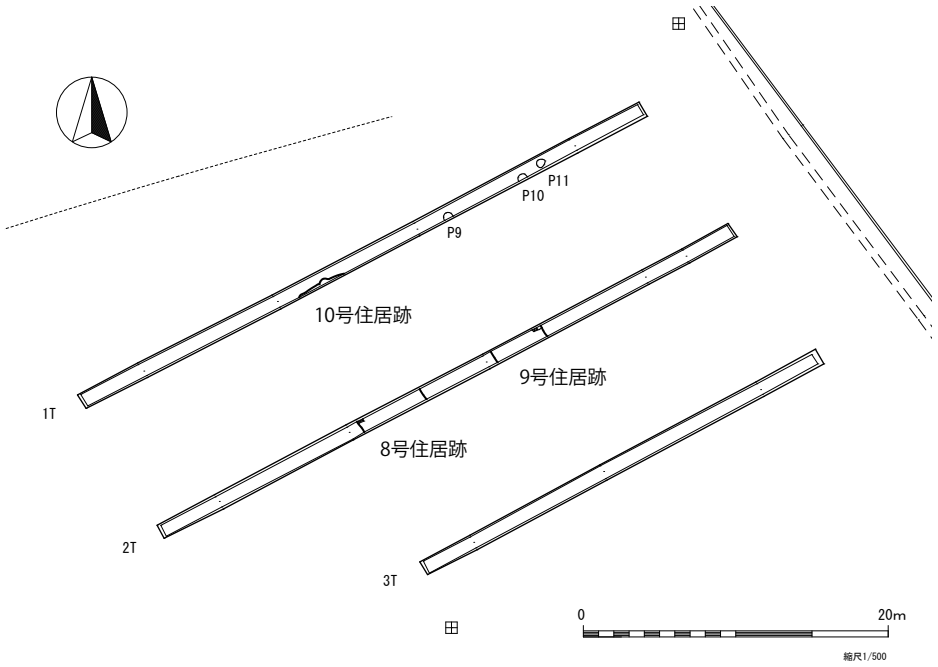
6　出土位置・注記：A 区表採　時代時期：縄文時代中期　文様：単節斜縄文（RL）

7　出土位置・注記：A 区 15 トレ　時代時期：縄文時代中期　文様：単節斜縄文（LR）　備考：胎土に泥岩片目立つ

8　出土位置・注記：A 区 9 トレ　時代時期：縄文時代中期　法量：最大径 126 ㎜（残存率 21％の部分から推定）　文様：単節斜縄文（RL）　備考：器内面に炭化物付着




**第 44 図　中根北谷北遺跡第 2 次調査区**（A 区）




**第 45 図　中根北谷北遺跡第 2 次調査区**（B 区）

# 9　高野冨士山遺跡

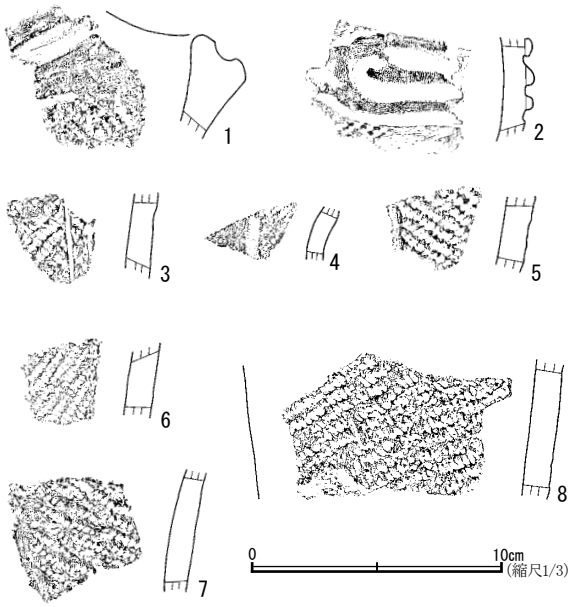
## (1) 第 12 次調査報告

調査地は，新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.7 m～ 0.8 mを測る。調査の結果，一辺約 11.5 mを測る古墳時代後期と考えられる大型住居跡が確認された。なお 6 トレンチで，竈材と考えられる白色粘土と 9 世紀の須恵器が出土していることからみて，平安時代の住居跡の重複が考えられるが，その形状等は不明である。なお調査区からは，土師器，須恵器が出土している。

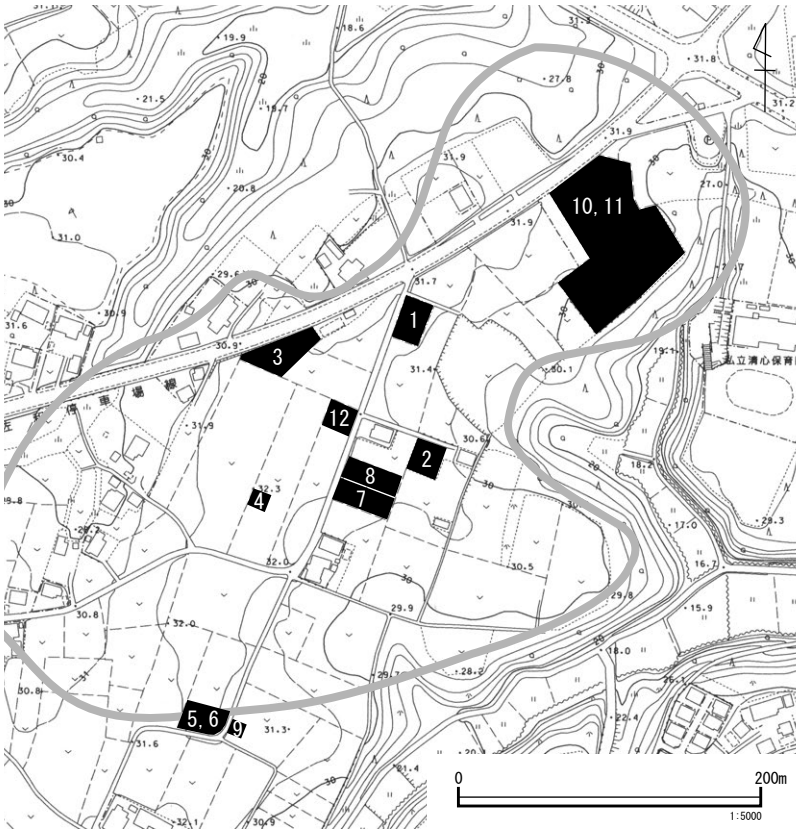
### 遺物説明

第 49 図

1　出土位置：6 トレ　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 40%，体部下半 20%　法量：底径（6.5）　色調：灰色　胎土：礫（灰多，白多），骨針少　特徴：底部外面ナデ後ヘラ記号。焼成硬質。外面底部周縁摩滅。　備考：木葉下窯産か



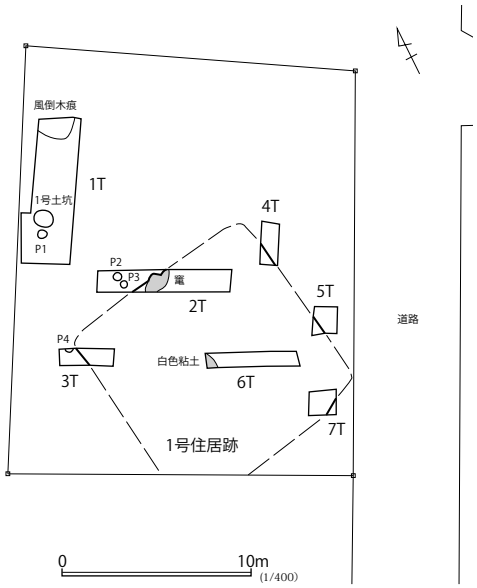

**第 46 図　中根北谷北遺跡第 2 次調査区出土遺物**



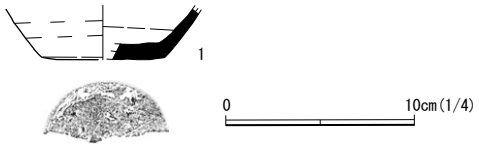

**第 47 図　高野冨士山遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 12 表　高野冨士山遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1982 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 1 |
| 2 | 1989 | 勝田市教委 | 試掘 | 住居跡 1（古墳） | 2 |
| 3 | 2001 | 市教委 | 本調査 | 土坑墓 1（近世），住居跡 1（古墳） | 3 |
| 4 | 2007 | 市教委 | 試掘 | なし | 4 |
| 5 | 2010 | 公社 | 試掘 | 住居跡 3（平安），土坑 2 | 5 |
| 6 | 2010 | 公社 | 本調査 | 住居跡 1（平安） | 5 |
| 7 | 2013 | 公社 | 試掘 | なし | 6 |
| 8 | 2015 | 公社 | 試掘 | なし | 7 |
| 9 | 2017 | 公社 | 試掘 | なし | 8 |
| 10 | 2017 | 公社 | 試掘 | 住居跡 3（古墳～奈良 3），溝 1 | 8 |
| 11 | 2017 | 毛野考古学研究所 | 本調査 | 住居跡 3（奈良・平安），土坑 1，溝 1 | 9 |




**第 48 図　高野冨士山遺跡第 12 次調査区**




**第 49 図　高野冨士山遺跡第 12 次調査区出土遺物**


文献

1　昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書

2　平成元年度勝田市内遺跡発掘調査報告書

3　平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書

4　平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書

5　平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

6　平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

7　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

8　平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

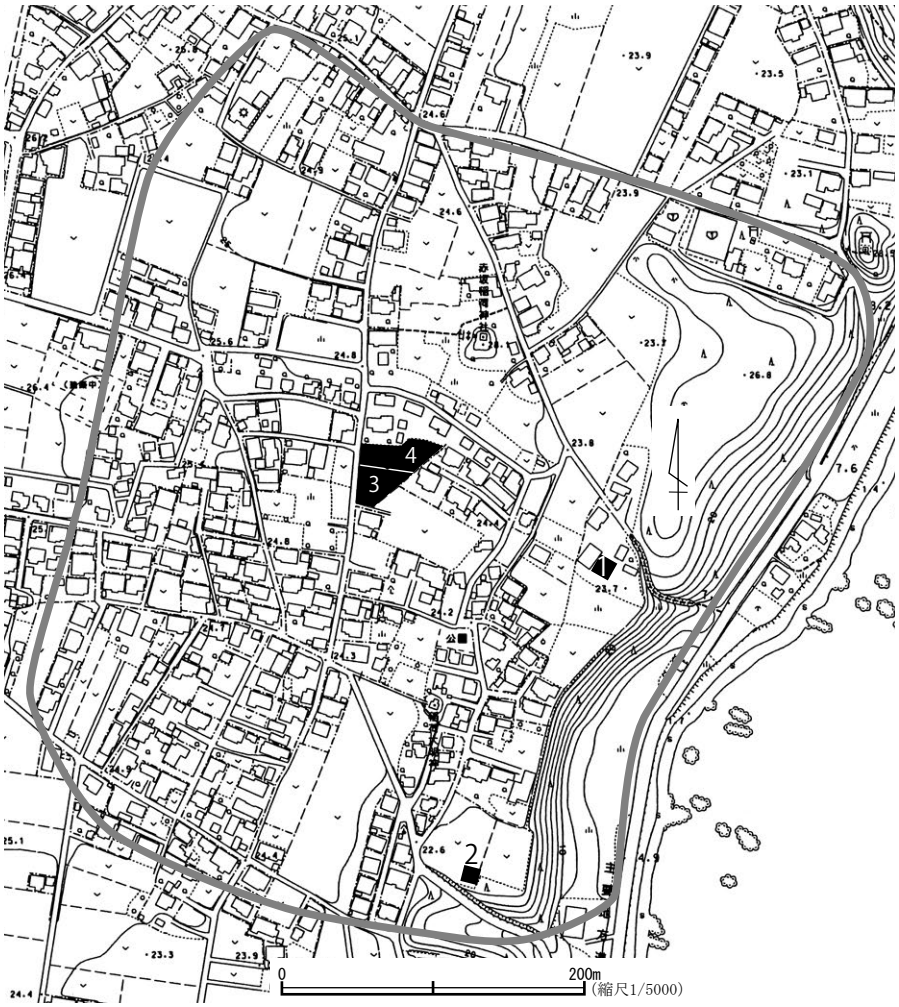
9　高野冨士山遺跡


## 10　磯合古墳群

### (1) 第 4 次調査報告

調査地は，海岸に面する台地縁辺から 100 m ほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 11 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 m～ 0.8 mを測る。

調査の結果，古墳の周溝と石室掘形を確認した。古墳は部分的な周溝確認のため形状は不明瞭であるが，おそらく一辺約 17 m程の方形になる可能性がある。またその位置からみて石室




第 50 図　磯合古墳群の調査地点（数字は調査次数）

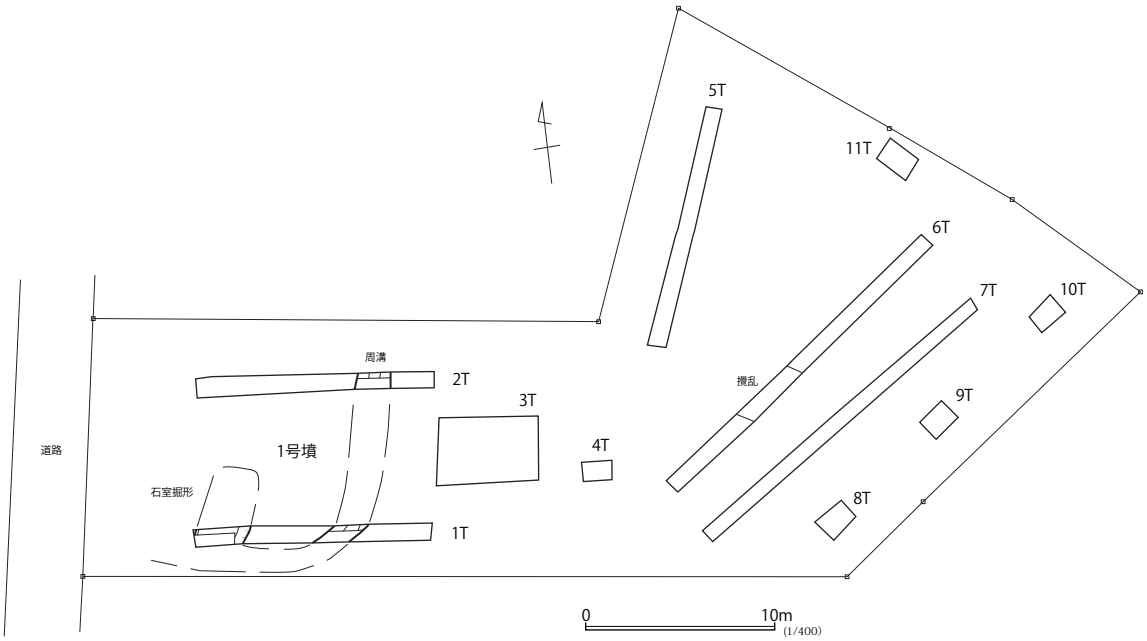
第 13 表　磯合古墳群調査一覧

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1995 | 市教委 | 試掘 | なし | 1 |
| 2 | 2009 | 公社 | 試掘 | なし | 2 |
| 3 | 2016 | 公社 | 試掘 | 円墳 1，溝 1 | 3 |

文献
1　平成 7 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

第 52 図　磯合古墳群第 4 次調査区
1 号墳周溝（1 トレンチ）

第 53 図　磯合古墳群第 4 次調査区
1 号墳石室掘形（1 トレンチ）




第 51 図　磯合古墳群第 4 次調査区

掘形ではないかと思われた土坑の一部を，確認面から 62cm ほど掘り下げた。しかし底面は確認できなかった。その土坑は 10cm 以下の礫が壁際近くに多く認められており，そうした点からも石室掘形の一部ではないかと考えられた。なお調査区からの遺物は，石室掘形から土師器小片が 1 点出土したのみであった。

調査対象地である畑地の周囲には，古墳の石室石材と思われる人頭大の石が散乱している。『平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』でも記したが，耕作の邪魔になる石室石材が，過去に掘り出されたことが考えられる。

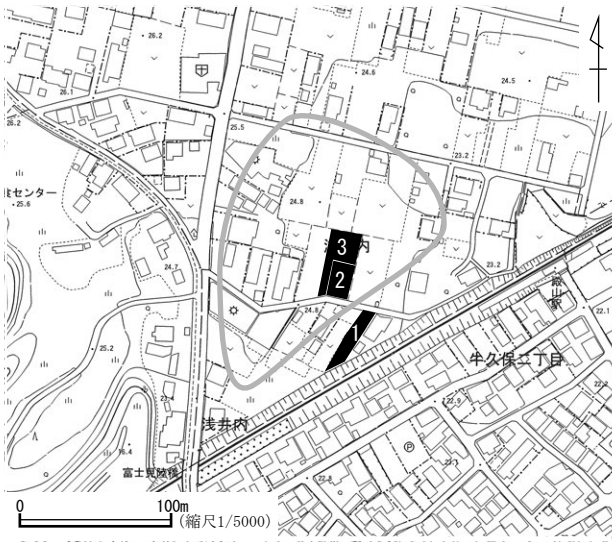
## 11　浅井内遺跡

### (1) 第 2 次調査報告

調査地は，那珂川河口部の，現在那珂湊の市街地がある低地から北東に入り込む谷の谷頭から 100 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 8 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.7 m～ 1.0 mを測る。調査の結果，幅 2 mを測り屈曲している溝跡を 1 条確認した。溝跡は深さ 25cm ～ 43cm ほどであった。溝跡からの遺物はなく時期は不明である。なお調査区から遺物は出土しなかった。

### (2) 第 3 次調査報告

調査地は，第 2 次調査区の隣接地であり平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 11 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6 m～ 1.0 mを測る。調査の結果，遺構は時期不明のピットを 1 基確認したのみである。なお風倒木痕を 6 か所確認している。調査区から遺物は出土しなかった。



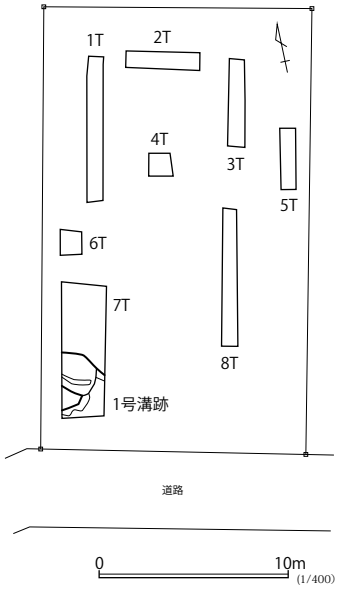

**第 54 図　浅井内遺跡の調査地点**

**第 14 表　浅井内遺跡調査一覧**

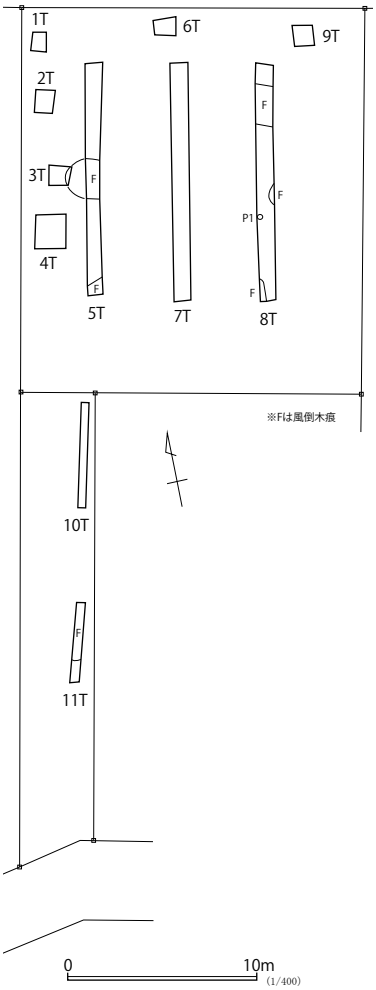
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2004 | 市教委 | 試掘 | 土坑 2 | 1 |

文献

1　平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書




**第 55 図　浅井内遺跡第 2 次調査区**




**第 56 図　浅井内遺跡第 3 次調査区**

# 12　天王前遺跡

## (1) 第 6 次調査報告

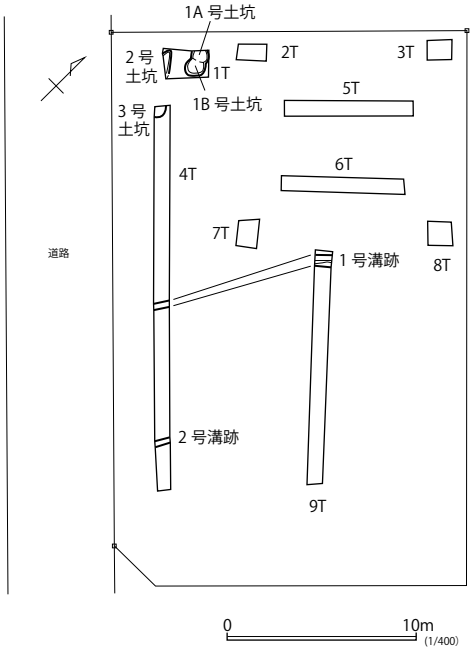
調査地は，中丸川低地から 190 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 9 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 m～ 0.9 mを測る。調査の結果，溝跡 2 条，土坑 4 基が確認された。溝跡は，1 号溝跡が確認面幅 0.7m，2 号溝跡が確認面幅 0.3m を測る。土坑は，円形が 3 基（1 A・B 号土坑，3 号土坑），方形が 1 基（2 号土坑）である。1 A・B 号土坑から内耳土鍋口縁部片と陶器片が出土していることから，中近世の土坑となる可能性がある。他の遺構からは出土遺物がないため，時期は不明である。

調査区からは，縄文土器，土師器，須恵器，瓦質土器が出土している。

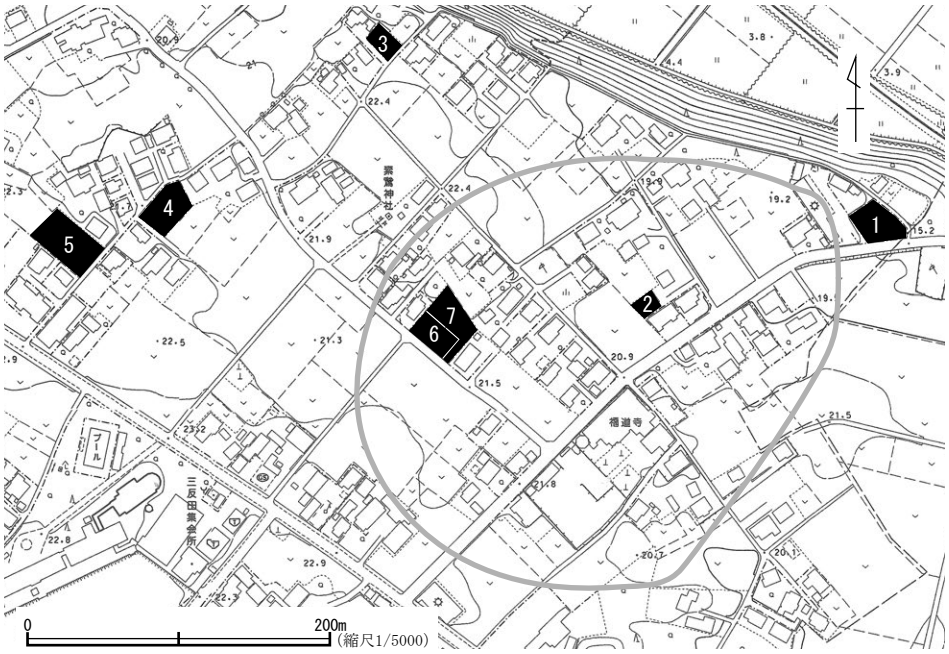
### 遺物説明

第 59 図

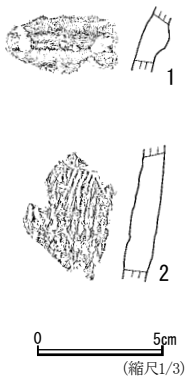
1　出土位置・注記：4 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）
文様：隆帯　備考：器表面に後世の傷多い
2　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）
文様：無節斜縄文（L）もしくは反撚り縄文（LL）




**第 58 図　天王前遺跡第 6 次調査区**




**第 57 図　天王前遺跡の調査地点**

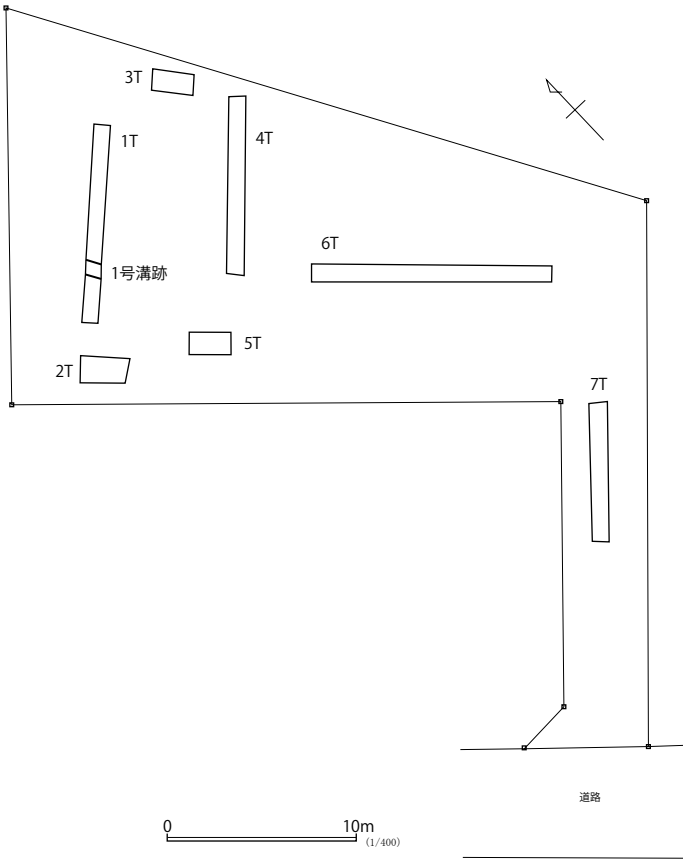



**第 59 図　天王前遺跡第 6 次調査区出土遺物**

**第 15 表　天王前遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1984 | 勝田市教委 | 試掘 | 住居跡 1（平安） | なし | |
| 2 | 1985 | 勝田市教委 | 試掘 | 溝跡 3、土坑 1 | 1 | |
| 3 | 1992 | 勝田市教委 | 試掘 | なし | 2 | 実際は三反田蜆塚遺跡の範囲内 |
| 4 | 1999 | 市教委 | 試掘 | 竪穴状遺構 | なし | 実際は椎塚西貝塚の範囲内 |
| 5 | 2000 | 市教委 | 試掘 | 集石遺構，土坑 | 3 | 実際は椎塚西貝塚の範囲内 |


文献
1　昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 12 年度市内遺跡発掘調査報告書




**第 60 図　天王前遺跡第 7 次調査区**

## 13　向野 A 遺跡

### (1) 第 5 次調査報告

調査地は，本郷川から北東方向に延びる小支谷の奥部に所在する馬渡埴輪製作遺跡の北 200 mほどに位置し，平坦な地形を呈する。調査時は林地であった。調査は 4 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6 m～ 0.8 mを測る。調査の結果，溝跡 1 条が確認された。溝跡は，1 号溝跡が確認面幅 2.0m，深さ 0.5 mを測る。出土遺物がないため，時期は不明である。なお調査区からも遺物は出土していない。

ところで，今回確認された 1 号溝跡であるが，現地で溝跡から南西方向を見ると，溝跡の延長方向に向けて，ややくぼんだ地形が続いていることが確認される。その溝跡の位置は，「鎌倉街道」と地元に伝承されていたという（飛田英世 2018「ひたちなか市の鎌倉街道」『常総中世史研究』第 6 号，茨城大学中世史研究会）中世の古道の推定ライン上にあり，おそらくその古道の側溝

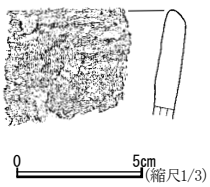
### (2) 第 7 次調査報告

調査地は，中丸川低地から 180 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 m～ 0.4 mを測る。調査の結果，溝跡 1 条が確認された。溝跡は出土遺物がないため時期は不明である。なお調査区から縄文土器片が出土した。

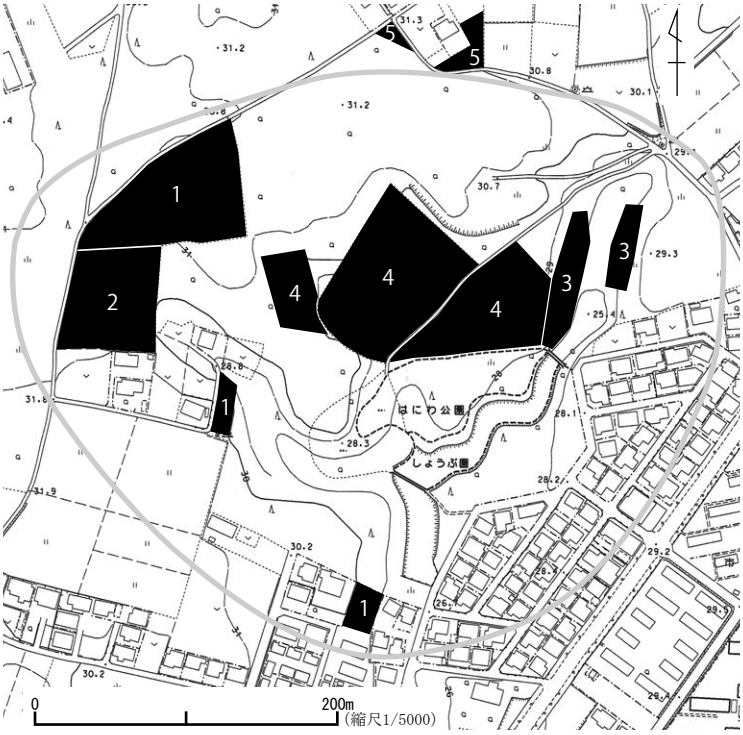
### 遺物説明

第 61 図

1　出土位置・注記：1 トレ　時代時期：縄文時代後期前葉　備考：胎土に骨針を含む




**第 61 図　天王前遺跡第 7 次調査区出土遺物**



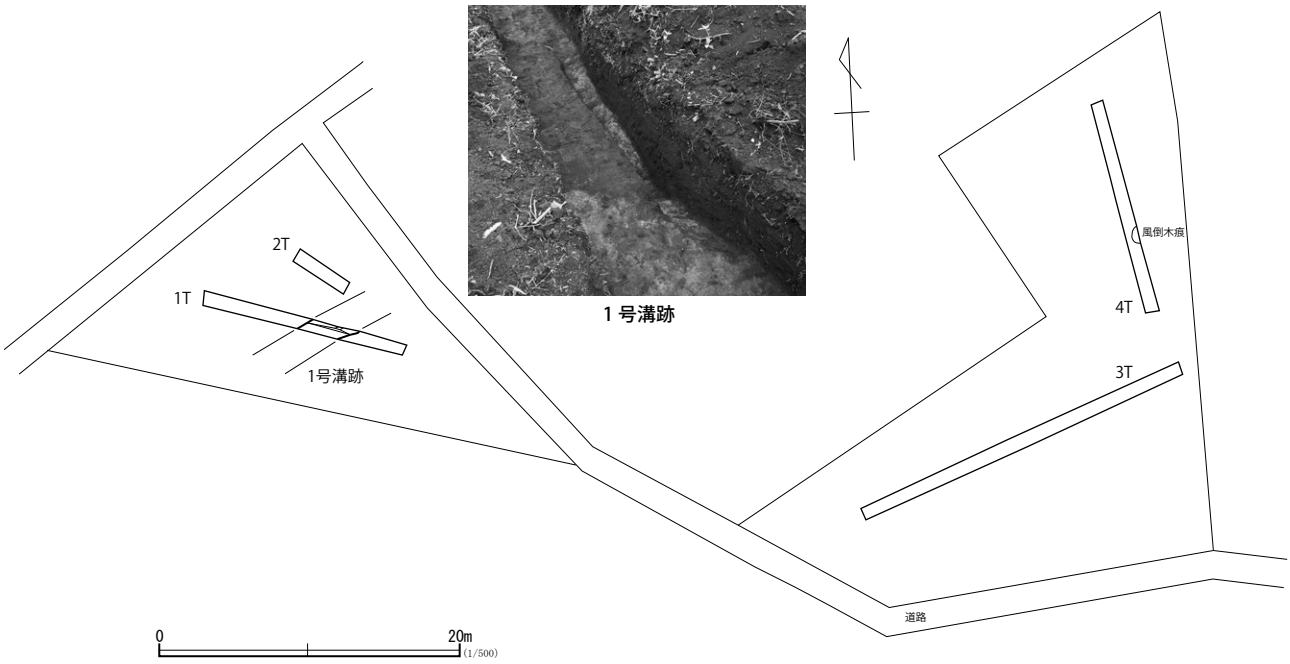

**第 62 図　向野 A 遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 16 表　向野 A 遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1990 | 公社 | 本調査 | 包含層（縄文），粘土採掘坑 2（弥生），溝 1 | 1・5 |
| 2 | 2002 | 公社 | 本調査 | なし | 2・5 |
| 3 | 2003 | 公社 | 本調査 | 陥穴 1（縄文），溝 2 | 3・5 |
| 4 | 2004 | 公社 | 本調査 | 陥穴 1（縄文），住居跡 1（古墳），溝 2（中・近世） | 4・5 |

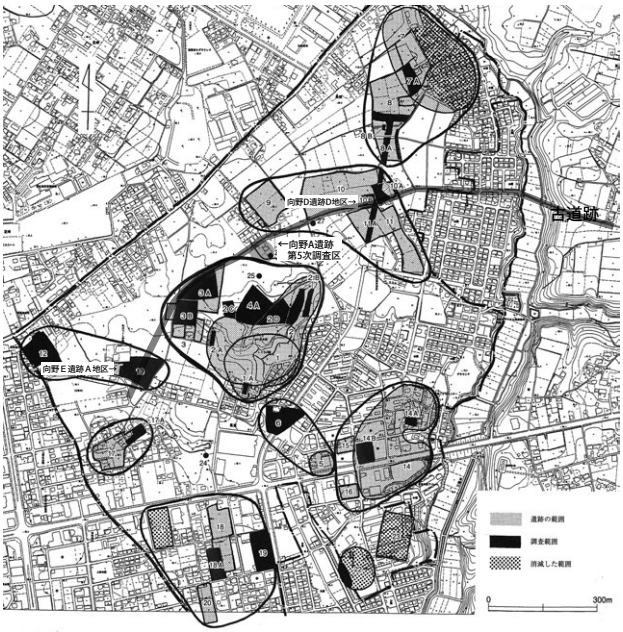
文献

1　向野Ⅰ
2　向野Ⅴ
3　向野Ⅵ
4　向野Ⅶ
5　向野遺跡群

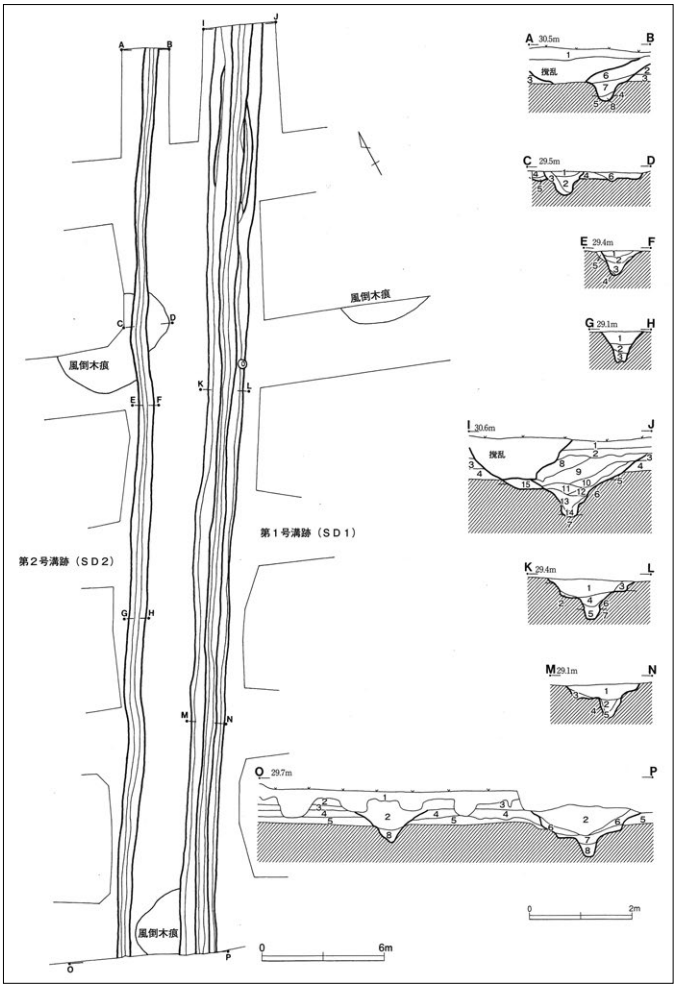



**第 63 図　向野 A 遺跡第 5 次調査区**

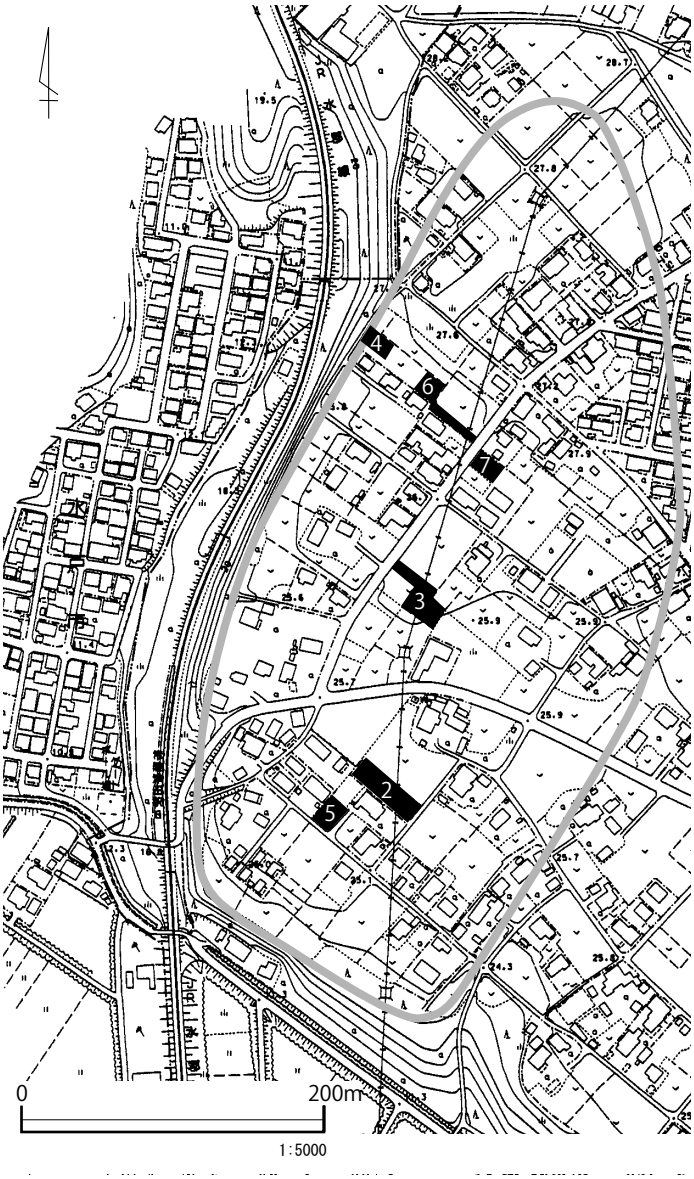
になるのではないかと思われる。向野遺跡群における過去の調査でも，古道ライン上にあたる，向野 D 遺跡 D 地区，向野 E 遺跡 A 地区などで，並行する 2 本の溝跡が発掘されており（白石真理ほか 2007『向野遺跡群』），今回確認された 1 号溝跡もそうした溝跡の一部となる可能性が高い。つまり，飛田氏が推定された古道跡に沿って道路側溝が遺存しているといえよう。古道跡の存続時期は中世から近世にかけてと考えられているが，現状では不明瞭である。ただし，向野 D 遺跡 D 地区 4B 号溝跡出土の瓦質土器や陶器などは参考になる資料であろう。




**第 64 図　向野地区の古道跡**（『向野遺跡群』第 2 図を引用・加筆）




**第 65 図　向野 E 遺跡 A 地区の並行する溝跡**
（古道跡か？，『向野遺跡群』第 168 図より引用）




第 66 図　黒袴遺跡の調査地点（数字は調査次数）

## 14　黒袴遺跡

### (1) 第 7 次調査報告

調査地は，那珂川低地から北に入り込む谷から 120 m ほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は砕石敷きの駐車場であった。調査は 5 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.7 m～ 1.1 mを測る。調査の結果，遺構，遺物とも確認されなかった。

## 15　峪遺跡

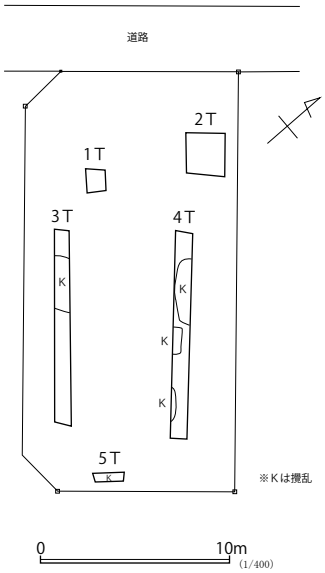
### (1) 第 1 次調査報告

調査地は，中丸川低地から南西方向に入り込む谷から，

第 17 表　黒袴遺跡調査一覧

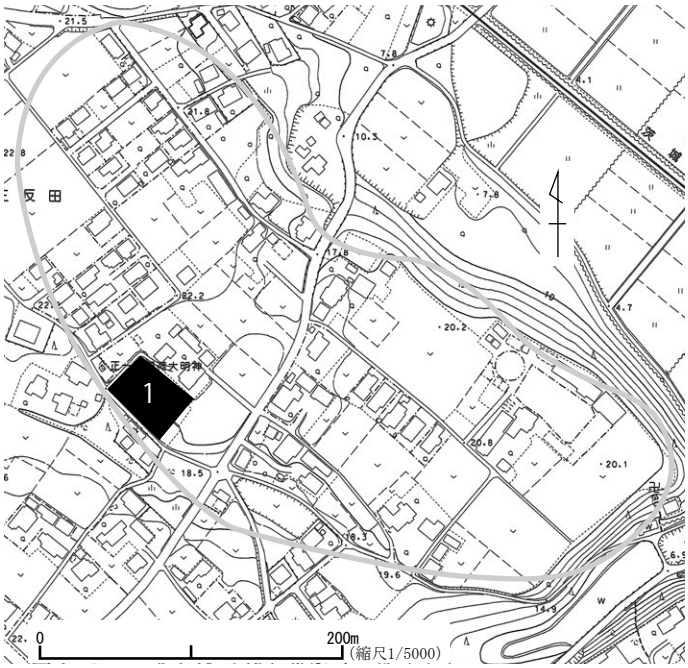
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1965 | 不明 | 本調査 | 道路 1，土坑 1 | なし |
| 2 | 1983 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 3（古墳前期 1，平安 1），土坑 3 | 1 |
| 3 | 2008 | 公社 | 試掘 | 溝 1 | 2 |
| 4 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 1（古墳），溝 1 | 3 |
| 5 | 2016 | 公社 | 試掘 | 住居 3（弥生 1，古墳 2），土坑 1 | 4 |
| 6 | 2017 | 公社 | 試掘 | なし | なし |

文献
1　昭和 58 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
4　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
5　平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書




第 67 図　黒袴遺跡第 7 次調査区

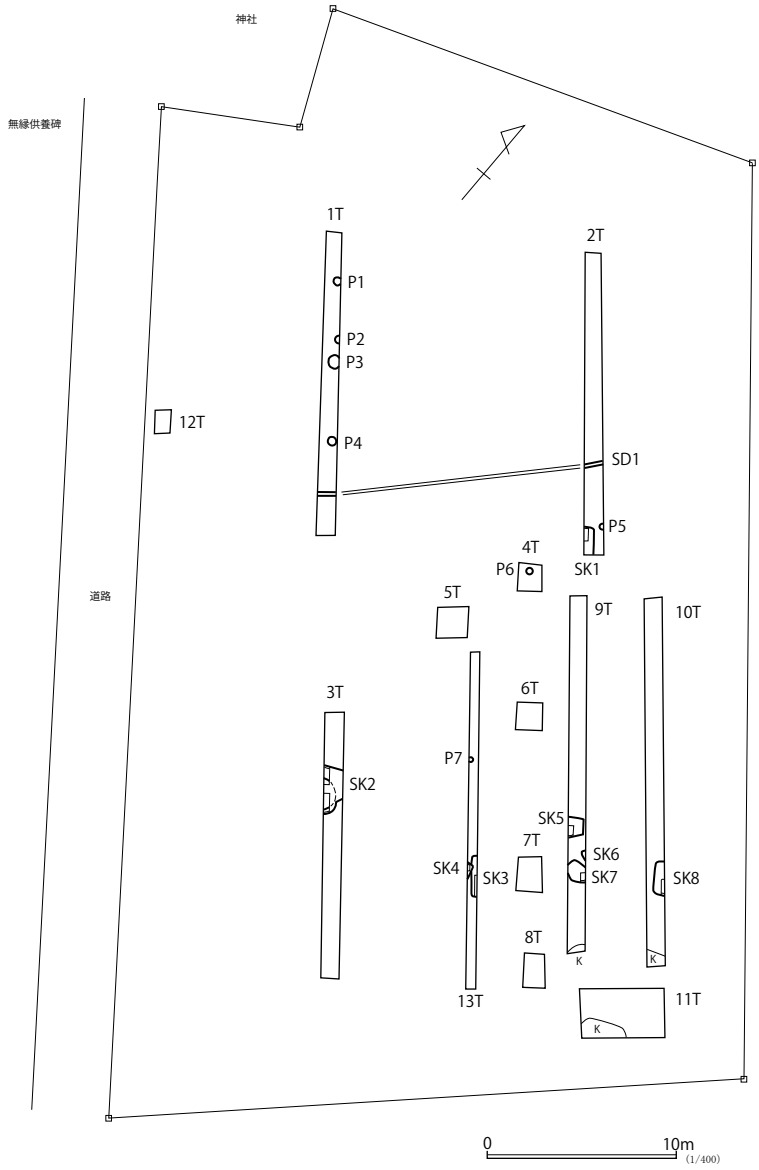
北西方向に延びる浅い小支谷の奥部に位置し，南方へ緩く傾斜する地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 13 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.1 m～ 0.8 m を測る。調査の結果，溝 1 条，土坑 8 基，ピット 7 基が確認された。溝跡は幅 15cm ほどで，出土遺物はなく時期は不明である。土坑は 8 基確認した。1 号土坑のみ須恵器小片が 1 点出土しているが，これは混入の可能性もあるため，土坑は全て時期不明である。2 号土坑は円形に深く落ち込む部分があり，井戸跡と考えられる。井戸の深さはボーリングステッキによる確認で深さ 1.5 m以上あることがわかった。1・3・7・8 号土坑の底面は硬化していた。調査区からは，縄文土器，土師器，須恵器，瓦質土器の小片が少量ずつ出土している。




**第 68 図　峪遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 70 図　峪遺跡の無縁供養碑**

なお，調査区の北東方向に隣接する場所に，昭和 16 年 8 月建立の無縁供養碑が存在する。もしかすると当地周辺で人骨の出土があったのかもしれない。今回検出の遺構群が関係するのだろうか。参考資料として写真を掲載しておく。




**第 69 図　峪遺跡第 1 次調査区**

## 16　市毛本郷坪遺跡

### (1) 第 9 次調査報告

調査地は，那珂川低地から北方へ入り込む小さな谷（現在は国道 6 号線となる。）を望む台地上に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 3 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4 m～ 0.7 mを測る。調査の結果，住居跡は 11 基確認された。出土遺物から，2・5・10 号住居跡が古墳時代，6 号住居跡が平安時代と思われる。このほかの住居跡は出土遺物がなく時期は不明である。また，幅 1.5m ほどの溝が 1 条確認されており，内耳土器の出土からみて中世の溝になる可能性が高い。土坑は 2 基確認されたが，遺物がなく時期は不明である。

調査区からは，縄文土器，土師器，須恵器，中世土器が出土している。

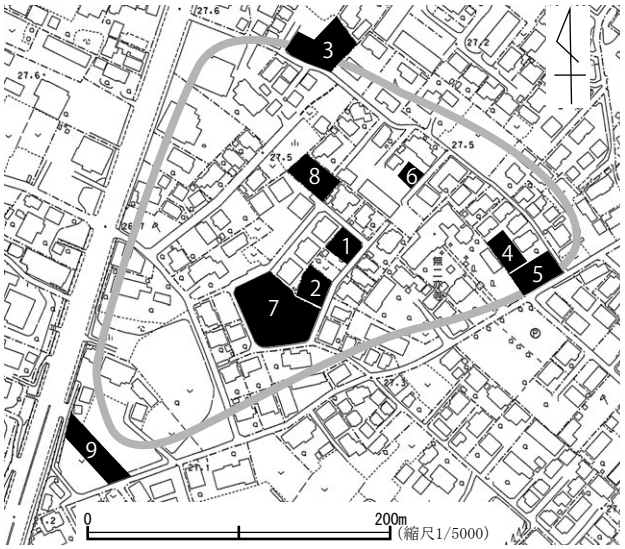
#### 遺物説明

第 72 図

1　出土位置・注記：表採　時代時期：縄文時代中・後期　文様：単節斜縄文（RL）

第 73 図

1　出土位置：2 トレ 1 溝　材質：土師質　器種：紡錘車　残存：一部欠失　法量：径 5.4，高 2.0，重量 48.5g　色調：白褐色，

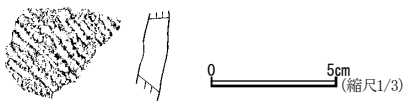



**第 71 図　市毛本郷坪遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

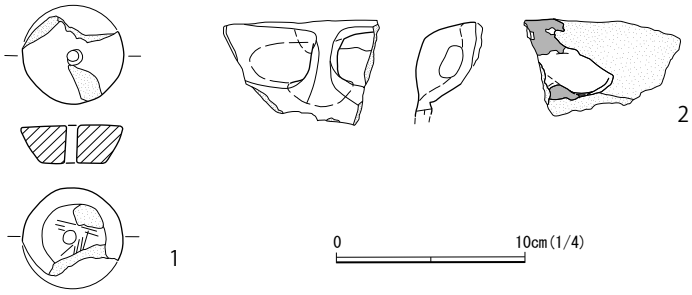
**第 18 表　市毛本郷坪遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1980 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 2（古墳 1，平安 1） | 1 |
| 2 | 1980 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 1(古墳)，土坑 3，溝 1 | 1 |
| 3 | 1987 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 3（平安），土坑 2 | 2 |
| 4 | 1989 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 1（古墳） | 3 |
| 5 | 1990 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 1（奈良） | 4 |
| 6 | 1994 | 市教委 | 本調査 | 溝 1 | 5 |
| **7** | **2016** | **公社** | **試掘** | 住居跡 10（奈良・平安），土坑 1，溝 1 | **6** |
| **8** | **2016** | **公社** | **試掘** | 住居跡 4（奈良・平安） | **6** |

文献
1　市内遺跡発掘調査報告書
2　昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　平成元年度市内遺跡発掘調査報告書
4　平成 2 年度市内遺跡発掘調査報告書
5　平成 6 年度市内遺跡発掘調査報告書
6　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



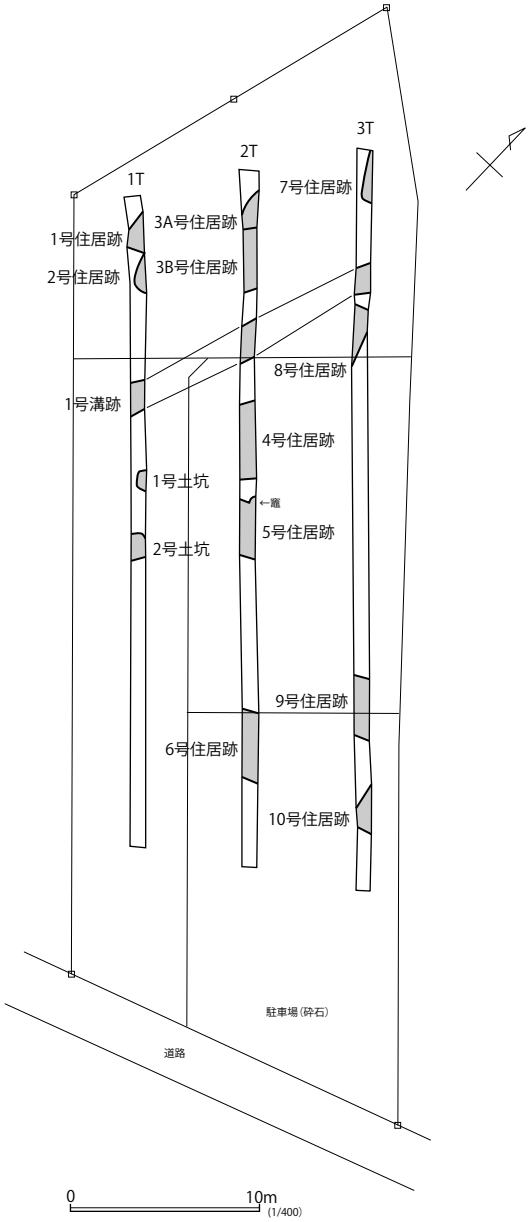

**第 72 図　市毛本郷坪遺跡第 9 次調査区出土遺物（1）**




**第 73 図　市毛本郷坪遺跡第 9 次調査区出土遺物（2）**

一部黒色　胎土：砂（角閃石類，透，灰）　技法等：全体的に摩滅するが，上面の一部にミガキ痕残る。下面に薄く痕跡あり。

2　出土位置：1 溝　材質：土師器　器種：内耳土鍋　残存：把手部　法量：—　色調：内面橙褐色，暗褐色。外面黒色。　胎土：砂（透多，角閃石類多），骨針少　技法等：外面一部煤付着

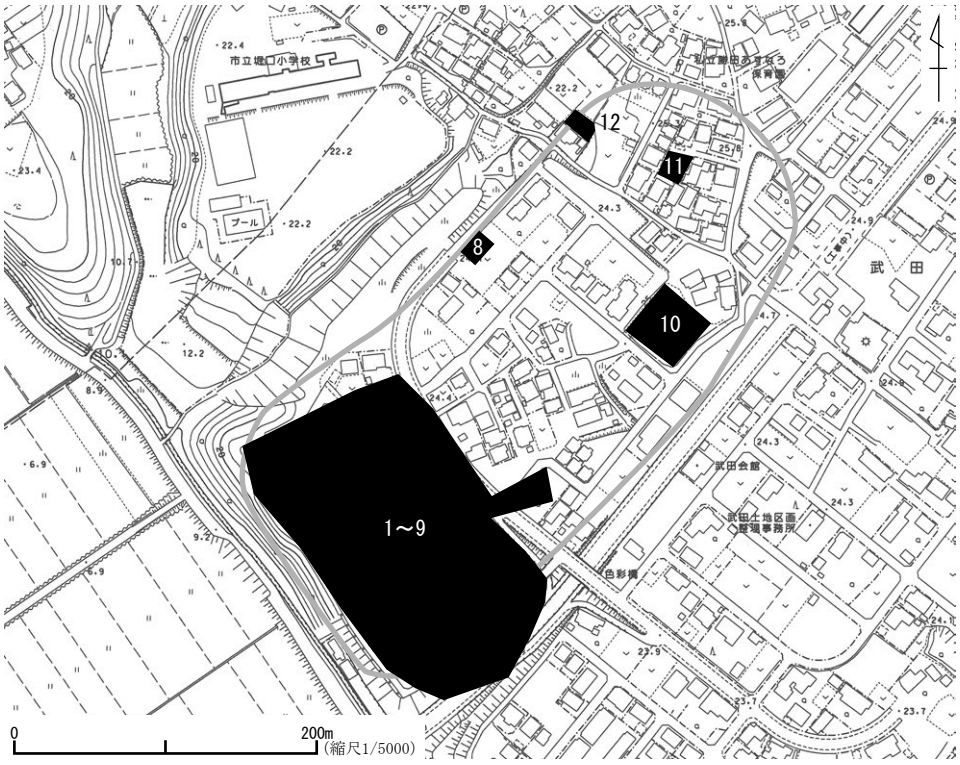



**第 74 図　市毛本郷坪遺跡第 9 次調査区**

## 17　西塙遺跡

### (1) 第 12 次調査報告

調査地は，那珂川低地から北に入り込む谷の最奥部に位置し，北西方向に傾斜する地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 1 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4 m～ 0.5 mを測る。調査の結果，遺構，遺物とも確認されなかった。

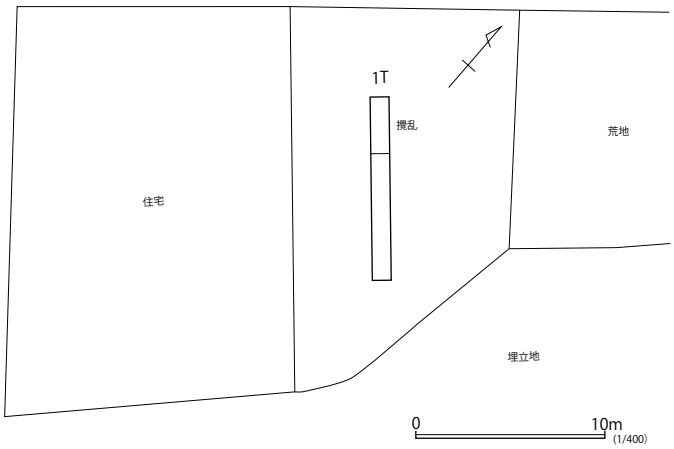



**第 75 図　西塙遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 19 表　武田西塙遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1986 | 公社 | 試掘 | 住居 8 | 1 |
| 2 | 1987 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 3，土坑 1，溝 1 | 2 |
| 3 | 1989 | 公社 | 本調査 | 住居 6 | 3 |
| 4 | 1990 | 公社 | 本調査 | 住居 72，土坑 18，溝 4 | 4 |
| 5 | 1992 | 公社 | 本調査 | 住居 108，土坑 115，溝 6，道 4，土壙 2 | 5 |
| 6 | 1993 | 公社 | 本調査 | 住居 86，堀立柱 3，溝 10，道 1 | 6 |
| 7 | 1994 | 公社 | 本調査 | 住居 86，土坑 56，溝 4，土壙 8 | 7 |
| 8 | 1995 | 公社 | 本調査 | 住居跡 41，土坑 146，溝 5，土壙 8，地下式壙 7，井戸 4，陥穴 9，近世塚 1 | 8 |
| 9 | 1997 | 市教委 | 本調査 | 住居跡 10 | 9 |
| 10 | 2004 | 公社 | 本調査 | 住居跡 15，堀立柱 1 土坑 11，溝 1 | 10 |
| 11 | 2006 | 市教委 | 試掘 | なし | 11 |

文献
1　武田Ⅰ
2　昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　武田Ⅳ
4　武田Ⅳ
5　武田Ⅵ
6　武田Ⅶ
7　武田Ⅷ
8　武田Ⅸ
9　平成 9 年度市内遺跡発掘調査報告書
10　武田遺跡群　中世・近世・近代・現代編，武田西塙遺跡 2004 年度調査報告
11　平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書




**第 76 図　西塙遺跡第 12 次調査区**

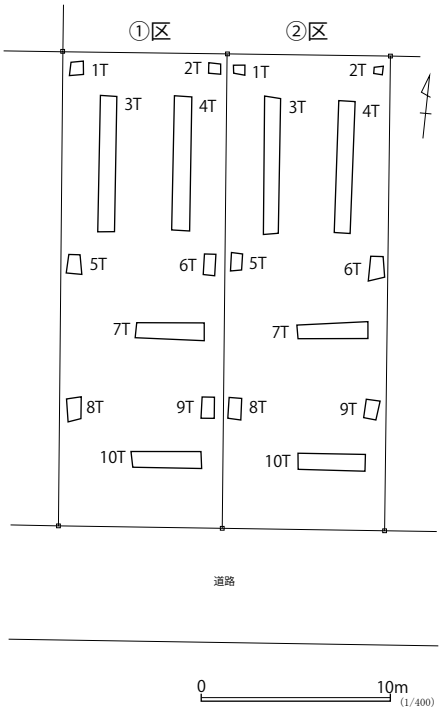
## 18　君ヶ台遺跡

### (1) 第 12 次調査報告

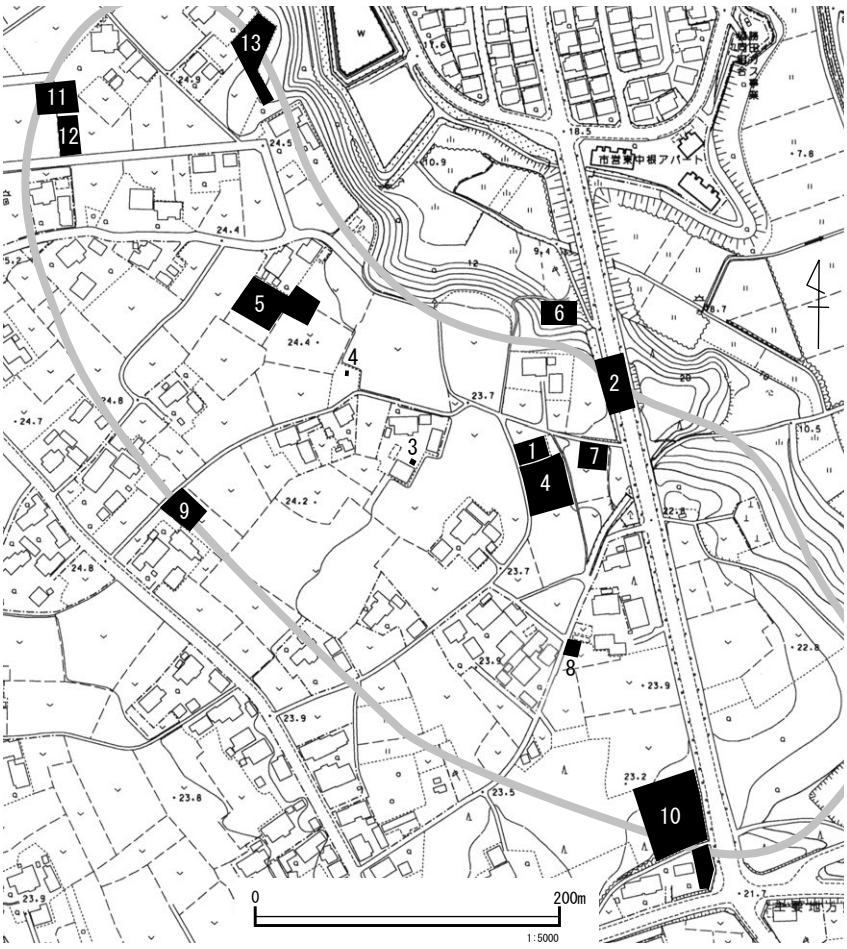
調査地は，本郷川低地から北西方向に入り込む小支谷を望む台地縁辺から 130 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は①区・②区それぞれに 10 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ～ 0.6 mを測る。調査の結果，遺構･遺物は確認されなかった。

### (2) 第 13 次調査報告

調査地は，本郷川低地から北西方向に入り込む小支谷を望む台地縁辺に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は更地および藪地であった。調査は 6 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4 ～ 1.3 mを測る。調査の結果，遺構・遺物は確認されなかった。




第 78 図　君ヶ台遺跡第 12 次調査区



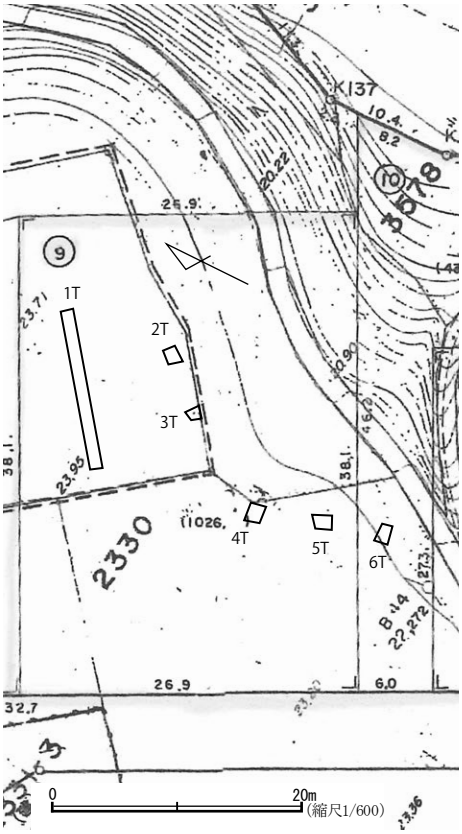

第 77 図　君ヶ台遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第 20 表　君ヶ台遺跡調査一覧

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1951 | 勝田町郷土史編纂委員会 | 本調査 | 土坑群，住居，溝 1 | — |
| 2 | 1979 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 2，土坑群，貝塚 | 1 |
| 3 | 1994 | 市教委 | 本調査 | 土坑 3，住居 2 | 2 |
| 4 | 1999 | 市教委 | 試掘 | 土坑 1 | 3 |
| 5 | 2001 | 市教委 | 試掘 | 住居 1，土坑 1 | 4 |
| 6 | 2003 | 市教委 | 本調査 | 貝塚 1 | 5 |
| 7 | 2006 | 遺跡調査会 | 本調査 | 住居 1，溝 1 | 10 |
| 8 | 2006 | 市教委 | 試掘 | なし | 6 |
| 9 | 2010 | 公社 | 試掘 | 土坑 2，溝 1 | 7 |
| 10 | 2015 | 公社 | 試掘 | なし | 8 |
| 11 | 2017 | 公社 | 試掘 | 住居 1 | 9 |


文献

1　君ヶ台遺跡調査報告書
2　平成 6 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 10 年度市内遺跡発掘調査報告書
4　平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書
5　平成 15 年度市内遺跡発掘調査報告書
6　平成 18 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
8　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
9　平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
10　君ヶ台（第 7 次）

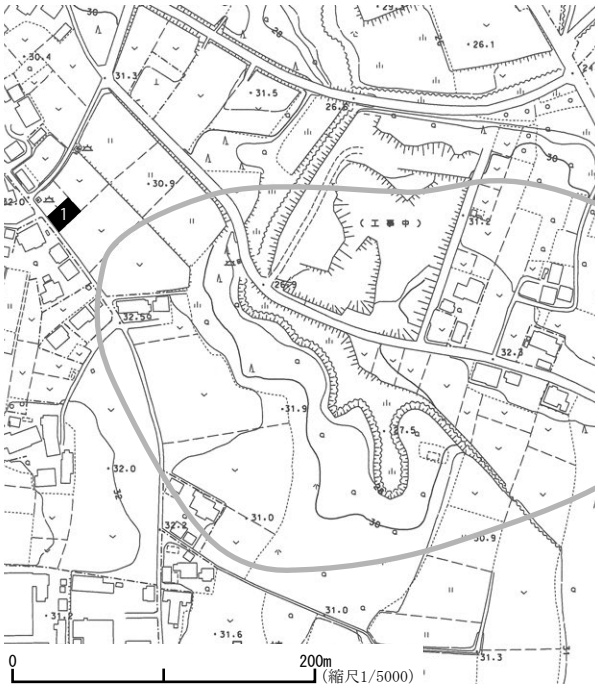




第 79 図　君ヶ台遺跡第 13 次調査区

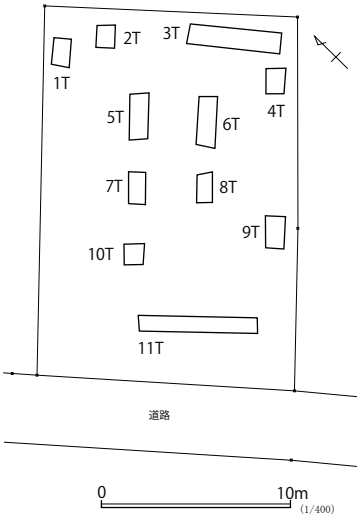
## 19　原の寺遺跡

### (1) 第 1 次調査報告

調査地は，新川から南方向に入り込む谷から 100 m ほど西に離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 11 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ～ 0.8 mを測る。調査の結果，遺構・遺物は確認されなかった。




**第 80 図　原の寺遺跡の調査地点**（数字は調査次数）




**第 81 図　原の寺遺跡第 1 次調査区**

## 20　堀口遺跡

### (1) 第 29 次調査報告

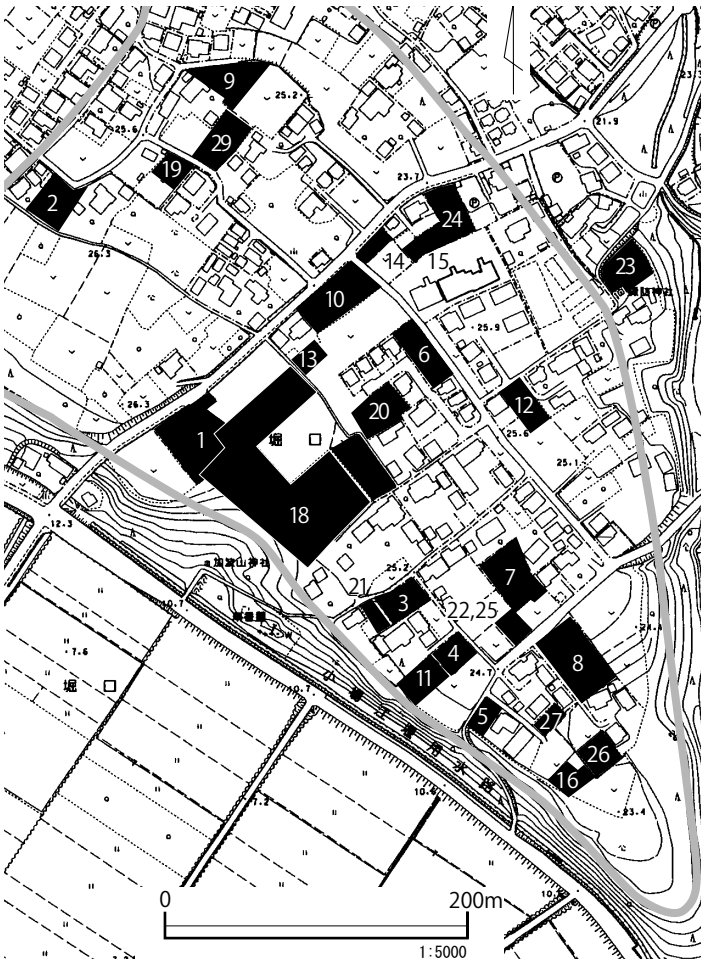
調査地は，那珂川を望む台地縁辺から 200 mほど離れた地点に位置し，北東に緩やかに傾斜する地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 4 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 m～ 0.6 mを測る。調査の結果，住居跡を８基確認した。出土遺物からみて，住居跡は古墳時代３基（１～３住），奈良・平安時代４基（４～６・８住），時期不明１基（７住）と推定される。なお調査区からは，土師器，須恵器が出土している。

#### 遺物説明

第 83 図

1　出土位置：8 住　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部（6.3）　色調：灰色　胎土：礫（灰少），砂（白），骨針少　技法等：回転ヘラ切り後底部外面ナデ。焼成硬質。　備考：木葉下窯産か

2　出土位置：4 住　材質：須恵器　器種：有台盤？　残存：底部 20％　法量：高台径（8.6）　色調：灰色　胎土：礫（灰少，白少），砂（白，白透少）　技法等：底部外面回転ヘラ削り。内面高台融着痕。焼成硬質。高台接地面外側が摩滅。内面やや摩滅。　備考：木葉下窯産か



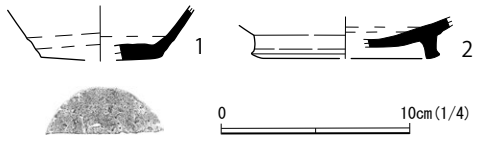

**第 82 図　堀口遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 21 表　堀口遺跡調査一覧**

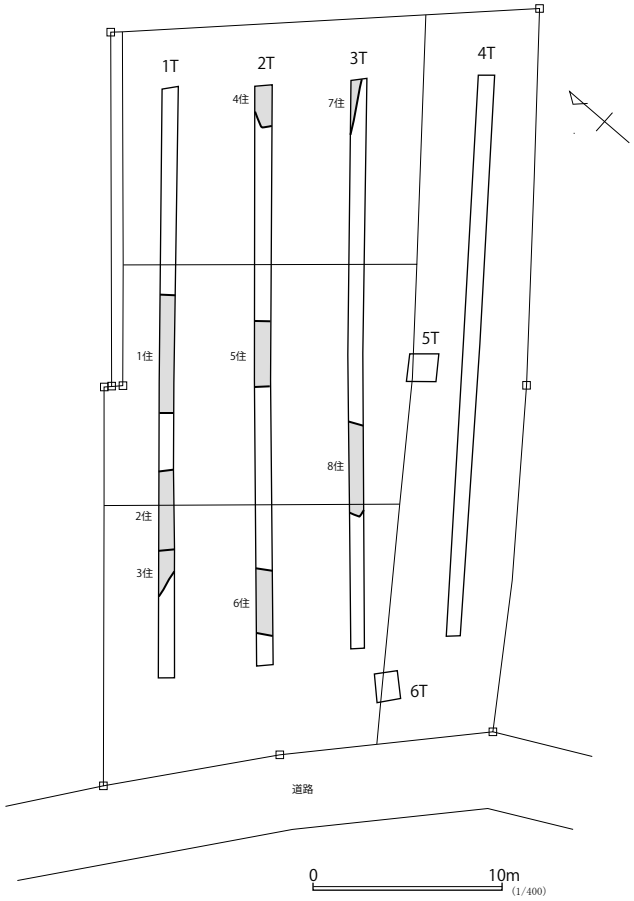
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 主な遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1979 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 17（十王台 1，古墳中期 3，古墳後期 2，奈良 4，平安 3，時期不明 4） | 1 |
| 2 | 1979 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 2（平安） | 2 |
| 3 | 1983 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 3（古墳中期 1，古墳後期 1，平安 1） | 3 |
| 4 | 1984 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 2（古墳 1，時期不明 1） | 4 |
| 5 | 1985 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 4（古墳中期 1，平安 2，時期不明 1） | 5 |
| 6 | 1992 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 2（古墳中期 1，奈良 1） | 6 |
| 7 | 1993 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 8（十王台 1，古墳中期 4，古墳後期 1，平安 2） | 7 |
| 8 | 1996 | 市教委 | 本調査 | 住居 6（古墳前期 2，古墳中期 2，奈良 1，平安 1） | 8 |
| 9 | 2006 | 市教委 | 試掘 | なし | 9 |
| 10 | 2007 | 市教委 | 本調査 | 住居 7（古墳前期 1，古墳後期 1，奈良 1，平安 4） | 10 |
| 11 | 2008 | 公社 | 試掘 | 住居 2（奈良・平安 1，時期不明 1），溝 1 | 11 |
| 12 | 2008 | 公社 | 試掘 | 住居 25（弥生中期 1，古墳 8，奈良・平安 2，不明 14），土坑 3（古墳 2，時期不明 1），溝 1 | 11 |
| 13 | 2013 | 公社 | 試掘 | 住居 2（古墳） | 12 |
| 14 | 2013 | 公社 | 試掘 | 住居 2（古墳中期 1，平安 1），溝 2（時期不明） | 12 |
| 15 | 2013 | 公社 | 本調査 | 住居 4（古墳中期 1，古墳後期 1，平安 2），溝 1 | 13 |
| 16 | 2014 | 公社 | 試掘 | 住居 1（平安），堀 1（時期不明） | 13 |
| 17 | 2014 | 公社 | 試掘 | 住居 16（弥生 1，古墳 4，時期不明 11），土坑 2（時期不明） | 14 |
| 18 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 120（弥生 3，古墳 20，奈良 5，平安 9，時期不明 83），土坑 14，土壙墓 2，溝 2 | 14 |
| 19 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 1（時期不明） | 14 |
| 20 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 5（古墳），土坑 5（時期不明） | 14 |
| 21 | 2015 | 公社 | 試掘 | なし | 14 |
| 22 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 6（古墳 3，平安 2，時期不明 1） | 15 |
| 23 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 1（古墳） | 15 |
| 24 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 2（時期不明） | 15 |
| 25 | 2016 | 公社 | 本調査 | 住居 9（弥生 2，古墳 4，平安 3） | 15 |
| 26 | 2016 | 公社 | 試掘 | なし | 15 |
| 27 | 2016 | 関東文化財振興会 | 本調査 | — | — |
| 28 | 2016 | 公社 | 試掘 | なし | 15 |


**文献**

1　茨城県勝田市堀口遺跡発掘調査報告書　　2　市内遺跡発掘調査報告書（昭和 54 年度）
3　市内遺跡発掘調査報告書（昭和 58 年度）　4　市内遺跡発掘調査報告書（昭和 59 年度）
5　市内遺跡発掘調査報告書（昭和 60 年度）　6　平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書　　8　平成 8 年度市内遺跡発掘調査報告書
9　平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書　　10　堀口遺跡発掘調査報告書
11　平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
12　平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
13　平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
14　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
15　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書


**第 83 図　堀口遺跡第 29 次調査区出土遺物**




**第 84 図　堀口遺跡第 29 次調査区**

## 21　市毛下坪遺跡

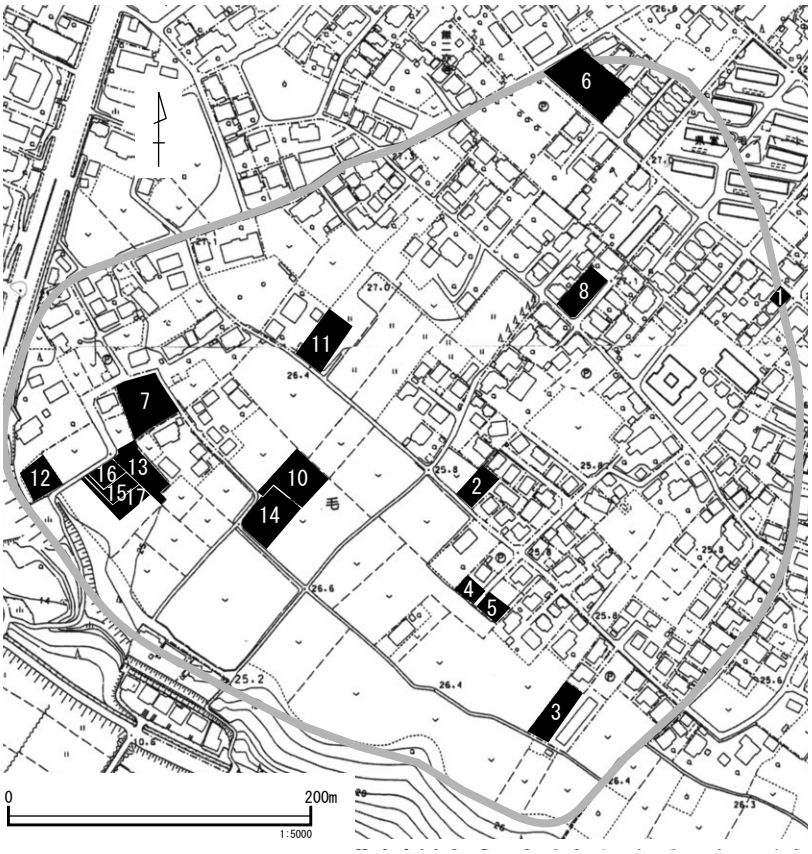
### (1) 第 14 次調査報告

調査地は，那珂川を望む台地縁辺から 100 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 8 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6 m～0.9 mを測る。調査の結果，住居跡を 6 基確認した。住居跡はトレンチ出土遺物からみて，すべて平安時代かと思われる。このほか，溝 1 条，土坑 3 基を確認したが遺物がなく時期は不明である。なお調査区からは，土師器，須恵器が出土している。

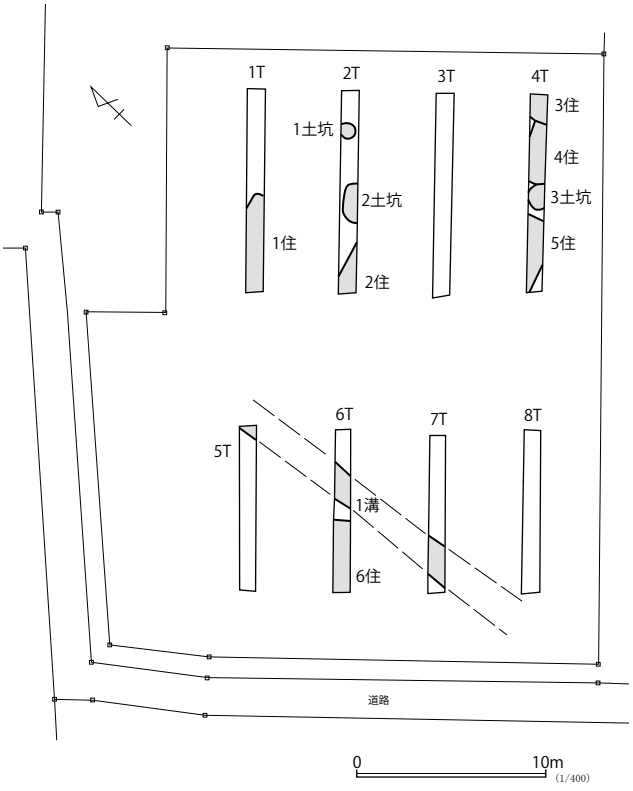
#### 遺物説明

第 87 図

1　出土位置：3 トレ　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 30%　法量：底径（6.6）　色調：暗灰色　胎土：礫（白多，灰少，白透少），砂（白多，灰少），骨針少　技法等：回転ヘラ切り後底部外面ナデ。焼成硬質。　備考：木葉下窯産か




**第 85 図　市毛下坪遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

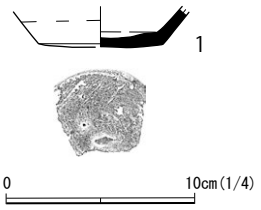



**第 86 図　市毛下坪遺跡第 14 次調査区**

**第 22 表　市毛下坪遺跡調査一覧**

| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1985 | 勝田市教委 | 本調査 | 土坑 1（時期不明） | 1 |
| 2 | 1987 | 勝田市教委 | 本調査 | 溝 1（9 世紀） | 2 |
| 3 | 1987 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 1（8 世紀），溝 2（時期不明） | 2 |
| 4 | 1989 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 1（9 世紀），溝 1（時期不明） | 3 |
| 5 | 1989 | 勝田市教委 | 本調査 | 溝 2（時期不明） | 3 |
| 6 | 1989 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 2（8 世紀），溝 2（時期不明） | 3 |
| 7 | 1991 | 勝田市教委 | 本調査 | 住居 3（古墳後期 2，9 世紀 1） | 4 |
| 8 | 1993 | 勝田市教委 | 試掘調査 | なし | 5 |
| 9 | 2006 | 市教委 | 試掘調査 | なし | — |
| 10 | 2012 | 公社 | 試掘 | 住居 3(9 世紀)，溝 5・土坑 1・ピット 5（時期不明） | 6 |
| 11 | 2014 | 公社 | 試掘 | 住居 4（平安），溝 1 | 7 |
| 12 | 2016 | 公社 | 試掘 | 土坑 4（近世 2，時期不明 2） | 8 |
| 13 | 2017 | 公社 | 試掘 | 住居 4（古墳 3，平安 1） | 9 |

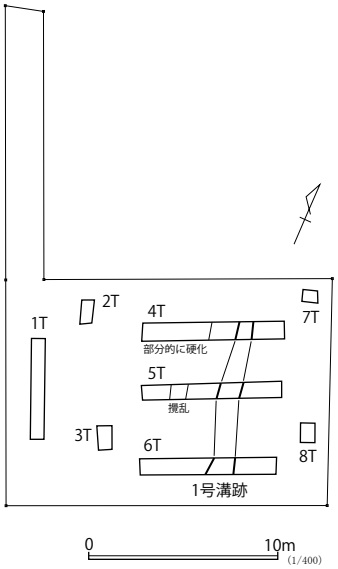
文献
1　昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　平成元年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
4　平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
5　平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書
6　平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
8　平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
9　平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



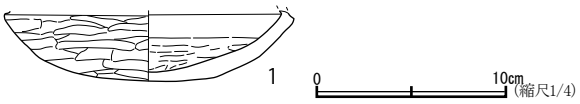

**第 87 図　市毛下坪遺跡第 14 次調査区出土遺物**

### (2) 第 15 次調査報告

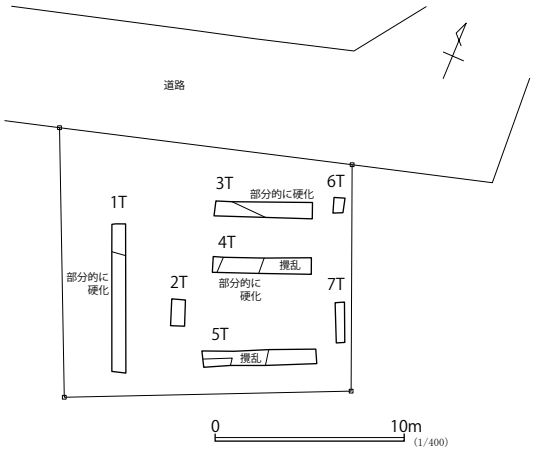
調査地は，那珂川を望む台地縁辺から 50 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は 8 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.2 ～ 0.6 m を測る。調査の結果，調査区全体が確認面のローム層の状況からみて近代の削平を受けているとみられる。遺構は溝跡を 1 条確認した。溝跡は出土遺物がなく時期は不明である。また，4 トレンチの確認面が所々硬化していた。性格は不明であるが，古墳時代の土師器が出土していることから，当該期の住居跡であった可能性もあろう。



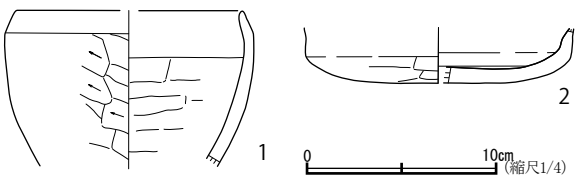

**第 88 図　市毛下坪遺跡第 15 次調査区**




**第 89 図　市毛下坪遺跡第 15 次調査区出土遺物**




**第 90 図　市毛下坪遺跡第 16 次調査区**

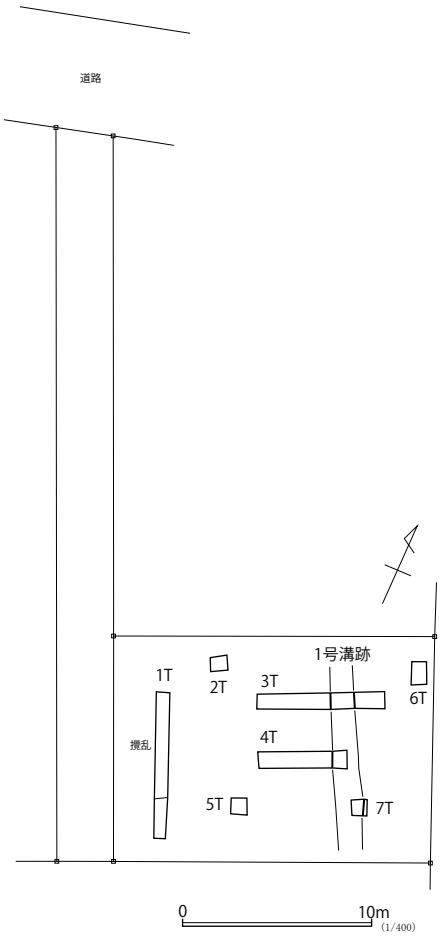



**第 91 図　市毛下坪遺跡第 16 次調査区出土遺物**

### 遺物説明

第 89 図

1　台帳：4 トレ 1 住　材質：土師器　器種：杯　残存：体部 100％　法量：器高（3.7）　色調：外面にぶい橙～褐～暗褐色。内面にぶい橙色。　胎土：砂（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面上～中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位ヘラ削り。内面上位ヨコナデ，中～下位ヘラナデ，ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：口縁部を欠いて使用している。




**第 92 図　市毛下坪遺跡第 17 次調査区**

## (3) 第 16 次調査報告

調査地は，那珂川を望む台地縁辺から 50 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.1 ～ 0.5 m を測る。調査の結果，調査区全体が確認面のローム層の状況からみて近代の削平を受けているとみられる。遺構は確認されなかった。1・3・4 トレンチの確認面が所々硬化していたが，性格は不明である。調査区からは，土師器，須恵器が出土している。

### 遺物説明

第 91 図

1　台帳：2 トレ　材質：土師器　器種：鉢　残存：口縁～胴部 20％　法量：口径（11.8），器高（8.3）　色調：外面橙～黒色。内面橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，赤微）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

2　台帳:2 トレ　材質:土師器　器種:杯　残存:60%　法量:器高(2.9)　色調：外面浅黄橙～褐灰色。内面黒色。　胎土：砂（白多，透多），骨針含む　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁～体部中位ヨコナデ，下位ヘラナデ。内面に黒色処理。　使用痕：―　備考：外面器面が摩滅している。

### (3) 第 17 次調査報告

調査地は，那珂川を望む台地縁辺から 50 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ～ 0.7 m を測る。調査の結果，調査区全体が確認面のローム層の状況からみて近代の削平を受けているとみられる。遺構は溝跡を 1 条確認した。溝跡は出土遺物がなく時期は不明である。調査区からは，土師器，須恵器が出土している。

## 22　松原遺跡

### (1) 第 6 次調査報告

調査地は，中丸川低地から 50 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は更地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4 m～ 0.7 mを測る。調査の結果，遺構は確認されなかった。調査区からは，縄文土器が出土している。

#### 遺物説明

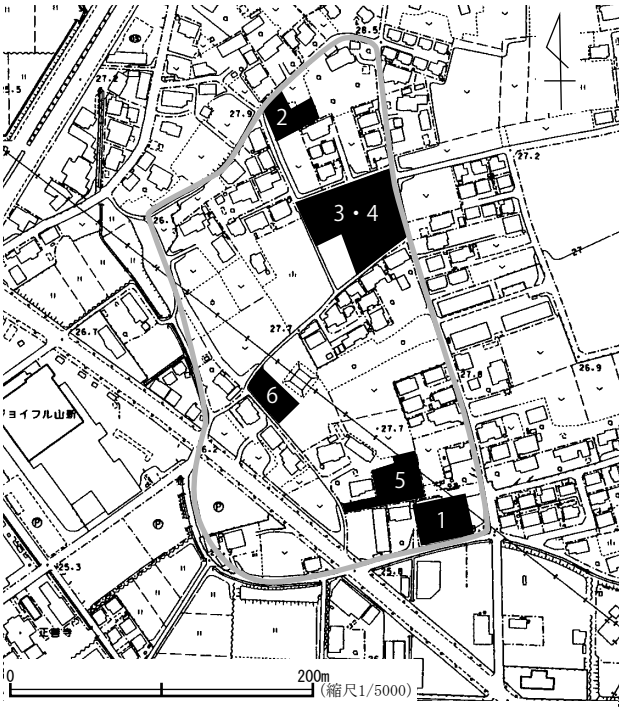
第 95 図

1　出土位置・注記：3 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）　文様：隆線文，単節斜縄文（RL）

2　出土位置・注記：5 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）　文様：隆線文　備考：器内面に炭化物付着

3　出土位置・注記：5 トレ　時代時期：縄文時代中期（加曽利 E 式）　文様：隆線文，単節斜縄文（LR）

4　出土位置・注記：3 トレ　時代時期：縄文時代中・後期　文様：単節斜縄文（RL）



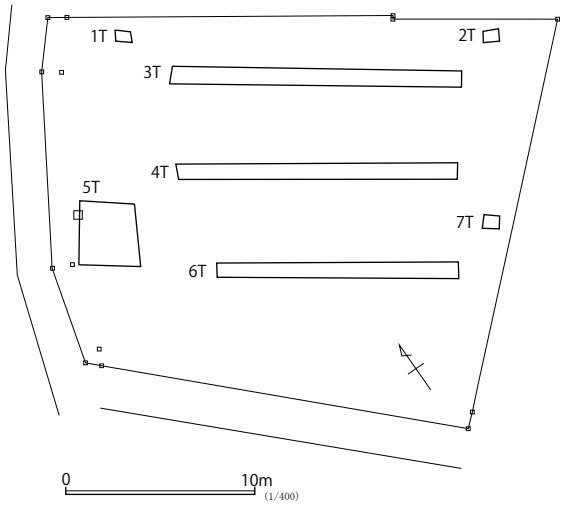

**第 93 図　松原遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

**第 23 表　松原遺跡調査一覧**

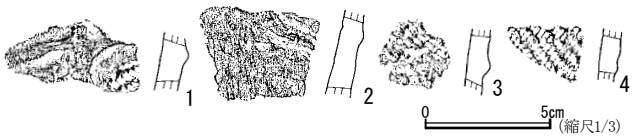
| 次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査種別 | 遺構 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1998 | 市教委 | 試掘 | なし | 1 |
| 2 | 2001 | 市教委 | 試掘 | なし | 2 |
| 3 | 2008 | 公社 | 試掘 | 住居 5（古墳前期 1，時期不明 4），土坑 1（時期不明），ピット 1（時期不明），溝 2（時期不明），不明遺構 1（時期不明） | 3 |
| 4 | 2009 | 調査会 | 本調査 | 住居 5（古墳），溝 2 | 4 |
| 5 | 2015 | 公社 | 試掘 | 住居 1（古墳），井戸 1（時期不明） | 5 |

**文献**


1　平成 10 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
4　松原遺跡（第 4 次）
5　平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書


**第 94 図　松原遺跡第 6 次調査区**

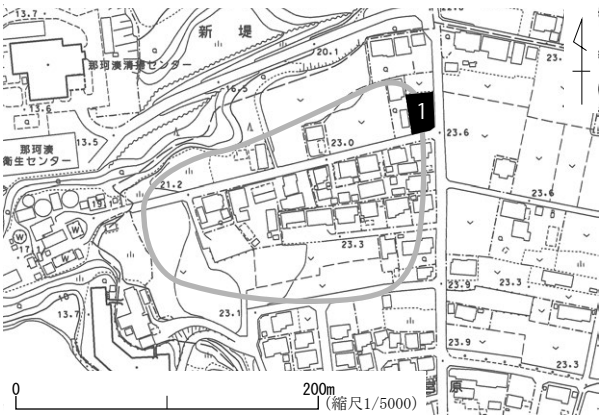



**第 95 図　松原遺跡第 6 次調査区出土遺物**

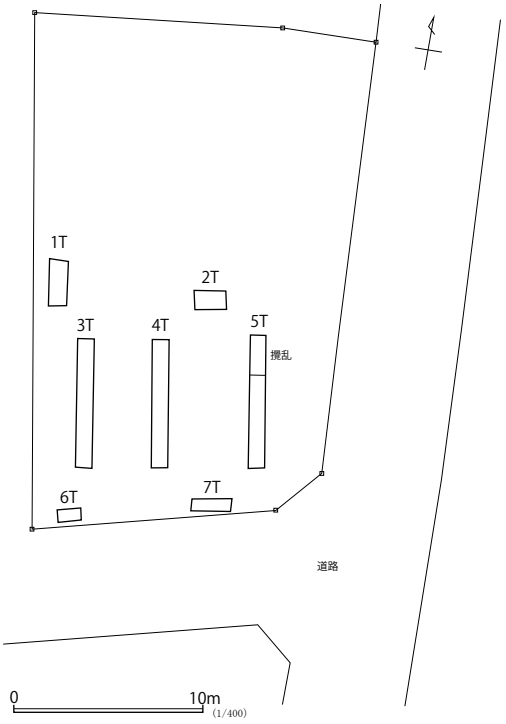
## 23　田宮原Ⅰ遺跡

### (1) 第 1 次調査報告

調査地は，中丸川低地を望む台地縁辺から 100 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は更地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 m～0.4 mを測る。調査の結果，遺構・遺物は確認されなかった。




**第 96 図　田宮原Ⅰ遺跡の調査地点**（数字は調査次数）




**第 97 図　田宮原Ⅰ遺跡第 1 次調査区**

# Ⅲ　本調査報告

## 1　市毛上坪遺跡第 19 次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛字上坪 1194 番 1

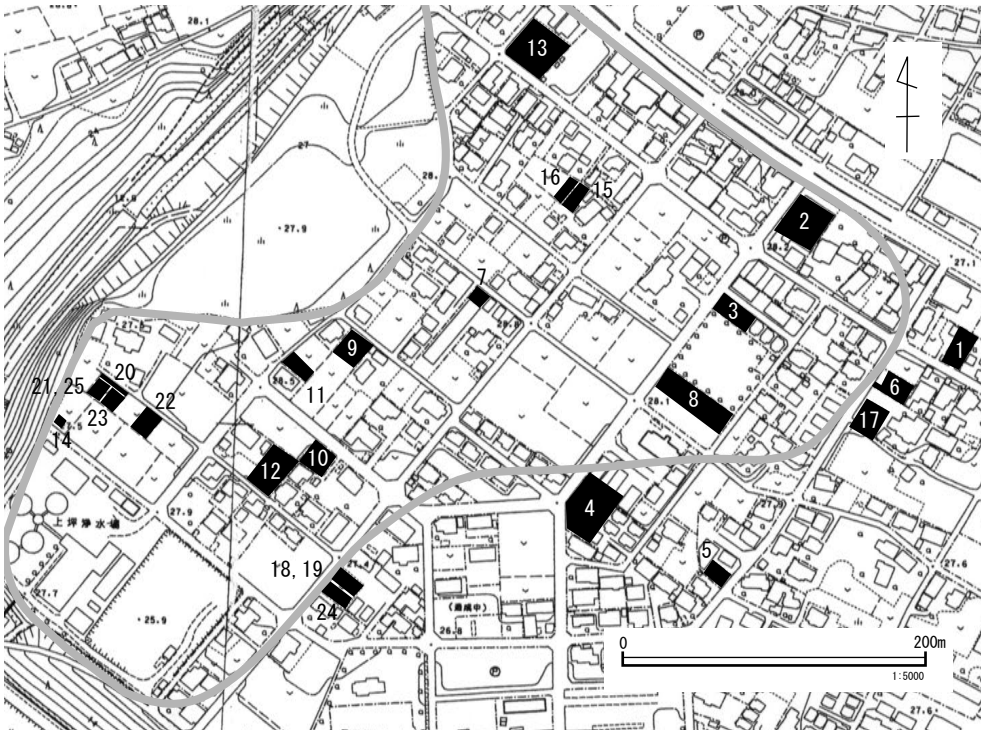
期間 / 平成 30 年 1 月 11 日～平成 30 年 2 月 7 日

担当 / 佐々木義則　面積 /91 ㎡　時代 / 古墳・平安

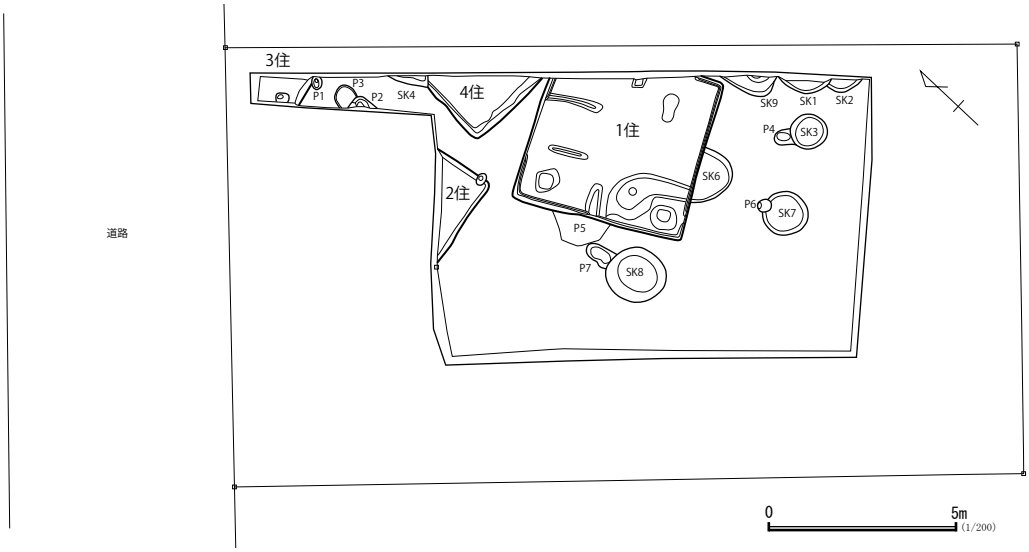
遺構 / 竪穴住居跡 4 基（古墳時代 2 基, 平安時代 2 基), 土坑 9 基（時期不明), ピット 7 基（時期不明）

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 150 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり，建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査（第 18 次調査）がなされていたため，今回の調査区に係る遺構配置はおおよそ予想がついた。以下，簡単に調査の経過を記す。

1 月 11 日：調査区設定後，重機による表土除去。1 月 12 日:遺構確認, 掘り込み開始。　1 月 18 日:図面・写真による記録作業開始。　2 月 1 日：調査区全体図，写真。　2 月 6 日：重機による埋戻し。　2 月 7 日：現場撤収作業。




**第 98 図　市毛上坪遺跡の調査地点**（数字は調査次数）

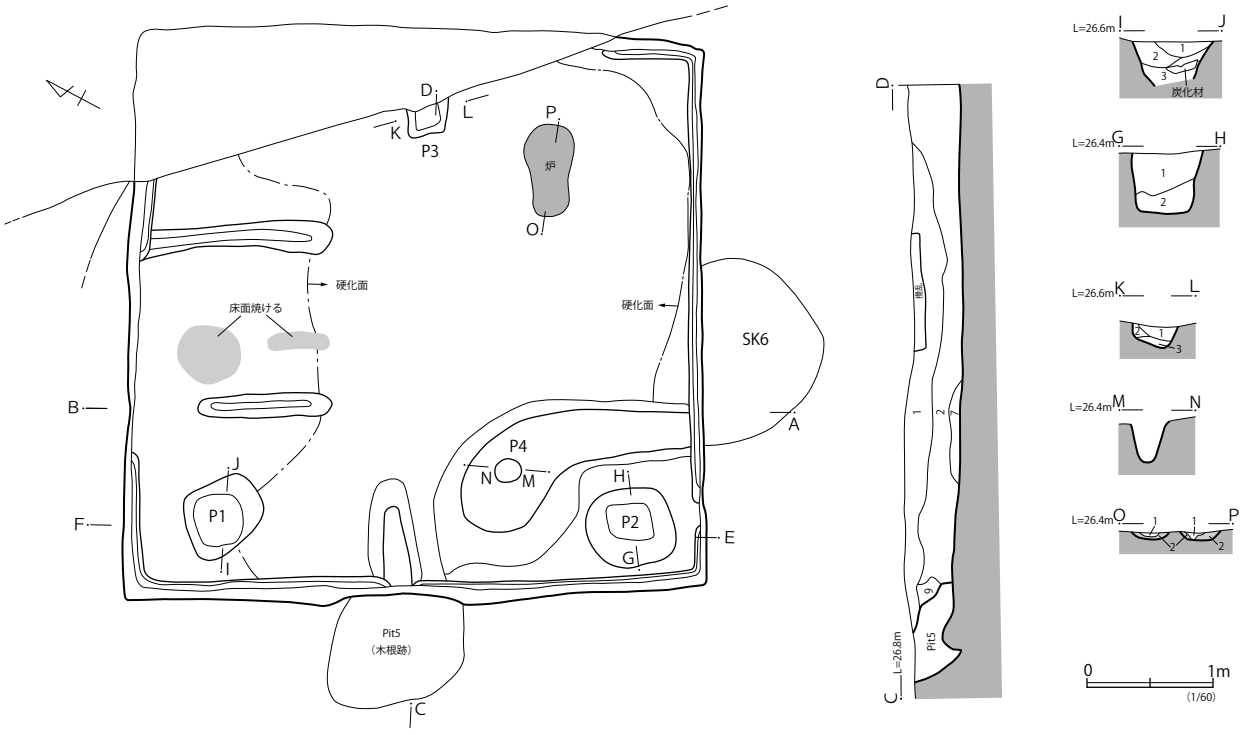



**第 99 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区の位置**（SK は土坑，P はピットを示す。）

### (2) 住居跡

#### 第 1 号住居跡

**遺構**　第 6 号土坑および第 5 号ピット（木根跡と思われる。）と重複する。新旧は，第 5 号ピット→第 1 号住居跡→第 6 号土坑となる。当住居跡の主軸方向は，N-62-E を測る。竪穴部の規模は，東西 4.4 m，南北 4.6 mで，形状はほぼ正方形である。壁高は東壁 0.4 m, 西壁 0.4 m, 南壁 0.4 m，北壁 0.4 mを測る。壁周溝は認められたが，所々途切れている。調査最終段階で，床を削って柱穴を探したが，主柱穴は見つからなかった。床硬化面の範囲からみて，西壁中央部あたりが出入り口になるものと思われる。北壁付近に硬化面がみられないが，その部分には根太の痕跡の可能性がある，壁から直角にのびる浅い溝が 2 条認められた。炉は不明瞭であるが，床をやや掘りくぼめる点か




**土層説明**

1 住 AB・CD 土層断面

1　暗褐色（ローム粒含む）
2　暗褐色（ローム粒やや多量含む）
3　褐色（ローム粒多量含む）
4　暗褐色（ローム粒やや多量含む）
5　褐色（ローム粒多量含む）
6　暗褐色（ローム粒含む）
7　褐色（ローム粒非常に多量含む）
8　褐色（ローム粒多量含む）
9　褐色（ロームブロック多量含む）
10　褐色（ロームブロック粒含む）

1 住 GH 土層断面

1　暗褐色（ローム小ブロック含む）
2　黄褐色（ローム粒主体）

1 住 IJ 土層断面

1　黒褐色（ローム粒少量含む）
2　褐色（ローム粒やや多量含む）
3　黄褐色（ロームブロック主体　褐色土混じる）

1 住 KL 土層断面

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）
2　褐色（ローム粒多量含む）
3　明褐色（ローム粒非常に多量含む）

1 住 OP 土層断面

1　黒褐色（焼土粒含む）
2　橙（焼土）

**第 100 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡**

らみて，床面南東部の焼土が炉になるのであろう。ピットは北西隅と南西隅に不整方形を呈するやや大きめのピットがみられた。ピット床面は平坦であることから，いわゆる貯蔵穴として理解できよう。とくに P2 を囲むように，3 ㎝ほどの床の高まりが巡るのは，P2 の機能と関わるのかもしれない。

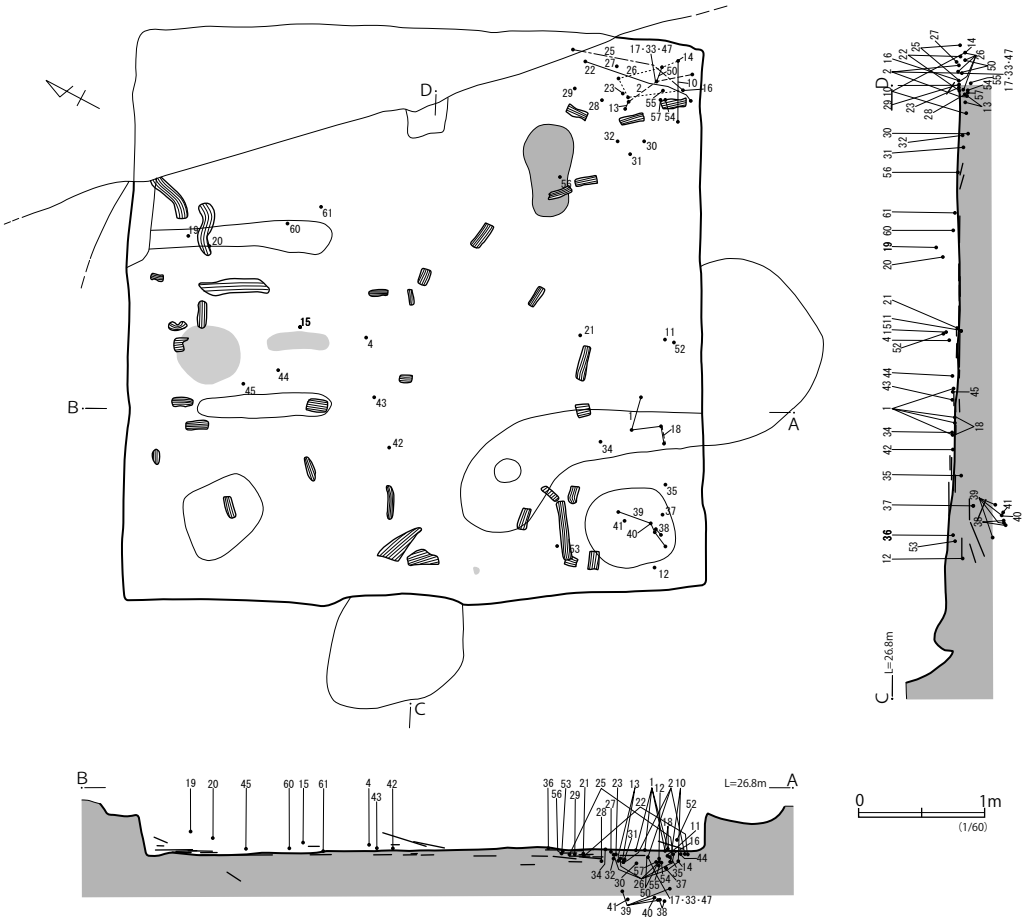
**遺物出土状況**　床面より炭化材及び焼土が出土していることから，火事にあった住居と考えられる。住居跡南西隅部及びピット 2 から，杯類がまとまって出土している点が注目される。

## 遺物説明

第 102 図

1　台帳：P17・18・19・21　材質：土師器　器種：鉢　残存：口縁部 40%，胴部 60%，底部 100%　法量:口径（29.6），器高 26.5，底径 8.1　色調：内外面とも黄橙～にぶい橙～褐～暗褐～黒色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ･ヘラ削り。　使用痕:底面がやや摩滅している。　備考：—

2　台帳：P1・3・40　材質：土師器　器種：鉢　残存：口縁～胴部 30%　法量：口径（30.8）　器高（20.3）　色調：外面褐～暗褐～黒色。内面橙～にぶい橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良




**第 101 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡遺物出土状況**

好　技法等：外面口縁部ヨコナデ後ヘラナデ，胴部上位ヘラ削り後ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，胴部上位ヘラナデ，下位ヘラナデ後ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

3　台帳：1 住・1 区・3 区・4 区　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁～胴部上位 60％，中位～底部 40％　法量：口径 12.0，器高 20.0，底径（8.0）　色調：外面橙～にぶい橙～暗褐～黒色。内面橙～黒色。胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等:外面口縁部ヨコナデ，胴～底部ヘラ削り後ヘラナデ･ヘラミガキ。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：内面輪積み痕がみられる。外面胴部にスス状物付着。

4　台帳：P30，1 住 3 区・4 区　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 20％　法量：口径（15.7），器高（4.9）　色調：外面にぶい橙～黒褐色。内面橙色　胎土:礫（白微），砂（白多，透多）　焼成:良好　技法等:内外面とも口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

5　台帳：2 区・3 区　材質：土師器　器種：甕　残存：底部 100％　法量：器高（2.4），底径 6.0　色調：外面暗褐～黒色。内面褐色。　胎土：小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

6　台帳：1 住　材質：土師器　器種：甕　残存：底部 40％　法量：器高（1.9），底径（7.5）　色調：外面橙～にぶい橙～黒色。内面黄橙色　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ　使用痕：—　備考：—

7　台帳:2 区・3 区　材質:土師器　器種:甕　残存:底部 100％　法量:器高（2.5）　底径 7.5　色調：外面にぶい黄橙～黒褐色。内面橙～褐色。胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ　使用痕：—　備考：—

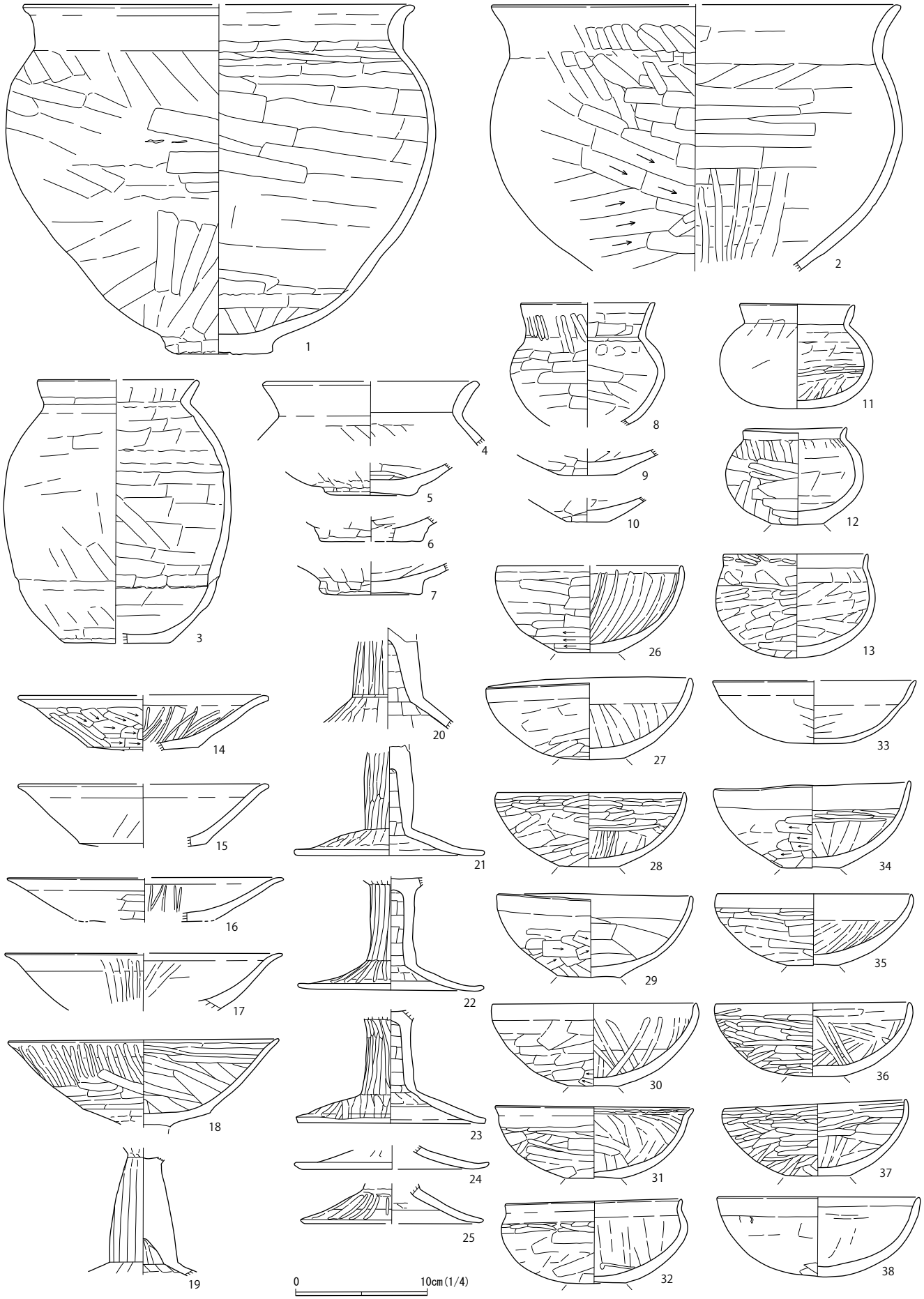
8　台帳：1 区・3 区・4 区　材質：土師器　器種：小形甕　残存：口縁～胴部下位 60％　法量：口径 10.2，器高（9.5）　色調：内外面とも橙～暗褐～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁～胴部上位ヘラナデ・ヘラミガキ，中～下位ヘラ削り。内面口縁部・胴部中～下位ヘラナデ，上位ナデ・ユビナデ。　使用痕：—　備考：—

9　台帳：2 区　材質：土師器　器種：壷？　残存：底部 100％　法量：器高（2.0），底径 4.4　色調：外面橙～黄橙色。内面黒色。　胎土：礫（白少，灰微），砂（白少，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

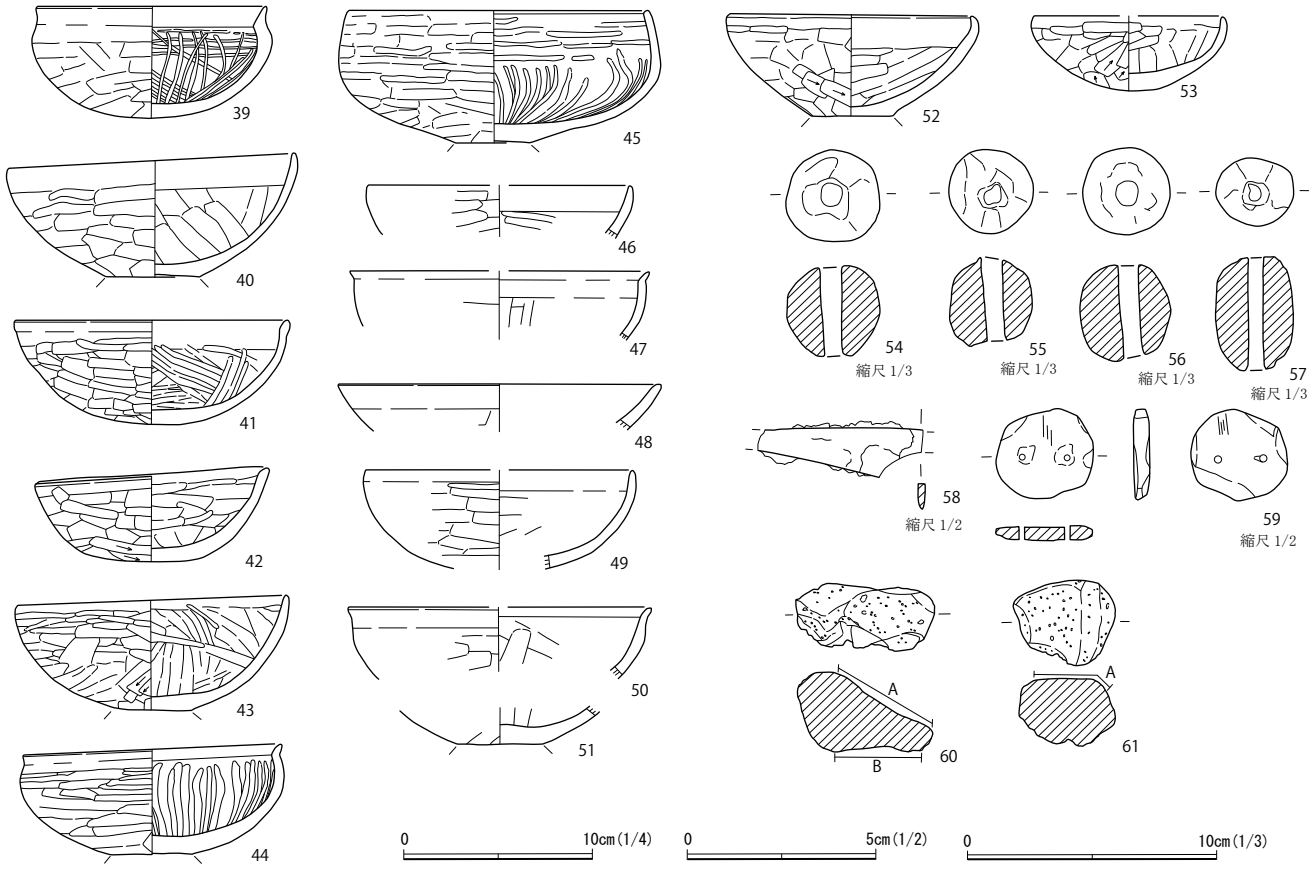
10　台帳：P37・41　材質：土師器　器種：壷　残存：底部 70％　法量：器高（1.9），底径 3.1　色調：内外面とも橙～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

11　台帳：P20　材質：土師器　器種：壷　残存：90％　法量：口径 8.5，器高 8.0，最大径 11.6　色調:内外面とも赤橙～黒色。　胎土:礫（白少，灰少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴～底部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ？。内面口縁部ヨコナデ？，胴部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：外面全体と内面口縁部の器面が摩滅している。

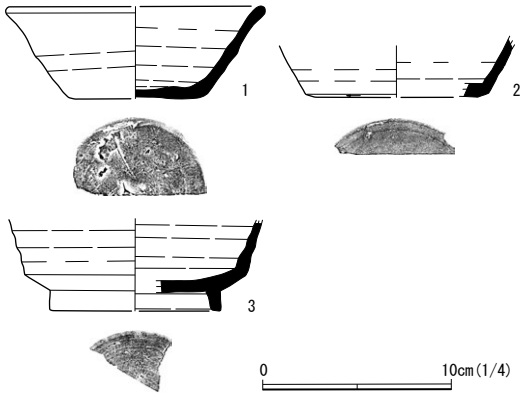
12　台帳：P24　材質：土師器　器種：壷　残存：100％　法量：口径 7.8，器高 7.0 ～ 7.3，最大径 10.4　色調：外面橙～黄橙～にぶい黄橙～




**第 102 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡出土遺物（1）**




**第 103 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡出土遺物（2）**




**第 104 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡出土遺物（3）**

黒色。内面橙色。　胎土：礫（白微），砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

13　台帳：P8・40　材質：土師器　器種：壷　残存：100%　法量：口径：10.8，器高 7.9，最大径 12.0　色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁～胴部上位ヨコナデ後ヘラミガキ。中位～底部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ，ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

14　台帳：P41　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯部 10%　法量：口径（19.0），器高（4.3）　色調：外面橙～にぶい橙色。内面赤橙～褐色。胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

15　台帳：P31　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯部 10%　法量：口径（19.0），器高（4.8）　色調：外面褐～暗褐色。内面黄褐色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部？　使用痕：—　備考：内面器面が摩滅している。

16　台帳：P2，2 区・3 区　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯部 10%　法量：口径（11.0），器高（3.3）　色調：内外面とも橙～褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

17　台帳：P3，1 区・1 区床　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯部 40%　法量：口径（11.0），器高（4.3）　色調：内外面とも橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

18　台帳：P18・19，1 住 2 区　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯部 80%　法量：口径 20.6，器高（6.7）　色調：内外面ともにぶい黄橙～暗褐～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

19　台帳：P36　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部 100%　法量：器高（9.7）　色調：外面にぶい橙～褐色。内面褐色。　胎土：砂（白多，透多）

焼成：良好　技法等：内外面ともヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

20　台帳：P35　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部 100%　法量：器高（7.6）　色調：内外面とも橙～にぶい橙色　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面脚部ヘラ削り。裾部ヘラナデ。使用痕：—　備考：—

21　台帳：P16　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部 100%，裾部 30%　法量：器高（8.3），底径（14.3）　色調：兄外面とも橙～黒色。胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，裾部端部ヨコナデ。内面脚部ヘラ削り，裾部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

22　台帳：P5・25，1 区床　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部 100%，裾部 70%　法量：器高（8.6），底径 14.1　色調：外面橙～にぶい橙～褐色。内面橙～褐～黒色。　胎土：礫（白微，茶微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面脚～裾部中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位ヨコナデ。内面杯～脚裾部上位ヘラナデ，中～下位ヨコナデ。　使用痕：—　備考：—

23　台帳：P6，2 区　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚～裾部 100%　法量：器高（8.6），底径 14.2　色調：内外面とも赤橙～橙～褐～暗褐色。　胎土：礫（白微，灰微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面脚～裾部中位～ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位ヨコナデ。内面杯～脚～裾部上位ヘラナデ，中～下位ヨコナデ。　使用痕：—　備考：—

24　台帳：1 住・1 住床・3 区・4 区　材質：土師器　器種：高杯　残存：裾部 60%　法量：器高（1.8），底径 14.8　色調：内外面とも黄橙～黒色　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ？，内面ヘラナデ？。　使用痕：—　備考：内外面とも器面が摩滅している。

25　台帳：P2・39　材質：土師器　器種：高杯　残存：裾部 40%　法量：器高（3.0），底径（13.8）　色調：外面褐～暗褐色。内面橙～暗褐色。胎土：礫（白少，灰少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ・ヘラミガキ，下位にヨコナデ。内面ヘラナデ，下位にヨコナデ。　使用痕：—　備考：—

26　台帳：P2・7・38・41・42，1 区　材質：土師器　器種：杯　残存：口縁部～体部上位 30%，中位～底部 100%　法量：口径（14.0），器高 6.6，底径 4.6　色調：外面橙～褐～黒色。内面橙～褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部～体部中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

27　台帳：P4　材質：土師器　器種：杯　残存：ほぼ 100%　法量：口径 15.4，器高 5.5 ～ 6.2，底径 4.8 ～ 5.0　色調：外面橙～にぶい褐～黒色。内面赤橙～橙～黒色。　胎土：小石（白微，茶微），礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上～中位一部ヘラナデ，下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：口縁端部の一部が欠失している。　備考：外面器面調整が雑。

28　台帳：P9　材質：土師器　器種：杯　残存：80%　法量：口径 14.2，器高 5.6，底径 4.5　色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～黒色　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁～体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，底部ヘラ削り。内面ヘラナデ，ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：外面器面の一部にスス状物付着。

29　台帳：P10　材質：土師器　器種：杯　残存：90%　法量：口径 14.8，器高 6.0 ～ 6.2，底径 4.5 ～ 4.7　色調：内外面ともにぶい橙～褐～黒褐色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上位ナデ，下位～底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。　使用痕：口縁端部の一部が欠失している。　備考：外面器面調整が雑。内面が赤彩されているかもしれない。

30　台帳：P11　材質：土師器　器種：杯　残存：10%　法量：口径 15.4，器高 6.2，底径 3.7　色調：外面橙～褐～にぶい褐～黒色。内面褐～にぶい褐～黒褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，底面ヘラ削り。内面口縁～体部中位ヨコナデ後ヘラミガキ，下位ヘラミガキ。　使用痕：口縁端部の一部が欠失している。　備考：外面の一部にスス状物付着。

31　台帳：P12　材質：土師器　器種：杯　残存：100%　法量：口径 14.8，器高 5.5，底径 4.1　色調：外面赤～赤褐～橙～黄橙～黒色。内面赤～黒色。　胎土：礫（白少，灰微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，底部ヘラ削り。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

32　台帳：P13，1 区　材質：土師器　器種：杯　残存：70%　法量：口径 13.2，器高 6.0 ～ 6.4，底径 4.5　色調：内外面とも橙～にぶい橙～黄橙～暗褐～黒色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部若干のヘラナデ・ヘラミガキ。底部がやや凹む。　使用痕：—　備考：—

33　台帳：P3，1 区　材質：土師器　器種：杯　残存：30%　法量：口径（15.3），器高 4.8　色調：外面橙色。内面橙～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

34　台帳：P22，1 区　材質：土師器　器種：杯　残存：口径 14.8，器高 6.0 ～ 6.5，底径 4.5　色調：外面橙～にぶい黄橙～黒色。内面橙～にぶい橙～暗褐色。　胎土：小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上位ヘラナデ，中位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ。体部上位ヘラミガキ，中～下位ヘラナデ。底面はやや凹む。　使用痕：—　備考：—

35　台帳：P23　材質：土師器　器種：杯　残存：100%　法量：口径 14.7，器高 5.4，底径 4.0　色調：外面赤～赤橙～赤褐色。内面赤橙～にぶい橙～黒色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，底部ヘラ削り。底部は凹む。内面口縁～体部上位ヨコナデ，中～下位ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：重い土器。

36　台帳：P27　材質：土師器　器種：杯　残存：100%　法量：口径 14.7，器高 5.5 ～ 5.6，底径 4.1　色調：外面橙～にぶい橙～褐～黒色。内面にぶい橙～褐～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体～底部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：内面にスス状物付着。

37　台帳：P47　材質：土師器　器種：杯　残存：ほぼ 100%　法量：口径 13.8，器高 5.1 ～ 5.8，底径 4.9　色調：外面赤橙～暗赤褐。内面赤橙～橙～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒微）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：口縁端部の一部が欠失し

ている。　備考：—

38　台帳：P51・52　材質：土師器　器種：杯　残存：60％　法量：口径 15.3，器高 6.1　色調：外面橙～にぶい黄橙。内面橙～にぶい黄橙～黒色。　胎土:小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成:良好　技法等:外面口縁部ヨコナデ,体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ？，下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ？　使用痕：—　備考：内外面とも器面が摩滅している。

第 103 図

39　台帳：P 49・50・54・55，Pit2　材質：土師器　器種：杯　残存：80％　法量:口径 12.1，器高 5.9　色調:外面橙～にぶい橙～暗褐～黒色。内面赤橙～橙～黒色。　胎土:小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多，黒少，赤少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

40　台帳：P 50，Pit2　材質：土師器　器種：杯　残存：90％　法量：口径 15.1，器高 5.7 ～ 6.7，底径 4.9　色調：外面赤橙～橙～にぶい橙～黒色。内面赤橙～橙～黒色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少）焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。底部がやや凹む。　使用痕：—　備考：—

41　台帳：P53　材質：土師器　器種：杯　残存：100％　法量：口径 14.5，器高 5.5　色調:内外面橙～にぶい橙～黒色　胎土:礫（白微，灰微，茶微），砂（白多，透多，黒多）　焼成:良好　技法等:外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：内面体部器面の一部が摩滅している。

42　台帳：P28　材質：土師器　器種：杯　残存：100％　法量：口径 11.7 ～ 12.4，器高 4.2 ～ 5.0　色調：外面橙～にぶい褐～黒褐～黒色。内面赤橙～橙～黒褐～黒色。　胎土:礫（白微，茶微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：器形はゆがんでいる。

43　台帳：P29　材質：土師器　器種：杯　残存：100％　法量：口径 14.2，器高 5.5 ～ 6.1，底径 4.1　色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～黒褐色　胎土:礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成:良好　技法等:外面口縁～体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，底部ヘラ削り。内面ヘラナデ･ヘラミガキ。　使用痕:口縁端部がやや摩滅している。　備考:—

44　台帳：P33　材質：土師器　器種：杯　残存：90％　法量：口径 13.5，器高 5.2 ～ 5.8，底径 4.3　色調：外面橙～にぶい橙～褐～黒色。内面橙色。　胎土：小石（白微），礫（白少，灰少），砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。放射状にヘラミガキ。　使用痕：—　備考：口縁端部の一部が欠失している。

45　台帳：P34　材質：土師器　器種：鉢　残存：90％　法量：口径 15.7，器高 7.0，底径 3.9　色調：外面にぶい橙～褐～暗褐～黒色。内面褐～暗褐色。　胎土:礫（白少），砂（白多，透多）　焼成:良好　技法等:外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ,胴部ヘラ削り後ヘラナデ･ヘラミガキ，底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，胴部ヘラナデ・放射状にヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

46　台帳：1 区・Pit2　材質：土師器　器種：杯　残存：10％　法量：口径（14.1），器高（2.7）　色調：外面橙～にぶい橙～黒色。内面にぶい橙～暗褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。

47　台帳：P3，1 区　材質：土師器　器種：杯　残存：10％　法量：口径（15.8），器高（3.6）　色調:内外面とも橙色。　胎土:礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ？。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

48　台帳：1 区・床　材質：土師器　器種：杯　残存：10％　法量：口径（16.8），器高（2.5）　色調:外面橙色。内面黒色。　胎土:礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面ヨコナデ。　使用痕：—　備考：—

49　1 区･4 区　材質:土師器　器種:杯　残存:20％　法量:口径（14.0），器高（5.3）　色調：内外面とも橙～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

50　台帳：P3・42，1 区床　材質：土師器　器種：杯　残存：口縁部～体部上位 60％　法量：口径 16.0，器高（3.4）　色調：内外面とも橙～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

51　台帳：4 区　材質：土師器　器種：杯？　残存：底部 100％　法量：器高（2.0），底径 4.9　色調：外面橙～黒色。内面橙色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

52　台帳：P15，1 区・2 区・床　材質：土師器　器種：杯　残存：90％　法量：口径 12.6，器高 5.5，底径 4.3　色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐～暗褐～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

53　台帳：P26　材質：土師器　器種：杯　残存：60％　法量：口径 10.0，器高 4.0　色調:内外面ともにぶい黄橙～暗褐色。　胎土:小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多，黒少，赤微）　焼成：良好　技法等：外面口縁部～体部中位ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，下位ヘラ削り。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

54　台帳：P43　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 3.5，最大径 3.7，孔径 0.8，重量 46.46g　備考：—

55　台帳：P45　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 3.5，最大径 3.3，孔径 0.5 ～ 0.6，重量 35.92g　備考：—

56　台帳：P14　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 3.8，最大径 3.4，孔径 0.7，重量 45.71g　備考：—

57　台帳：P44　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 4.5，最大径 3.1，孔径 0.6，重量 37.79g　備考：やや円筒形状。

58　台帳：3 区　材質:鉄　種類:刀子？　残存:刀部～茎部片か　法量:長（4.3），最大幅（1.3），最大厚（0.2），重量 4.83g　備考：—

59　台帳：4 区　材質：滑石　種類：双孔円板　法量：長 2.5，幅 2.3，厚 0.3 ～ 0.4，重量 3.85g　色調：灰色　備考：—

60　台帳：S2　材質：軽石　種類：砥石　法量：長 7.2，幅 3.3，厚 4.2，

重量 23.91g　備考：砥面は A の 1 面。

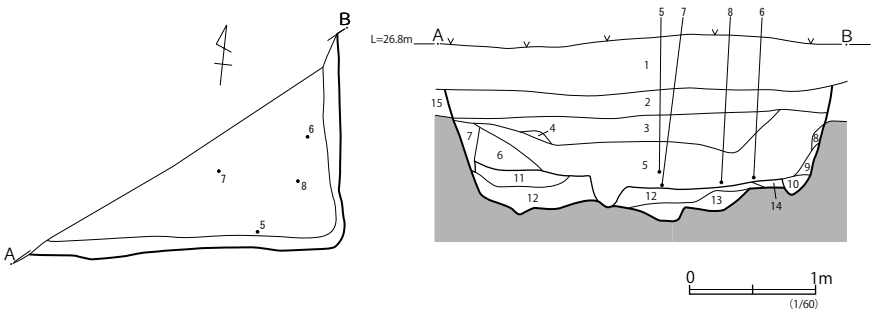
61　台帳：S3　材質：軽石　種類：砥石　法量：長 5.5，幅 4.5，厚 3.5，重量 20.41g　備考：砥面は A・B の 2 面。

第 104 図

1　出土位置：1 住 3 区　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 50％，体部 20％　法量：口径（13.3），器高 4.9，底径（7.3）　色調：灰色。口縁部外面暗灰色。　胎土:礫（白多，灰少，透少），骨針微量　特徴：回転ヘラ切り。底部外面ナデ。焼成：硬質。　備考：木葉下窯産か

2　出土位置：1 住 2 区　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部周縁 20％　法量：底径（9.6）　色調：灰色　胎土：骨針少　特徴：底部外面回転ヘラ削り。焼成：硬質。　備考：木葉下窯産か

3　出土位置：1 住　注記：P46　材質：須恵器　器種：有台坏　残存：底部 20％　法量：高台径（8.9）　色調：灰色　胎土：礫（白），骨針少　特徴：底部外面回転ヘラ削り。　焼成：硬質。　備考：木葉下窯産か




土層説明

2 住 AB 土層断面

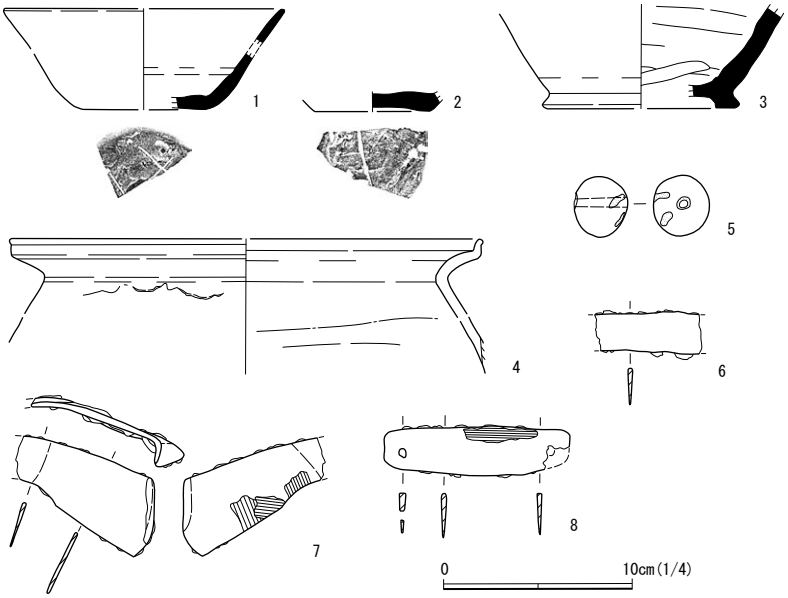
1　暗褐色（表土）
2　暗褐色
3　暗褐色（ローム粒含む）
4　暗褐色
5　暗褐色（ローム小ブロック含む　白褐色粘土小ブロック少量含む）
6　褐色（ローム粒多量含む　白褐色粘土小ブロック少量含む）
7　褐色（ローム粒多量含む）
8　明褐色（ローム土主体）
9　褐色（ローム粒含む）
10　明褐色（ローム粒多量含む）
11　明褐色（白褐色粘土ブロック多量含む　締まり有り）
12　褐色（ロームブロック多量含む　黒色土混じる　締まり有り）
13　黄褐色（ロームブロック主体　締まり有り）
14　褐色（ローム土多量含む　締まり有り）
15　褐色（表土）

**第 105 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 2 号住居跡**

## 第 2 号住居跡

**遺構**　重複する遺構はない。北壁に竈を有するとすれば，当住居跡の主軸方向は，N-6°-W を測る。調査は竪穴南東部のみであるため，住居跡の規模は不明である。壁高は土層断面によると，東壁 0.7 m，南壁 0.6 mを測る。壁周溝・柱穴は認められなかった。覆土は自然埋土を主とするものと思われる。土層断面からみると，深い部分で 0.3m ほどの住居掘形が存在するようである。

**遺物出土状況**　遺物は覆土下層から出土している。穂摘鎌 8 は，刃を上にした状態で床面近くから出土した。




**第 106 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 2 号住居跡出土遺物**

## 遺物説明

第 106 図

1　出土位置：2 住　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 35％，体部下半 25％，口縁部 10％　法量：口径（14.6），器高 5.3，底径（7.6）　色調：灰色　胎土：礫（白少，白透少），骨針少　特徴：底部外面ヘラ記号　備考：木葉下窯産か

2　出土位置：2 住　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 30％　法量：底径（6.0）　色調:灰色　胎土:礫（白多，白透少，灰少）骨針微量　特徴:底部外面手持ちヘラ削り後ヘラ記号。焼成硬質。　備考：木葉下窯産か

3　出土位置：2 住　材質：須恵器　器種：長頸瓶　残存：底部外周 30％　法量：高台径（10.0）　色調：灰色　胎土：礫（白，透少）特徴：内面横方向ナデ。焼成硬質。

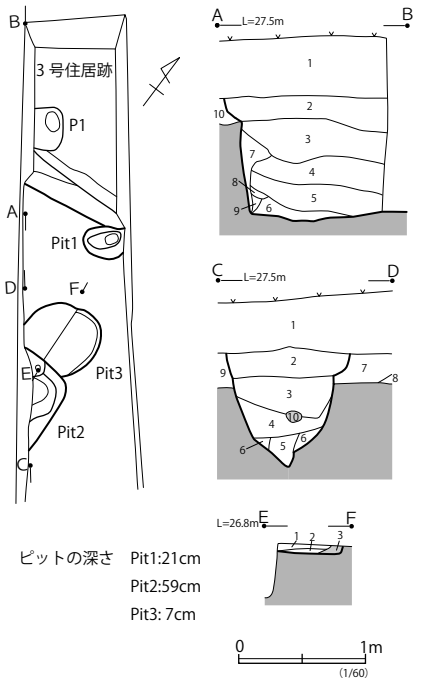
4　出土位置：2 住　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部小片　法量：口径（24.7）　色調:明褐色　胎土:砂（透，白少）　特徴:口縁部ヨコナデ。胴部内面横方向ナデ。

5　出土位置：2 住　注記：P1　材質：土師器　器種：球状土錘　残存：ほぼ完形　法量：長 2.8，幅 3.2，孔径 0.4，重量 27.8g　色調：橙色，一部黒色　胎土：細砂（角閃石やや多）

6　出土位置：2 住　注記：I3　材質：鉄　器種：鎌　残存：刃部　法量：残存長 5.6，幅 2.1，重量 11.2g　特徴：I1 の刃部かと思われる。

7　出土位置：2 住　注記：I1　材質：鉄　器種：鎌　残存：基部　法量：残存長 8.1，幅 3.9，重量 43.9g　特徴：端部上方を折り返す。一部に木が付着する。

8　出土位置：2 住　注記：I2　材質：鉄　器種：穂摘鎌　残存：若干欠失　法量：長 9.8，幅 2.6，重量 21.0g　特徴：両端に孔をもつ。上部中央付近に木質が付着する。




**土層説明**

3 住 AB 土層断面

1 暗褐色（表土）
2 暗褐色
3 暗褐色（ローム粒含む）
4 黒褐色（ロームブロック少量含む）
5 褐色（ローム粒多量含む ローム ブロック含む）
6 暗褐色
7 褐色（ローム粒多量含む）
8 黒褐色
9 褐色（ローム小ブロック多量含む）
10 明褐色（表土）

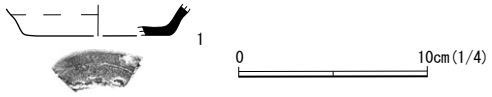
Pit2CD 土層断面

1 褐色（表土）
2 暗褐色
3 暗褐色（ローム粒少量含む）
4 暗褐色（ローム粒・ロームブロック少量含む）
5 暗褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック含む）
6 明褐色（ローム粒主体）
7 明褐色（白褐色粘土粒多量含む 焼土粒少量含む）
8 白褐色粘土
9 明褐色（表土）
10 焼土

Pit3EF 土層断面

1 白褐色粘土
2 明褐色
3 暗褐色

**第 107 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 3 号住居跡**




**第 108 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 3 号住居跡出土遺物**

### 第 3 号住居跡

**遺構**　重複する遺構はない。北壁に竈を有するとすれば，当住居跡の主軸方向は N-8° -W を測る可能性が高い。調査は南壁の一部分にとどまるため，住居跡の規模は不明である。壁高は土層断面によると南壁 0.9 mを測る。壁周溝・柱穴は認められなかった。深さ 12cm ほどの P1 は，位置からみて出入り口ピットになる可能性もあろう。覆土は自然埋土を主とするものと思われる。遺物は住居覆土より少量出土している。

**遺物説明**

第 108 図

1　出土位置:3 住　材質:須恵器　器種:杯　残存:底部外周 20%　法量:底径（7.8）　色調：灰色　胎土：礫（灰少），骨針微量　特徴：焼成硬質　備考：木葉下窯産か

### 第 4 号住居跡

**遺構**　第 4 号土坑・第 5 号土坑と重複する。新旧関係は第 4 号住居跡→第 5 号土坑→第 4 号土坑となる。北壁に竈を有するとすれば，当住居跡の主軸方向は，N-4° -E となる。調査は竪穴南西部のみであるため，住居跡の規模は不明である。，壁高は土層断面によると南壁 0.9 mを測る。床面には浅い壁周溝がめぐる。柱穴は認められなかった。覆土はロームブロックや焼土などからみて人為的埋土を主とするものと思われる。覆土中の焼土層は第 5 層上面に堆積していた。なお土層断面からみると，深い部分で 15cm ほどの住居掘形が存在するようである。遺物は住居覆土より少量出土している。

**遺物説明**

第 110 図

1　台帳:4 住　材質:土師器　器種:杯　残存:10%　法量:口径（12.0），器高（3.5）　色調：内外面とも暗褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面ヨコナデ。内外面とも黒色処理。　使用痕：—　備考：—

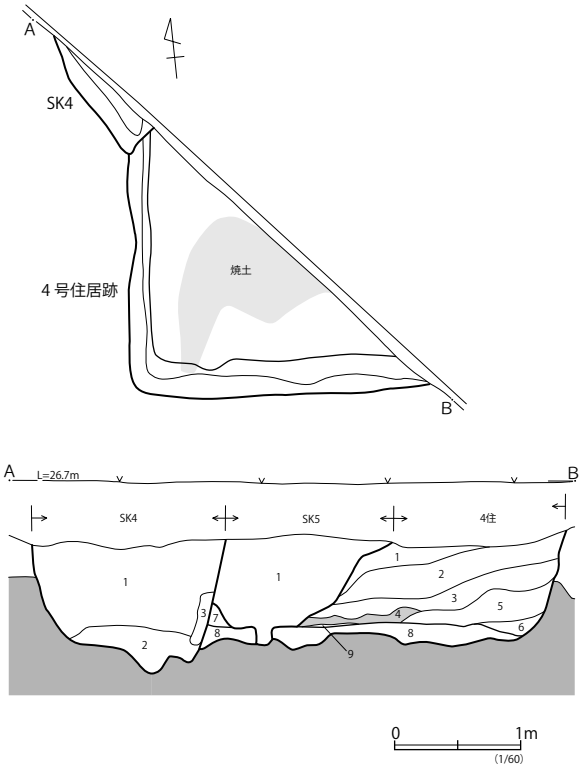
## (3) 土坑

### 第 1 号土坑

第 2 号土坑と重複する。新旧は第 1 号土坑→第 2 号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると 1.0 mを測り，土坑底面は平坦であった。出土遺物は，土師器片が 11 点，須恵器片が 1 点出土した。土師器片は 11 点中 10 点が古墳時代と思われるため，当土坑は古墳時代になる可能性があろう。

### 第 2 号土坑

第 2 号土坑と重複する。新旧は第 1 号土坑→第 2 号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると 0.3 mを測り，土坑底面は平坦であった。出土遺物は，土師器片が 8 点，須恵器片が 6 片がみられる。須恵器が含まれるこ




土層説明

4 住 AB 土層断面

1　褐色（ローム粒やや多量含む）
2　褐色（ローム粒・ローム小ブロック多量含む）
3　褐色（ローム粒やや多量含む）
4　橙色（焼土主体）
5　黒褐色（ローム粒含む）
6　褐色（ローム粒多量含む）
7　明褐色（ロームブロック多量含む）
8　黄褐色（ロームブロックと暗褐色土の混合層　締まり有り　掘形埋土）
9　白（灰主体）

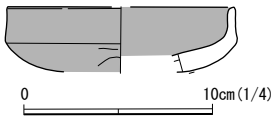
SK4AB 断面

1　黒褐色（ローム粒含む）
2　黒褐色（ローム土混じる）
3　黒褐色（ロームブロック多量含む）

SK5AB 断面

1　暗褐色（ローム粒含む　ロームブロック少量含む）

**第 109 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 4 号住居跡**




**第 110 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 4 号住居跡出土遺物**

とから，当土坑は奈良･平安時代になる可能性があろう。

**第 3 号土坑**

第 4 号ピットと重複する。新旧は第 4 号ピット→第 3 号土坑となる。直径 0.9 m，深さ 0.1 mを測り，土坑底面は平坦であった。出土遺物は，土師器片が 10 点，須恵器片が 1 点，ガラス質滓小片が 1 点出土した。土師器片のなかに，常陸型甕破片が 5 点含まれることからみると，奈良・平安時代になる可能性があろう。

**第 4 号土坑**

第 4 号住居跡，第 5 号土坑と重複する。新旧は第 4 号住居跡→第 5 号土坑→第 4 号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると 0.8 mを測り，土坑底面は凹凸があった。遺物は出土していない。

**第 5 号土坑**

第 4 号住居跡，第 4 号土坑と重複する。新旧は第 4 号住居跡→第 5 号土坑→第 4 号土坑となる。土坑の深さは土層断面によると 0.7 mを測り，土坑底面は凹凸があった。第 4 号住居跡の土層断面で確認された土坑であり，その大部分は調査区外に位置するものと考えられる。遺物は出土していない。

**第 6 号土坑**

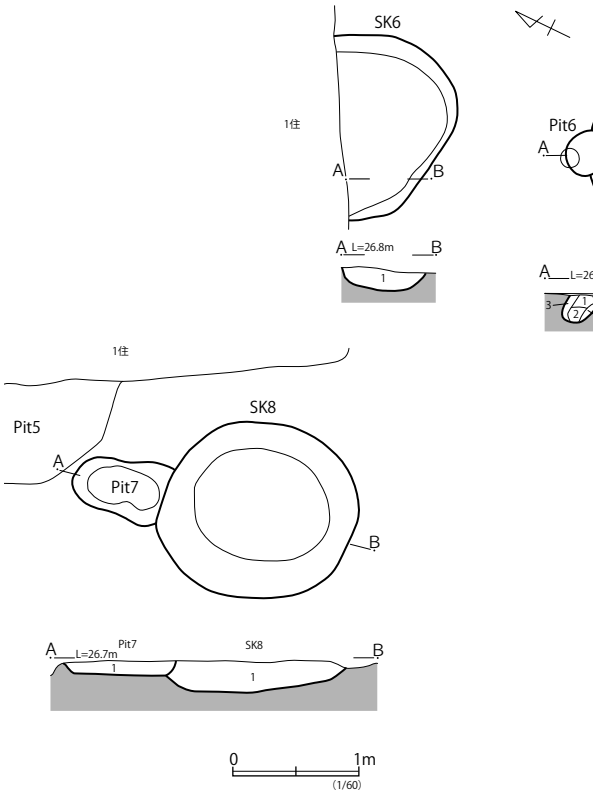
第 1 号住居跡と重複する。新旧は第 1 号住居跡→第 6 号土坑となる。AB 土層断面からみると，平面形は不整形となるようであり，深さは 0.15 mを測る。土坑底面は緩く湾曲する。出土遺物は，土師器片が 15 点，須恵器片が 4 点出土した。須恵器片のなかに 9 世紀代の須恵器杯口縁部片が含まれることからみると，平安時代になる可能性がある。第 1 号住居跡覆土中から出土した平安時代の土器片と関わる遺構であろうか。

**第 7 号土坑**

第 6 号ピットと重複する。新旧は第 6 号ピット→第 7 号土坑となる。直径 1.1 m，深さ 0.15 mを測る円形の土坑であり，土坑底面は緩く湾曲する。出土遺物は，土師器片が 15 点，須恵器片が 6 点出土した。土師器片はほとんどが古墳時代であるが，須恵器片に回転ヘラ切り未調整の須恵器杯底部片が含まれることからみて，奈良・平安時代になる可能性があるのではないだろうか。

**第 8 号土坑**

第 7 号ピットと重複する。新旧は第 8 号土坑→第 7 号ピットとなる。径 1.4 × 1.5 m，深さ 0.25 mを測る円形の土坑であり，土坑底面は緩く湾曲する。出土遺物は，土師器片が 29 点，須恵器片が 8 点出土した。土師器片はほとんどが古墳時代であるが，須恵器片の存在や，第 6・7 号土坑との類似性からみて，奈良・平安時代になる可能性があるのではないだろうか。




土層説明

SK6AB 土層断面

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

SK7AB 土層断面

1　暗褐色（ローム大ブロック少量含む）

SK8AB 土層断面

1　暗褐色（ローム小ブロック少量含む）

Pit6AB 土層断面

1　褐色

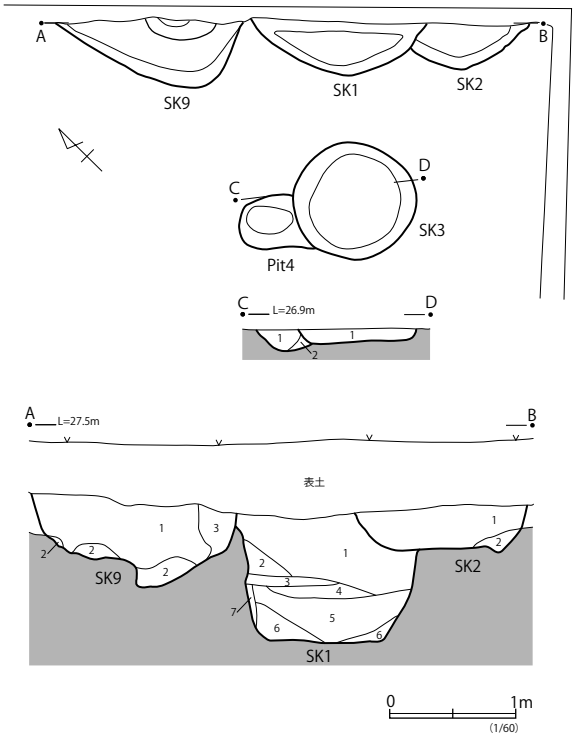
2　明褐色

3　黒褐色（ローム土主体）

Pit7AB 土層断面

1　褐色（ローム粒含む）

**第 111 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区土坑・ピット（1）**




土層説明

SK1AB 土層断面

1　黒褐色（ローム粒含む　ロームブロック少量含む）

2　黒褐色（ローム粒含む）

3　黒褐色（ロームブロック多量含む）

4　黒褐色（ローム粒含む）

5　黒褐色

6　黒褐色（ローム土多量混じる）

7　黒褐色（ローム粒含む）

SK2AB 土層断面

1　暗褐色（ローム粒含む）

2　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

SK3CD 土層断面

1　暗褐色（ローム粒多量含む）

SK9AB 土層断面

1　暗褐色（黒褐色土混じる　ローム粒含む）

2　明褐色（ロームブロックと黒褐色土の混合層）

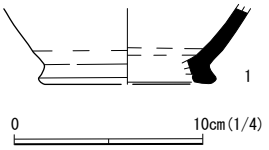
3　褐色（ローム粒少量含む）

Pit4CD 土層断面

1　暗褐色（ローム粒多量含む）

2　明褐色（ローム粒非常に多量含む）

**第 112 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区土坑・ピット（2）**




**第 113 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区土坑出土遺物**

### 第 9 号土坑

重複する遺構はない。土坑の深さは土層断面によると 0.5 mを測り，土坑底面は緩く湾曲し，一部に深い掘り込みがあった。出土遺物は，土師器片が 6 点，須恵器片が 1 点出土した。須恵器片がみられることから，当土坑は奈良・平安時代になる可能性があろう。

### 遺物説明

第 113 図

1　出土位置：8 号土坑　材質：須恵器　器種：長頸瓶　残存：高台部 30%　法量：高台径（8.7）　色調：灰色　胎土：—　特徴：胴部外面回転ヘラ削り。高台接地面摩滅。

## （4）調査区出土遺物

各遺構出土の時期が異なる遺物や，表土出土の遺物である。

### 遺物説明

第 114 図

1　出土位置・注記：表土　時代時期：縄文時代後期（称名寺式）　文様：口縁部刺突文・沈線文，胴部沈線文・単節斜縄文（LR）

2　出土位置・注記：1 住 3 区　時代時期：縄文時代中・後期　文様：単節斜縄文（RL）

3　出土位置・注記：1 住 3 区　時代時期：縄文時代中・後期　文様：単節斜縄文（LR）

4　出土位置・注記：表土　時代時期：縄文時代中・後期　文様：単節斜縄文（RL）

5　出土位置・注記：1 住 2 区　時代時期：縄文時代中・後期　文様：無節斜縄文（R）

6　出土位置・注記：表土　時代時期：縄文時代中・後期　文様：条線文（歯数 5 本以上）

7　出土位置・注記：1 住 3 区　時代時期：弥生時代後期　文様:付加条縄文（LR+R か）

8　出土位置・注記：表土　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：大型壷形土器　文様:付加条縄文（R × R, L-Z）　備考:

胎土に金雲母を含む

第 115 図

1　出土位置：表土　材質：須恵器　器種：杯　残存：体部 40％欠失　法量：口径（13.7），器高 5.4，底径 5.8　色調：明灰色　胎土：小石（灰少），礫（白多，灰多，透）　特徴：回転ヘラ切り。底部外面ヘラ記号「三」。焼成硬質。外面底部周縁および内面口縁部摩滅。　備考：木葉下窯産か

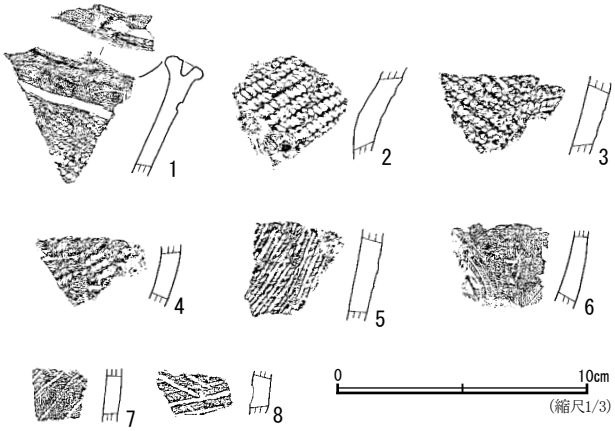
2　出土位置：表土　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部。体部下半 30％　法量：底径 6.3　色調：灰色　胎土：礫（白多，灰），骨針　特徴：底部外面ナデ後ヘラ記号「十」。焼成硬質。外面底部周縁摩滅。　備考：木葉下窯産か

3　出土位置：表土　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 40％　法量：底径（9.1）　色調：黒色　胎土：細砂（透多，白）　特徴：底部外面回転ヘラ削り。火を受けているか。

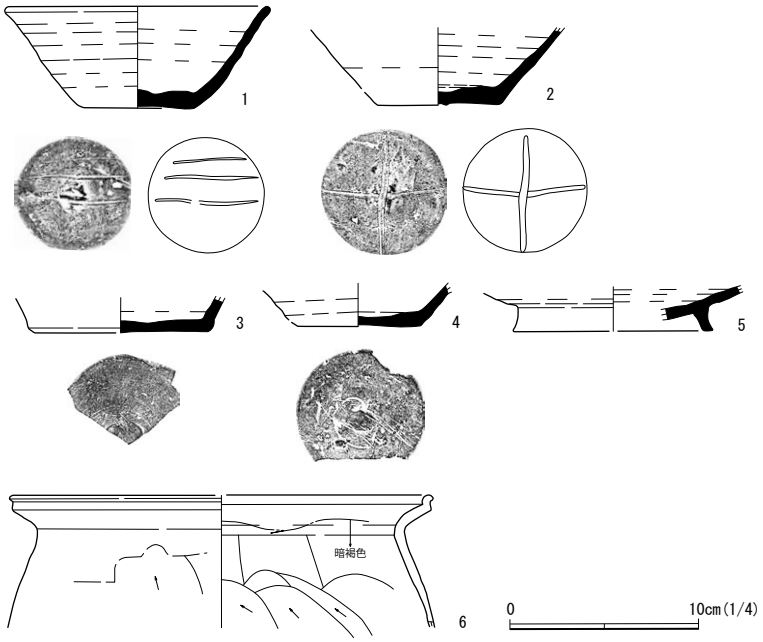
4　出土位置：表土　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 80％　法量：底径 6.5　色調：灰色　胎土：礫（白多，灰），骨針微量　特徴：底部外面の一部を一方向手持ちヘラ削り。焼成硬質。　備考：木葉下窯産か

5　出土位置：表土　材質：須恵器　器種：有台盤　残存：底部外周 30％　法量：高台径（10.5）　色調：灰色　胎土：礫（白），黒色吹き出し　特徴：底部外面回転ヘラ削り。焼成硬質。内面重ね焼き痕（同器種正位重ね焼きか）。高台端部が細かく欠失する。

6　出土位置：表土　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 10％　法量：口径（21.9）　色調：褐色，胴部内面暗褐色　胎土：礫（白少，白透少），砂（透，白）　特徴：口縁部ヨコナデ。胴部外面縦方向ナデ。胴部内面縦方向ナデの後，斜方向ナデ。




**第 114 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区出土遺物（1）**




**第 115 図　市毛上坪遺跡第 19 次調査区出土遺物（2）**

## 2　市毛上坪遺跡第 25 次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛字上坪 1209 番 2（第 98 図）
期間 / 平成 30 年 9 月 26 日～平成 30 年 10 月 18 日
担当 / 佐々木義則　　面積 /116 ㎡
時代 / 弥生・古墳・平安時代
遺構 / 竪穴住居跡 5 基（古墳時代), 溝跡 1 条, 道跡 1 条, 土坑 2 基

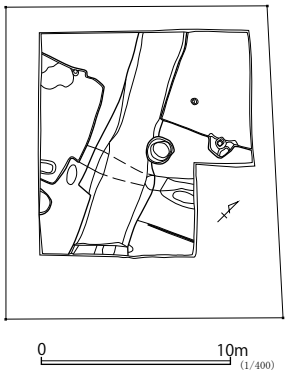
調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺から 150 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり，建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査（第 21 次調査）がなされていたため，遺構配置のおおよその予想はついていたが，試掘時に 2 号住居跡とした部分については，今回の調査によって規模の大きな溝跡であることが判明している。以下，簡単に調査の経過を記す。

9 月 26 日：調査区設定。　10 月 2 ～ 4 日：重機による表土除去。　10 月 3 日：遺構確認，掘り込み開始。図面・写真による記録作業開始。　10 月 10 日：調査区全体図。　10 月 16 日：調査区全体写真。器材撤収。10 月 17 ～ 18 日　重機による埋戻し。

### (2) 住居跡

#### 第 1 号住居跡

**遺構**　第 2B 号住居跡および第 1 号溝跡，第 1 号土坑と重複する。新旧は，第 1 号住居跡→第 2B 号住居跡・第 1 号溝跡・第 1 号土坑となると思われる。当住居跡は硬化した床面の一部を確認したのみであり，住居跡の主軸方向や竪穴部の規模は不明である。炉は不明瞭であるが，第 2B 号住居跡脇の焼土が炉になる可能性がある。遺物は少量出土したが，時期を決定できる遺物はなかった。




**第 116 図　市毛上坪遺跡第 25 次調査区の位置**

#### 第 2A 号住居跡

**遺構**　第 2B 号住居跡および第 1 号道跡と重複する。新旧は，第 2B 号住居跡→第 2A 号住居跡→第 1 号道跡と思われる。当住居跡の主軸方向は，N-26°-W を測り，竈を北壁に置く。竪穴部の規模は，主軸方向が約 4.4 m で，壁高は北壁 10cm，東壁 10cm，南壁 18cm を測る。壁周溝はみられない。ピットは竈脇に深さ 25 ㎝ほどのピット 1 がある。南壁部のピット 2 は第 2B 号住居跡のピットになる可能性もある。床面は竈前から南壁に向けて硬化している。竈は遺存状況が悪いためその構造は不明であるが, 北壁をあまり掘り込んでいないようである。竈焚口に用いられた凝灰質泥岩が竈底面から出土した。

**遺物出土状況**　住居覆土が薄く，床面付近の遺存も少なかった。いずれも破片での出土である。

**遺物説明**

第 119 図

1　台帳：P 6　材質：土師器　器種：鉢　残存：10%　法量：口径（13.2），器高（7.7）　色調：内外面ともにぶい赤褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：外面胴部器面が摩滅している。

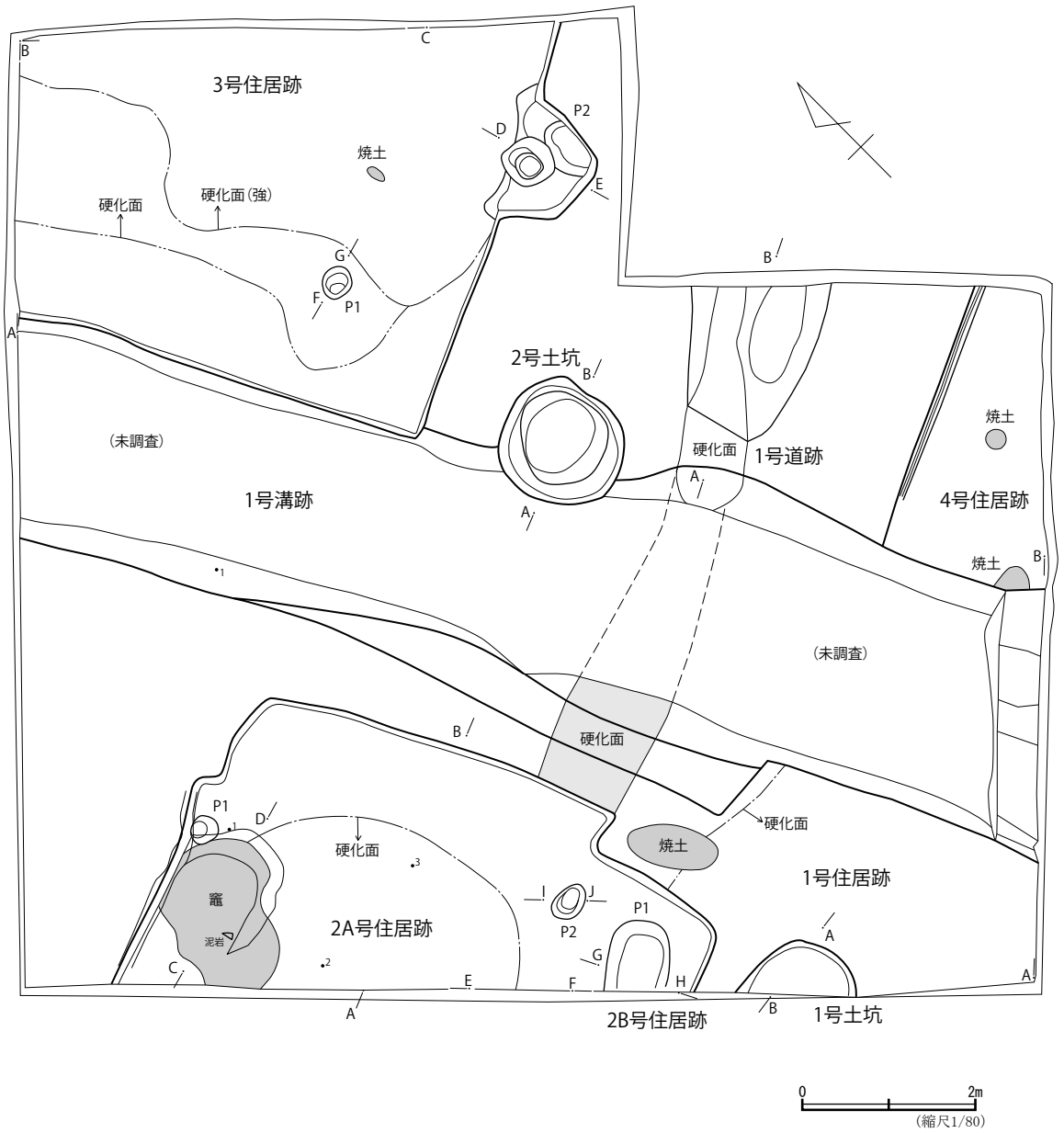
2　台帳：P 3　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部 30%　法量：器高（5.4），底径（16.0）　色調：内外面とも橙～にぶい橙～褐色。　胎土：小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面上～中位ヘラ削り，下位ヨコナデ。内面上～中位ヘラナデ，下位ヨコナデ。　使用痕：—　備考：—

3　台帳：P 2　材質：土師器　器種：杯　残存：40%　法量：口径（13.8），器高 5.4　色調：外面にぶい橙～褐灰色。内面橙～暗褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上～中位ヘラ削り後ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面口縁～体部上位ヨコナデ，中～下位ヘラナデ後放射状にヘラミガキ。　使用痕：—　備考：外面体部器面が摩滅している。

4　台帳：カマド　材質：土師器　器種：杯　残存：20%　法量：口径（11.6），器高（3.9）　色調：外面橙色。内面にぶい赤褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

#### 第 2B 号住居跡

**遺構**　第 1 号住居跡および第 2A 号住居跡と重複する。新旧は，第 1 号住居跡→第 2B 号住居跡→第 2A 号住居




**第 117 図　市毛上坪遺跡第 25 次調査区**

跡と思われる。竪穴部の規模は不明である。壁高は東壁 18cm，南壁 21cm を測る。壁周溝はみられない。ピットは南東隅に長方形で深さ 38 ㎝のピット 1 がある。

**遺物出土状況**　住居覆土が薄く，床面付近の遺存も少なかった。土師器小片が少量出土している。

**第 3 号住居跡**

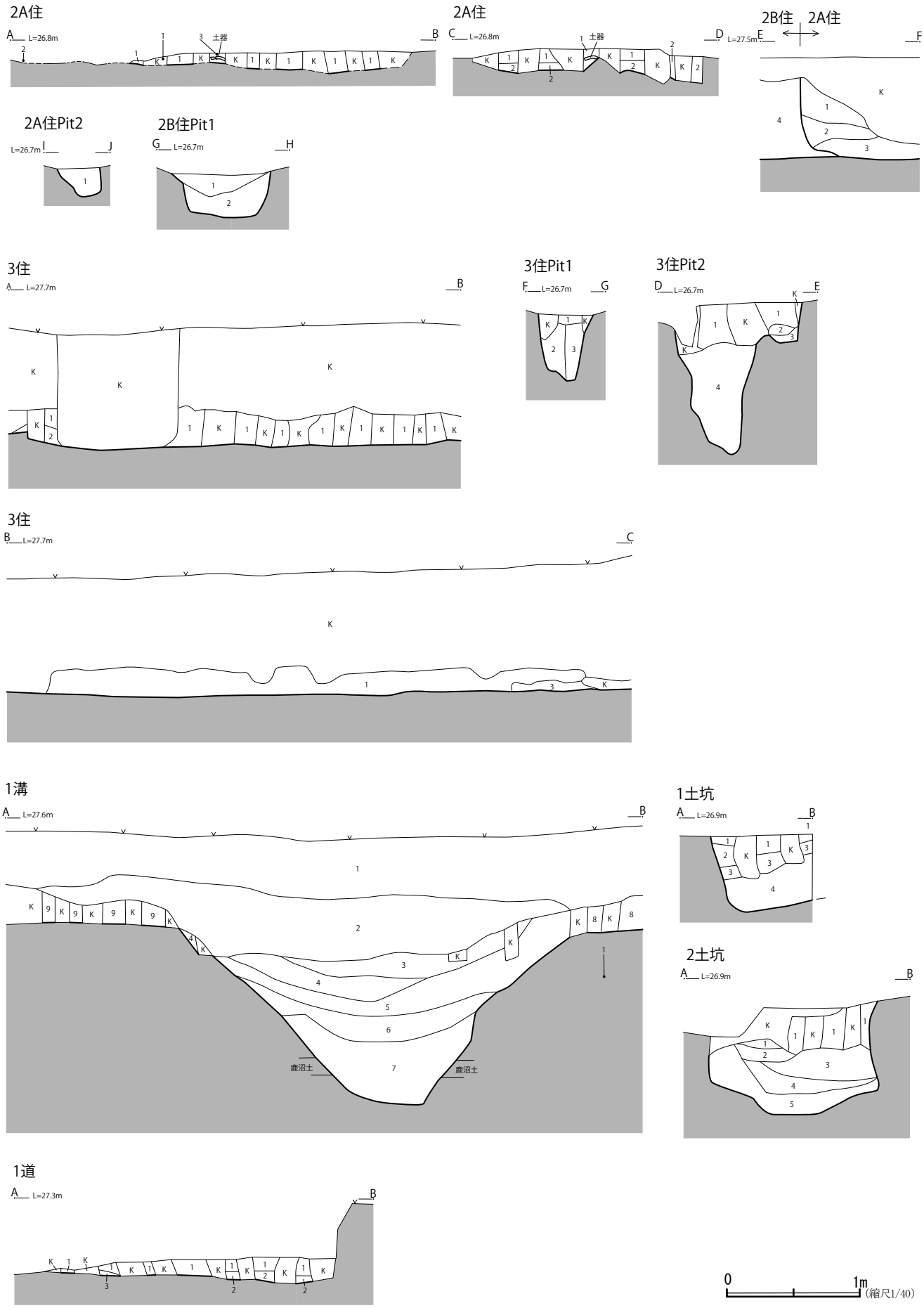
**遺構**　第 1 号溝跡と重複する。新旧は不明である。当住居跡の主軸方向は，北壁に竈を想定すると N－28°－W を測る。竪穴部の規模は不明であるが，南北 6 m以上，東西 5 m以上の規模となる。壁高は南壁 21cm を測る。壁周溝はみられない。ピットは，主柱穴と思われる深さ 50 ㎝ほどのピット 1 のほか，南壁部から張り出して掘り込まれた半円形のピット 2 が存在する。ピット 2 内部には床面からの深さ約 1 mを測る柱穴上のピットが掘り込まれていた。床面はピット 2 から北壁方向に向けて硬化していた。床面の一部に焼土が認められているが，炭化材の出土が少量みられたことからみて，当住居跡は火事にあっているものと考えられる。

**遺物出土状況**　住居覆土が薄く，床面付近の遺存も少なかった。いずれも破片での出土である。

**遺物説明**

第 119 図

1　台帳：3 住　材質：土師器　器種：甑　残存：把手　法量：—　色調：外面にぶい黄橙～黒色。内面橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ・ユビナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：




**第 118 図　市毛上坪遺跡第 25 次調査区の土層断面**

— 備考：—

2　台帳：3 住　材質：土師器　器種：杯　残存：10%　法量：口径（13.8），器高（4.2）　色調：外面浅黄～暗褐色。内面黒褐色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラナデ。内面ヘラミガキ。内面に黒色処理。　使用痕：—　備考：—

3　台帳：3 住　材質：土師質　器種：土錘　法量：長 3.2，最大径 3.5，孔径 0.7，重量 42.22 g　備考：—

4　台帳：3 住 Pit2　材質：土師質　器種：土錘　法量：長 3.3，最大径 3.4，孔径 0.5，重量 27.87g　備考：—

**第 4 号住居跡**

**遺構**　第 1 号溝跡と重複する。新旧は，第 4 号住居跡→第 1 号溝跡である。当住居跡は一部を確認したのみであるため住居跡の主軸方向や規模は不明である。北壁の壁高は 2cm ほどであり，壁周溝が認められている。床面の焼土からみて火事にあっていると考えられる。遺物は出土していない。

**市毛上坪遺跡第 25 次調査区土層説明**

**2A・B 号住居跡**

AB 土層断面
1　暗褐色（ローム粒多量含む）

CD 土層断面
1　褐色（白褐色粘土多量含む　焼土粒含む）
2　黄褐色（ローム土主体）

EF 土層断面
1　暗褐色（ローム小ブロック含む）
2　暗褐色（ローム粒少量含む）
3　暗褐色（ローム粒多量含む　暗褐色ブロック土・ローム粒含む）
4　暗褐色（ローム小ブロックやや多量含む　ローム粒含む）

GH 土層断面
1　褐色（ローム粒含む）
2　黄褐色（ローム小ブロック主体　褐色土少量含む）

IJ 土層断面
1　暗褐色（ロームブロック・ローム小ブロック含む）

**3 号住居跡**

AB・BC 土層断面
1　褐色（ローム粒多量含む　ローム小ブロック・焼土粒含む
　　ロームブロック少量含む）
2　明褐色（ロームブロック多量含む）
3　褐色（白褐色粘土ブロック多量含む　炭化材少量含む
　　焼土粒・ロームブロック少量含む）

DE 土層断面
1　褐色（ロームブロック少量含む　ローム小ブロック含む）
2　黄褐色（ローム土主体）
3　明褐色（ローム小ブロック多量含む）
4　褐色（ロームブロック多量含む）

FG 土層断面
1　明褐色（ローム小ブロック多量含む　締まり有り）
2　褐色（ローム粒多量含む　締まり無し）
3　明褐色（ローム小ブロック多量含む）

**1 号溝跡**

AB 土層断面
1　暗褐色（耕作土）
2　暗褐色（ローム粒含む　耕作に伴う掘削部か（天地返しによる？）
3　暗褐色（ローム小ブロック多量含む）
4　暗褐色（ロームブロック多量含む）
5　暗褐色（ロームブロック多量含む　ローム大ブロック含む
　　黒褐色土混じる）
6　暗褐色（ローム小ブロック多量含む　やや締まり有り）
7　暗褐色（ロームブロック多量含む　パミスブロック少量含む
　　やや締まり有り）
8　黒褐色
9　黒褐色（ローム粒含む　1 住フク土）

**1 号道跡**

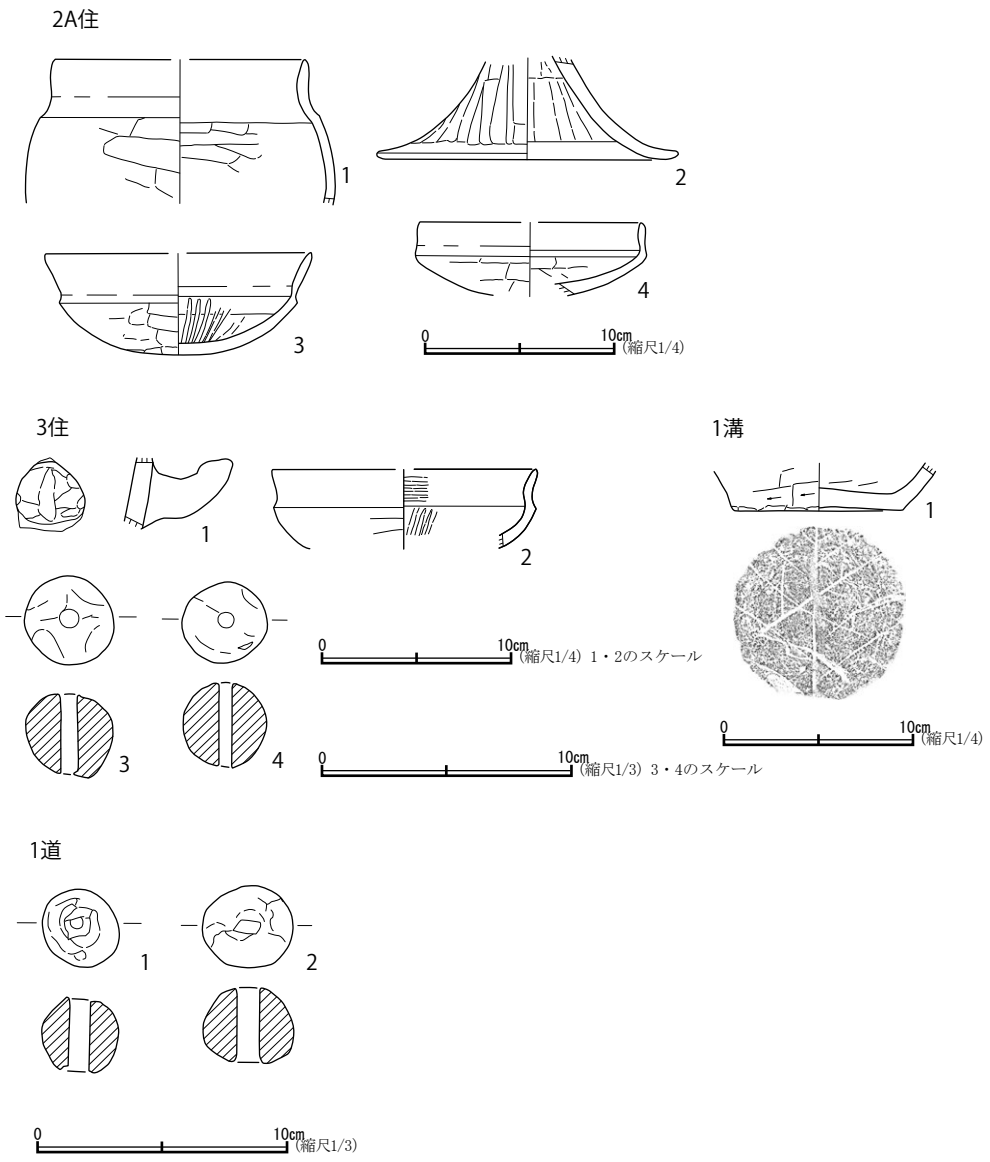
AB 土層断面
1　暗褐色（ローム粒含む）
2　明褐色（ローム粒多量含む　ローム小ブロック含む）
3　暗褐色（ロームブロック含む　締まり有り）

**1 号土坑**

AB 土層断面
1　褐色（ローム粒多量含む）
2　明褐色（ローム小ブロック含む　暗褐色土混じる）
3　黄褐色（ローム小ブロック主体　暗褐色土混じる）
4　黄褐色（ローム小ブロック主体　暗褐色土少量混じる）

**2 号土坑**

AB 土層断面
1　褐色（ローム粒多量含む）
2　明褐色（ローム小ブロック多量含む）
3　褐色（ローム小ブロック多量含む）
4　褐色（ローム小ブロック多量含む　第 3 層より暗色）
5　黄褐色（ロームブロック主体）




**第 119 図　市毛上坪遺跡第 25 次調査区出土遺物（1）**

### （3）溝跡

#### 第 1 号溝跡

調査区を南北に縦断する断面Ｖ字形の溝である。確認面幅最大 3.6 m，地表からの深さ 2.0 mを測る。Ａ Ｂ土層断面の第 5 層の堆積状況からみると，東方から流れ込んだように見えるので，溝の東側に盛土があったのかもしれない。なお，時期を決定できる遺物がなかったため，当溝の時期は不明である。

#### 遺物説明

第 119 図

1　台帳：Ｐ 2　材質：土師器　器種：甕？　残存：底部 100％　法量：器高 (2.5), 底径 8.9　色調:外面浅黄～黒色。内面浅黄色。　胎土:礫（白微），砂（白多，透多，黒多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り，底面木葉痕。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：内面器面の一部が剥離している。

### （4）道跡

#### 第 1 号道跡

硬化面の状況からみて，第 1 号溝跡を東西に横切るように認められた。硬化面の幅は広い部分で 1.1 m ほどを測る。第 1 号溝跡の壁面にも硬化部が続くことから，第 1 号溝跡がある程度埋まった時点で道が造られたといえそうである。道跡の東端部には深さ 24cm ほどの浅いくぼみが形成されており，硬化面はその中に延びていた。なお時期を決定できる遺物がないため，道跡の時期は不明である。

#### 遺物説明

第 119 図

1　台帳：1 道　材質：土師質　器種:土錘　法量:長 2.9, 最大径 3.1, 孔径 0.7 ～ 1.0，重量 24.12g　備考：―

2　台帳：1 道　材質：土師質　器種:土錘　法量:長 2.9, 最大径 3.5, 孔径 0.6 ～ 1.0，重量 33.72g　備考：―

### （5）土坑

#### 第 1 号土坑

第 1 号住居跡と重複する。新旧は第 1 号住居跡→第 1 号土坑となる。直径 1.1 m，深さ 0.5 mを測り，やや傾斜を持つ平坦な床面であった。平面形状は円形になる可能性がある。時期は不明である。

#### 第 2 号土坑

第 1 号溝跡と重複する。新旧は不明である。直径 1.4 m，深さ 0.8 mを測り，周辺部がやや高くなる床面であった。平面形状は円形である。時期は不明である。

### (6) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や，表土から出土した遺物である。

#### 遺物説明

第 120 図

1　出土位置・注記：2A 住　時代時期：縄文時代前期（繊維土器）　文様：単節斜縄文（RL）備考：胎土に繊維を含む

2　出土位置・注記：1 溝　時代時期：縄文時代後期（称名寺式）　文様：沈線文，単節斜縄文（LR カ）

3　出土位置・注記：1 溝　時代時期：縄文時代後期　文様：無節斜縄文（L）

4　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：平行沈線文（半截竹管）

5　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R）

6　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+R）

7　出土位置・注記：1 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R）

8　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R）

9　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R）

10　出土位置・注記：1 溝　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R）

11　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R）

12　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+R）

13　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+R）

14　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代中期　文様：単節斜縄文（LR）

15　出土位置・注記：3 住 pit2　時代時期：弥生時代中期　文様：単節斜縄文（RL）

16　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代中期　文様：反撚り縄文（RR）

17　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（R-Z）

18　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（l-Z カ）

19　出土位置・注記：表土　時代時期：弥生時代中期　文様：単節斜縄文（RL）

20　出土位置・注記：2A 住　時代時期：弥生時代中期　法量：底径 76 ㎜（残存率 48％）　文様：反撚り縄文（RR）カ，底面布目痕

21　出土位置・注記：1 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R），底面調整痕

22　出土位置・注記：2A 住　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（LR+2R），底面布目痕

23　出土位置・注記：表土　時代時期：弥生時代後期カ　法量：底径 68 ㎜（残存率 16％）　文様：縄文（原体不明），底面木葉痕

24　出土位置・注記：表土　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　法量：頸径 100 ㎜（残存率 23％）　文様：口縁部櫛描文，頸部隆帯 3 条（指頭押圧），胴上部櫛描文（櫛歯 6 本）　備考：器外面に煤付着

25　出土位置・注記：1 溝　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：口唇部刻み（箆状工具），口縁部櫛描文（櫛歯 3 本）　備考：器内面剥落

26　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：口唇部刻み（箆状工具），口縁部櫛描文（櫛歯 4 本）

27　出土位置・注記：2A 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：口唇部突起・刻み（箆状工具），口縁部櫛描文（櫛歯 6 本）

28　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：口唇部縄文（L × L カ），口縁部櫛描文（櫛歯 5 本）　備考：胎土に金雲母を含む，口縁部櫛描文の施文順序は波状文→縦区画

29　出土位置・注記：1 溝　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：口唇部刻み（箆状工具），口縁部櫛描文（櫛歯 4 本）

30　出土位置・注記：1 溝　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：頸部隆帯（指頭押圧），櫛描文（櫛歯 4 本）

31　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 6 本）　備考：胎土に金雲母を含む

32　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 6 本）

33　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文

34　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 5 本）　備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形

35　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 5 本）

36　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 5 本）　備考：器外面に煤付着

37　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 5 本）

38　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 6 本）　備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形

39　出土位置・注記：3 住 pit2　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 6 本）　備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形，器内面剥落

40　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 6 本カ）

41　出土位置・注記：1 溝　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：櫛描文（櫛歯 6 本カ）

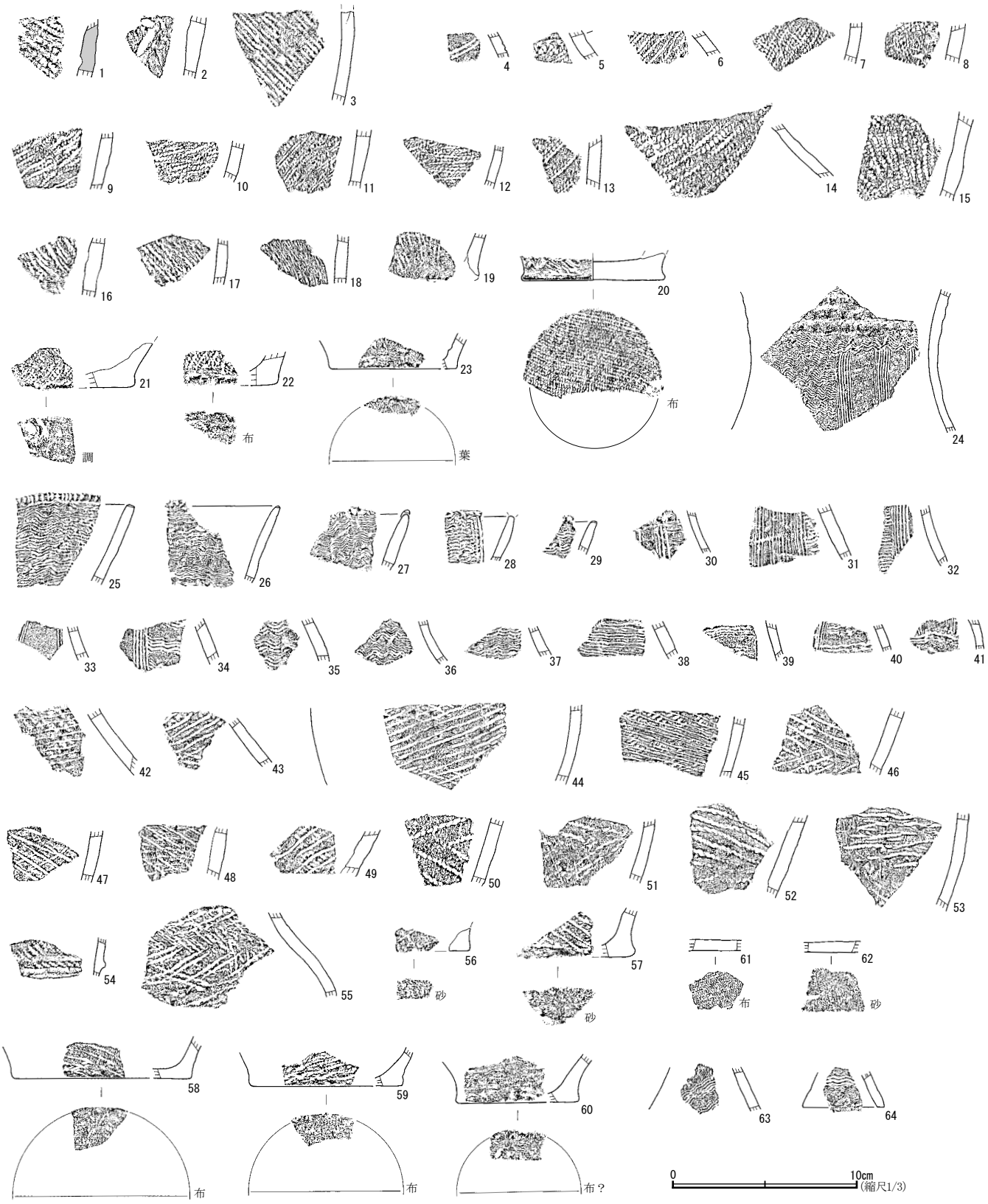
42　出土位置・注記：3 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：付加条縄文（R × L）　備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形

43　出土位置・注記：1 溝　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：付加条縄文（R × R，L-Z）

44　出土位置・注記：2A 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　法量：胴径 145 ㎜（残存率 14％）　文様：付加条縄文（R-S，L-Z）　備考：器外面に煤付着

45　出土位置・注記：2A・B 住　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：付加条縄文（L × L）　備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形

46　出土位置・注記：表土　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　文様：




**第 120 図　市毛上坪遺跡第 25 次調査区出土遺物 (2)**

付加条縄文（L × L，R × R） 備考：大型壷形，器内面剥落

47 出土位置・注記：1 溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（R-S，L-Z）

48 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（RL+L，R-S） 備考：大型壷形，器内面剥落

49 出土位置・注記：2A・B 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（R × R） 備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形，器内面剥落

50 出土位置・注記：2A・B 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（R-S，L-Z）

51 出土位置・注記：1 道 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（R-Z，L-S）

52 出土位置・注記：2A・B 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（L-Z，R-S） 備考：器内面剥落あり

53 出土位置・注記：1 溝 時代時期：弥生時代後期 文様：付加条縄文（L-S，R-Z） 備考：胎土に骨針を含む，器外面に煤付着，器内面変色

54 出土位置・注記：1 溝 時代時期：弥生時代後期 文様：隆帯（RL），単節斜縄文（RL）

55 出土位置・注記：2A 住 P7 時代時期：弥生時代後期 文様：付加条縄文（R-Z，2R-S） 備考：器外面に煤付着，器内面の下部が変色

56 出土位置・注記：3 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（L-Z），底面砂痕 備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形，器内面剥落

57 出土位置・注記：1 溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（L × L），底面砂痕 備考：胎土に金雲母を含む，大型壷形

58 出土位置・注記：3 住 pit2 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 法量：底径 96 ㎜（残存率 10％） 文様：付加条縄文（L × L），底面布目痕 備考：器内面変色あり

59 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 法量：底径 82 ㎜（残存率 14％） 文様：付加条縄文（R-S），底面布目痕

60 出土位置・注記：1 溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 法量：底径 66 ㎜（残存率 17％） 文様：付加条縄文（R-S），底面布目痕カ

61 出土位置・注記：1 道 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：底面布目痕

62 出土位置・注記：3 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：底面砂痕 備考：胎土に金雲母を含む

63 出土位置・注記：3 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：高坏形土器（あるいは小型細頸形壷形土器か） 法量：最大径 60 ㎜（残存率 13％の部分から推定） 文様：櫛描文（櫛歯 6 本）

64 出土位置・注記：3 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：高坏形土器 法量：脚裾径 44 ㎜（残存率 12％） 文様：櫛描文（櫛歯 4 本）

1　岡田遺跡第 31 次調査区

2　岡田遺跡第 32・33 次調査区

3　岡田遺跡第 34 次調査区

4　小貫山遺跡第 2 次調査区

5　上馬場遺跡第 5 次調査区

6　地蔵根遺跡第 3 次調査区

7　遠原遺跡第 4 次調査区

8　遠原遺跡第 5 次調査区

9　遠原遺跡第 5 次調査区 1 号住居跡遺物出土状況

10　平磯長堀南遺跡第 2 次調査区

11　市毛上坪遺跡第 20 次調査区

図版 2　試掘調査（2）

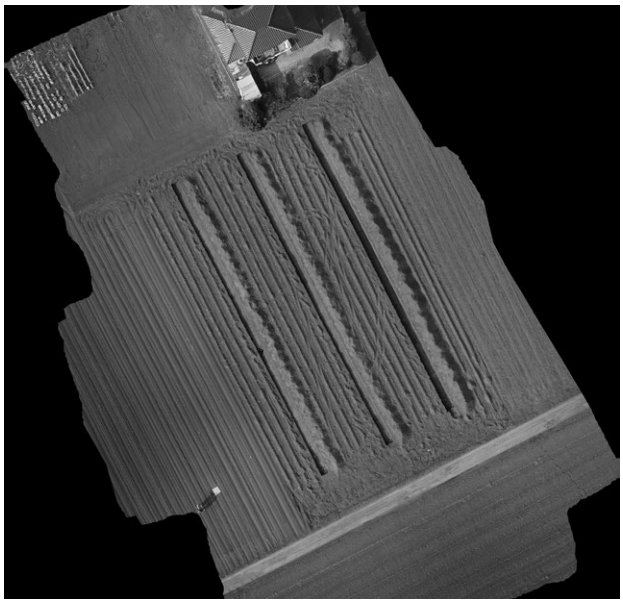
12　市毛上坪遺跡第 21 次調査区

13　市毛上坪遺跡第 22 次調査区

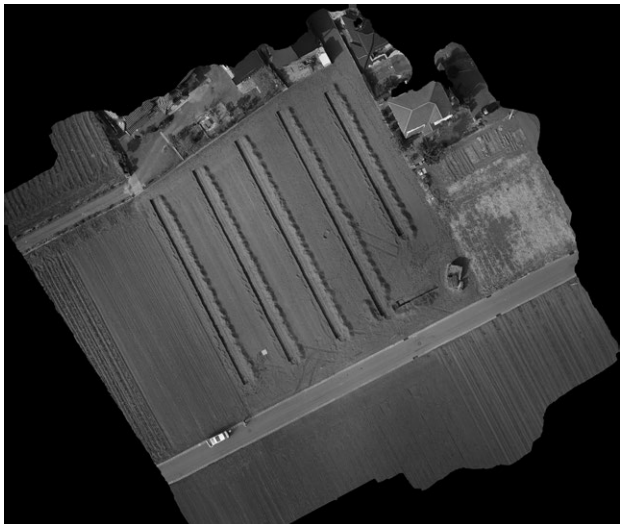
14　市毛上坪遺跡第 23 次調査区

15　市毛上坪遺跡第 24 次調査区

16　虎塚古墳群第 12 次調査 A 区

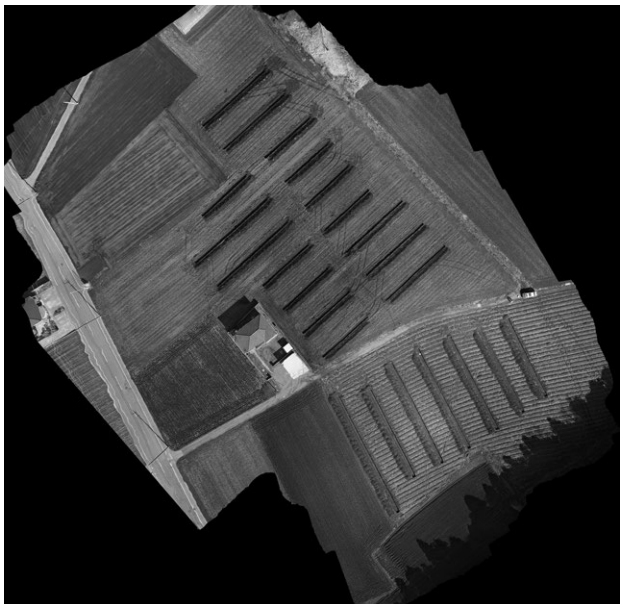


17　虎塚古墳群第 12 次調査 B 区

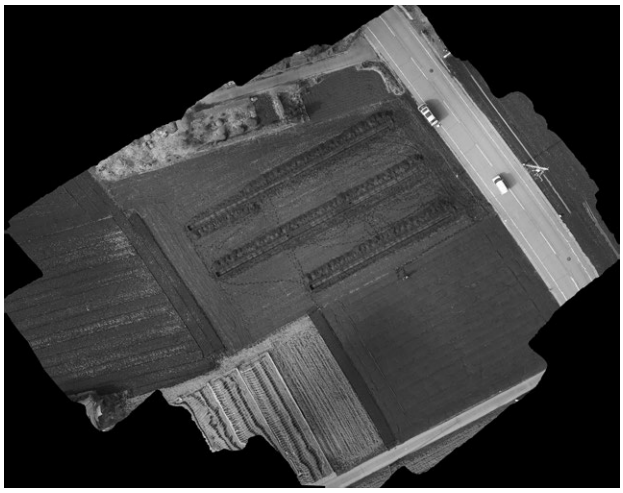


18　虎塚古墳群第 12 次調査 C 区

19　北谷遺跡第 3 次調査 A 区・B 区



20　中根北谷北遺跡第 2 次調査 A 区



21　中根北谷北遺跡第 2 次調査 B 区

22　高野冨士山遺跡第 12 次調査区

23　磯合古墳群第 4 次調査区

24　浅井内遺跡第 2 次調査区

25　浅井内遺跡第 3 次調査区

26　天王前遺跡第 6 次調査区

27　天王前遺跡第 7 次調査区

28　向野 A 遺跡第 5 次調査区 1・2 トレンチ

図版 4　試掘調査（4）

29　向野 A 遺跡第 5 次調査区 3・4 トレンチ

30　黒袴遺跡第 7 次調査区

31　峪遺跡第 1 次調査区

32　市毛本郷坪遺跡第 9 次調査区

33　西塙遺跡第 12 次調査区

34　君ヶ台遺跡第 12 次調査区

35　君ヶ台遺跡第 13 次調査区

36　原の寺遺跡第 1 次調査区

37　堀口遺跡第 29 次調査区

38　市毛下坪遺跡第 14 次調査区

39　市毛下坪遺跡第 15 次調査区

40　市毛下坪遺跡第 16 次調査区

41　市毛下坪遺跡第 17 次調査区

42　松原遺跡第 6 次調査区

43　田宮原Ⅰ遺跡第 1 次調査区

44　市毛上坪遺跡第 19 次調査区

45　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡

46　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡隅部床面遺物出土状況

47　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡ピット 2 遺物出土状況

48　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 2 号住居跡

図版 6　発掘調査（2）

49　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 4 号住居跡

50　市毛上坪遺跡第 19 次調査区第 7 号土坑

51　市毛上坪遺跡第 25 次調査区

52　市毛上坪遺跡第 25 次調査区第 2A 号住居跡

53　市毛上坪遺跡第 25 次調査区第 3 号住居跡

54　市毛上坪遺跡第 25 次調査区第 4 号住居跡

55　市毛上坪遺跡第 25 次調査区第 1 号溝跡

56　市毛上坪遺跡第 25 次調査区第 2 号土坑

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| **フリガナ** | ヘイセイサンジュウネンドヒタチナカシナイイセキハックツチョウサホウコクショ |
| **書名** | 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| **編集者名** | 佐々木義則 |
| **著者名** | 鈴木素行，稲田健一，佐々木義則 |
| **編集機関** | 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課文化財調査事務所 |
| **編集機関所在地** | 茨城県ひたちなか市大字中根 3499　ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内 |
| **発行機関** | ひたちなか市教育委員会 |
| **発行機関所在地** | 茨城県ひたちなか市東石川 2 丁目 10 番 1 号 |
| **発行年** | 2019 年 3 月 14 日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 標高 | 調査期間 | 面積 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | | |
| オカダ<br>岡田 | ひたちなか市<br>三反田 | 08221 | 039 | 36° 22′ 5″ | 140° 32′ 33″ | 21.7m | 201801 | 29 ㎡ | 31 次 |
| | | | | 36° 22′ 8″ | 140° 32′ 25″ | 22.0m | 201805 | 25 ㎡ | 32 次 |
| | | | | 36° 22′ 8″ | 140° 32′ 25″ | 22.0m | 201805 | 25 ㎡ | 33 次 |
| | | | | 36° 22′ 11″ | 140° 32′ 33″ | 22.0m | 201810 | 21 ㎡ | 34 次 |
| オヌキヤマ<br>小貫山 | ひたちなか市<br>高野 | 08221 | 064 | 36° 26′ 7″ | 140° 32′ 43″ | 31.9m | 201801 | 32 ㎡ | 2 次 |
| カミババ<br>上馬場 | ひたちなか市<br>津田 | 08221 | 053 | 36° 23′ 59″ | 140° 29′ 37″ | 27.0m | 201801 | 24 ㎡ | 5 次 |
| ジゾウネ<br>地蔵根 | ひたちなか市<br>勝倉 | 08221 | 119 | 36° 22′ 41″ | 140° 31′ 50″ | 22.5m | 201802 | 27 ㎡ | 3 次 |
| | | | | 36° 22′ 40″ | 140° 31′ 49″ | 23.1m | 201811 | 54 ㎡ | 4 次 |
| トオバラ<br>遠原 | ひたちなか市<br>金上 | 08221 | 034 | 36° 22′ 40″ | 140° 32′ 29″ | 16.5m | 201802 ～<br>201803 | 59 ㎡ | 4 次 |
| | | | | 36° 22′ 39″ | 140° 32′ 34″ | 12.2m | 201805 | 98 ㎡ | 5 次 |
| ヒライソナガホリミナミ<br>平磯長堀南 | ひたちなか市<br>平磯町 | 08221 | 307 | 36° 21′ 46″ | 140° 36′ 50″ | 22.3m | 201803 | 25 ㎡ | 2 次 |
| イチゲカミツボ<br>市毛上坪 | ひたちなか市<br>市毛 | 08221 | 131 | 36° 23′ 49″ | 140° 29′ 59″ | 27.5m | 201801 ～<br>201802 | 91 ㎡ | 19 次 |
| | | | | 36° 23′ 53″ | 140° 29′ 52″ | 27.0m | 201803 | 14 ㎡ | 20 次 |
| | | | | 36° 23′ 53″ | 140° 29′ 52″ | 27.0m | 201805 | 26 ㎡ | 21 次 |
| | | | | 36° 23′ 52″ | 140° 29′ 53″ | 27.2m | 201806 | 18 ㎡ | 22 次 |
| | | | | 36° 23′ 53″ | 140° 29′ 52″ | 27.0m | 201808 | 18 ㎡ | 23 次 |
| | | | | 36° 23′ 49″ | 140° 29′ 58″ | 27.5m | 201808 | 23 ㎡ | 24 次 |
| | | | | 36° 23′ 53″ | 140° 29′ 52″ | 27.0m | 201809 ～<br>201810 | 116 ㎡ | 25 次 |
| トラヅカコフンゲン<br>虎塚古墳群<br>キタヤ<br>北谷<br>ナカネキタヤキタ<br>中根北谷北 | ひたちなか市<br>中根 | 08221 | 023<br>273<br>274 | 36° 22′ 30″<br>36° 22′ 44″<br>36° 22′ 53″ | 140° 34′ 4″<br>140° 33′ 59″<br>140° 33′ 57″ | 20.9m<br>22.4m<br>23.1m | 201712 ～<br>201803 | 833 ㎡<br>240 ㎡<br>877 ㎡ | 12 次<br>3 次<br>2 次 |
| コウヤフジヤマ<br>高野冨士山 | ひたちなか市<br>高野 | 08221 | 062 | 36° 25′ 47″ | 140° 33′ 13″ | 31.8m | 201804 | 40 ㎡ | 12 次 |
| イソアイコフンゲン<br>磯合古墳群 | ひたちなか市<br>磯崎町 | 08221 | 241 | 36° 22′ 35″ | 140° 37′ 21″ | 24.1m | 201804 | 95 ㎡ | 4 次 |
| アサイナイ<br>浅井内 | ひたちなか市<br>浅井内 | 08221 | 299 | 36° 20′ 59″ | 140° 36′ 1″ | 24.2m | 201804 | 42 ㎡ | 2 次 |
| | | | | 36° 21′ 0″ | 140° 36′ 1″ | 24.3m | 201806 | 45 ㎡ | 3 次 |
| テンノウマエ<br>天王前 | ひたちなか市<br>三反田 | 08221 | 104 | 36° 21′ 59″ | 140° 33′ 29″ | 20.2m | 201805 | 50 ㎡ | 6 次 |
| | | | | 36° 22′ 00″ | 140° 33′ 30″ | 20.5m | 201809 | 45 ㎡ | 7 次 |
| ムカイノエー<br>向野 A | ひたちなか市<br>馬渡 | 08221 | 148 | 36° 24′ 16″ | 140° 33′ 40″ | 31.7m | 201806 | 52 ㎡ | 5 次 |
| クロバカマ<br>黒袴 | ひたちなか市<br>津田 | 08221 | 007 | 36° 24′ 21″ | 140° 29′ 6″ | 26.7m | 201806 | 25 ㎡ | 7 次 |
| ハザマ<br>峪 | ひたちなか市<br>三反田 | 08221 | 107 | 36° 22′ 13″ | 140° 33′ 5″ | 18.6m | 201806 | 114 ㎡ | 1 次 |
| イチゲホンゴウツボ<br>市毛本郷坪 | ひたちなか市<br>市毛 | 08221 | 133 | 36° 23′ 39″ | 140° 30′ 16″ | 26.3m | 201807 | 89 ㎡ | 9 次 |
| ニシハナワ<br>西塙 | ひたちなか市<br>武田 | 08221 | 125 | 36° 23′ 15″ | 140° 31′ 2″ | 22.3m | 201807 | 10 ㎡ | 12 次 |
| キミガダイ<br>君ヶ台 | ひたちなか市<br>中根 | 08221 | 011 | 36° 23′ 15″ | 140° 33′ 32″ | 24.1m | 201807 | 45 ㎡ | 12 次 |
| | | | | 36° 23′ 16″ | 140° 33′ 36″ | 23.7m | 201810 ～<br>201811 | 20 ㎡ | 13 次 |
| ハラノテラ<br>原の寺 | ひたちなか市<br>足崎 | 08221 | 181 | 36° 25′ 7″ | 140° 34′ 3″ | 31.3m | 201808 | 26 ㎡ | 1 次 |
| ホリグチ<br>堀口 | ひたちなか市<br>堀口 | 08221 | 004 | 36° 23′ 28″ | 140° 30′ 37″ | 25.7m | 201809 | 108 ㎡ | 29 次 |
| イチゲシモツボ<br>市毛下坪 | ひたちなか市<br>市毛 | 08221 | 130 | 36° 23′ 32″ | 140° 30′ 21″ | 26.4m | 201810 | 69 ㎡ | 14 次 |
| | | | | 36° 23′ 32″ | 140° 30′ 16″ | 25.9m | 201812 | 26 ㎡ | 15 次 |
| | | | | 36° 23′ 33″ | 140° 30′ 16″ | 26.0m | 201812 | 22 ㎡ | 16 次 |
| | | | | 36° 23′ 32″ | 140° 30′ 16″ | 26.2m | 201812 | 19 ㎡ | 17 次 |
| マツバラ<br>松原 | ひたちなか市<br>田彦 | 08221 | 037 | 36° 24′ 38″ | 140° 30′ 49″ | 27.1m | 201811 | 49 ㎡ | 6 次 |
| タミヤハライチ<br>田宮原 I | ひたちなか市<br>田宮原 | 08221 | 201 | 36° 21′ 30″ | 140° 35′ 27″ | 23.0 m | 201811 | 24 ㎡ | 1 次 |

# 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

平成 31（2019）年 3 月 14 日発行

編　集　　公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発　行　　ひたちなか市教育委員会

〒 312-8501　茨城県ひたちなか市東石川 2 丁目 10 番 1 号

TEL　029-273-0111

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒 312-0011　茨城県ひたちなか市中根 3499

TEL　029-276-8311

印　刷　　弘美印刷株式会社

〒 312-0062　茨城県ひたちなか市高場 2577-1

再生紙及び植物油インクを
使用しています。